

一四 日英同盟協約更新ニ関スル交渉一件 九〇三

者 Wade ハ排日感情加奈陀全般ニ彌漫シ東部ハ西部ヨリ
惡シト稱ヘ更新ニ対シ強硬ニ反対スベキ旨ヲ宣伝シ居ル由
ナリ

聯盟総会帝國代表ヘ転電セリ

九〇三 十二月三十日

在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日英同盟ノ更新ニ関シテハ自治領政府ト協議
ノ上ニ非ザレバ何等措置ヲ執ラズト英首相下
院ニ於テ答弁ノ件

第一一〇三号

(十二月三十一日接受)

一一四二

本使發在米大使宛電報貴大臣御參考迄ニ転電ス
第四四四号

貴電第五〇三号ニ関シ十二月二十三日閉院日ノ当日下院ニ
於テ日英同盟ノ更新ニ関シテハ明年六月開カルベキ英帝國
會議ニ於テ日米間ノ海軍競争ノ事実ヲモ併セ考慮シタル後
ニ非ザレバ何等措置ヲ執ラザルコトヲ約スベキヤノ質問ニ
対シ首相ハ日英同盟ノ更新ニ関シテハ屬領政府ト協議ノ上
ニ非ザレバ何等措置ヲ執ラザルコトニ政府ニ於テ既ニ決定
済ナリト答ヘタルヲ誤報セルモノナリ(三十日)

事項一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件

九〇四 一月九日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

伊國政府ハ同國軍ノシベリア撤退ニ伴ヒ鐵道
特別委員會ヨリ同國委員ヲ脱退セシムル旨声
明シタル件

第二二号

(一月十日接受)

一月九日鐵道特別委員會ニ於テ伊國委員ハ今回伊國軍隊西
比利亞ヨリ撤退スルニ付伊國政府ハ西比利亞鐵道監督ニ參
加スルコトヲ止メ本委員會及其附屬各部ヨリ委員ヲ脱退セ
シムルコトニ決定セル旨声明セリ同委員ハ次回ヨリ出席セ
ザルコトトナリタリ米國委員ハ往電第一〇号ノ声明ヲナセ
ルニ付本官ハ本件ニ関シ米國軍司令官ハ日本軍憲及他ノ軍
憲ト充分ノ協議ヲ遂ゲ以テ鐵道ヲ危險ニ曝露セシメザル様
処置セラレンコトヲ切ニ希望スル旨ヲ述べ米國委員ハ米軍
司令官ニ伝フベキ旨答ヘタリ
米國委員ハ更ニ往電第八号「イルクーツク」ニ於ケル聯合
代表者會議ノ決議ニ対スル自己竝ニ「スチーヴンス」電報
ノ次第ヲ報告セリ米國側ニ於テハ事實上「イルクーツク」

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九〇四

九〇五

一一四三

方面ニ於テ技術部員ガ如何トモ手ノ着ケ様ナキヲ承知シ居
ルモ一応ノ相談モ無カリシヲ不快トシ反對ノ態度ヲ執リ居
レリ將來鐵道監督拋棄ノ場合ニ於ケル(脱)軍事輸送部長
ヨリモ亦本件ニ関シ自己ニ相談無ク決定シタルコトヲ不当
トシ本委員會宛抗議ヲ申出デタリ「チェック」仏蘭西代表
者ハ頻リニ弁護セルモ既ニ各國政府ニ請訓セル以上何等ノ
決議ヲナサザルコトトセリ
加藤大使、古沢、佐々木、大村ヘ転電セリ

九〇五 一月十六日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

セメノフ其管理区域内ニ於テ一時最高執政權
ヲ行使スベキ旨發表ノ件

第三一号

(一月十七日接受)

當司令部ニ達シタル情報ニ拠レハ「セメノフ」統領ハ「コ
ルチャック」トノ聯絡絶エ當分回復ノ見込ナク「イルクー
ツク」事件以來極東ノ人心動揺甚シキニ顧ミ「コルチャッ
ク」ト聯絡シ得ル迄一時管理区域内ニ於テ最高執政權ヲ行

使スヘキ旨一月十日附ヲ以テ同十五日発表シタル由ナリ
右不取敢

九〇六 一月十七日 在ハルビン佐々木總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

セメノフガイルクーツク以東露領ノ主權一時
掌握竝ホルワット東支鐵道附屬地帶主權ノ一
時掌握ノ件

第二四号 (一月十八日接受)

「イルクーツク」ニ於ケル動乱ノ結果露国政府トノ連絡断
絶セル為「アタマン、セメノフ」ハ一月十日附ヲ以テ右連
絡再開ヲ得ル迄一時管下即チ「イルクーツク」以東露領ニ
於ケル国家主權全部ヲ掌握シ直接行政ノ衝ニ当ラシムル為
軍政ハ給養本部長「アフアナセフ」少将ニ民政ハ「ザバイ
カル」州長官「タスキン」ニ任命スルノ命令ヲ發シ各地ニ
電報ヲ以テ公布シタルガ「ホルワット」將軍ハ一月十四日
附ヲ以テ東支鐵道附屬地帶露人ニ對シ命令ヲ發シ同地帶露
国国家主權ハ最高統裁官ト連絡ヲトリ得ル迄一時總テ同將
軍ニ帰セル旨ヲ公布シ尚同地帶ノ主權ハ支那ニ属シ居ルヲ
以テ沿線ノ露国住民ノ生活竝ニ外国領土ニ於ケル露国企業

帶ニ於ケル露国民ニ對シ国家的全權ヲ保持スル旨十四日附
ヲ以テ布告セル趣又右布告中特ニ鐵道契約ニ言及シ同地方
ノ主權ハ支那ニアルコト鐵道ノ成績ハ露支人民ノ協調ニ依
ル可キコト等ヲ述ベ居ル旨軍司令部ニ通報アリタリ

元來「ホルワット」ハ日本ノ彼ニ与ヘタル援助ニ對シ感謝
シ居ルモ客年極東大官免職當時日本ノ自己ニ對スル同情ノ
薄クナリタルコトヲ感シタルモノノ如ク其後我軍憲始メ各
方面ヨリ彼ガ親米或ハ親支ニ傾ケリ等ノ感ヲ懷キ漸ク彼ヲ
疎ンズル傾キアリ之等モ「ホ」ニ於テ充分看破シ居ル可ク
而シテ今回彼ガ予テヨリ嫌忌シ居レル「セメノフ」ガ国家
的全權ヲ宣言セル為單ニ感情上彼ノ指揮下ニ入ルコトヲ好
マザルノミナラズ「セメノフ」ガ或ハ自己ヲ排斥シ或ハ東
支鐵道ニ對シテ不當ノ要求ヲ為サンコトヲ虞レ防衛上独立
ヲ宣告シタルモノト思ハル而シテ最モ恐ルベキハ彼ガ今回
ノ挙及今後ノ活動ニ関シ他ノ露国人ト同ジク全然日本側ノ
援助ニ抛ルモノト疑ヒ居ルベキコトニシテ若シ然ラバ彼ノ
独立宣言ニ就テハ將來東支ノ權利擁護ニ對シテハ当然其ノ
援助ヲ他ノ方面ニ求メザルベカラザルコトニアリ此ノ点ニ
於テ支那又ハ米國ノ援助ヲ求ムル惧ナシトセズ依テ我方ニ

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九〇八

タル東支鐵道ノ事業ハ露支兩國国民ノ親善ナル關係ヲ持スル
ニヨリテノミ實現シ得ベキモノナルコトヲ注意セリ而シテ
「ホルワット」將軍ハ東支鐵道機關紙記者トノ會談ニ於テ
「セメノフ」及「ロザノフ」トノ關係ニ言及シテ自分ト兩
將軍トノ關係ハ仇敵ノ如ク云フ者アルモ自分ハ何等ノ敵意
ヲ有セズ露國ノ為ニ尽スモノニ對シテハ常ニ援助ヲ惜マザ
ルモノナリ然レドモ自分ハ東支鐵道ノ理事長トシテ東支鉄
道ニ他人ノ干渉スルハ断ジテ許サズトノ意ヲ語レリ
右在支公使、松平へ転電シ加藤大使へ通報セリ

九〇七 一月十九日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ホルワットヲ日本側ニ引付ケ置ク必要アルニ
付同人ト懇談ノ為ハルビン出張ノ儀追認方稟
請ノ件

第三六号 (二月二十日接受)

往電第三一號「セメノフ」ガ突然最高執政權(脱)ヲ為シ
タルハ目下ノ政況及昨今露国民ヨリ日本ガ誤解ヲ受ケン
トシツアル情況ニ鑑ミ尚早ノ嫌アルガ「ホルワット」ハ右
ニ對シ一月十七日最高執政官トノ聯絡通ズル迄東支沿線一

於テハ此ノ際右ノ誤解ヲ解クノミナラズ万一「セメノフ」
ニシテ前記ノ如キ不當ノ態度ニ出ヅルニ於テハ日本側ニ於
テハ「ホルワット」及東支ヲ保護スベキコトヲ約シ以テ彼
ニ充分ノ安心ヲ与ヘ依然彼ヲシテ日本側ニ引附ケ置クコト
東支鐵道ニ對スル我將來ノ立場ノ為絶對的ニ必要ナリト信
ズルニ付本官ハ從來交誼アル關係ニ顧ミ至急哈爾濱ニ出張
シ「ホ」ト腹藏無キ意見ノ交換ヲ為シ出来得ベクムバ東支
線將來ノ処分問題ニ付從來哈爾濱方面ニ伝ヘラレタル風説
(支那又ハ米國ニ譲ラル等ノ)ニ對シ仮令非公式ニテモ或
程度迄之ヲ防グベキ保障ヲ彼ヨリ得ルコトニ努メントス加
藤大使当地通過ハ未ダ決定セザルニ付一般政況ニ関シ同大
使ト打合セ旁々渡辺領事同伴右出張ノ儀御追認ヲ請フ
軍司令官承認済

九〇八 一月二十日 在仏國松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道ヲ仏國政府ノ保護下ニ置ク様露亜銀
行ヨリ要請アリシトノ報道ニ付報告ノ件

第一二二号 (二月二十二日接受)
「ノエウツチ」ガ上田ニ語ル所左ノ通り

支那政府ハ東清鐵道ニ関シ露支條約ヲ破棄スルノ要望ヲ表示シタルヲ以テ同鐵道ニ関シ事実上露國政府ノ代表者タルト同時ニ露國側ニ於テ同鐵道会社ノ株主タル露亞銀行ハ東清鐵道ヲ仏國政府ノ保護ノ下ニ置クヲ必要トシテ此ノ事ヲ同政府ニ請願セリ之ト同時ニ東支鐵道会社ノ増資ヲ行ヒ新株ヲ發行シテ同鐵道会社ニ加入セル仏國会社側ニ其新株ヲ持タシムルコトナリ其結果本月十七日仏國政府ハ在北京仏國公使ニ訓電シ任國政府ニ適當ノ通告ヲ与ヘシメタリト云フ右ハ果シテ事実ナリヤ追テ確ムル積リナルモ御參考迄

九〇九 一月二十九日 在本邦中国臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

東支鐵道区域内露國ノ統治權行使ニ関スルホルワットノ告示ヲ中国政府ハ承認セザル旨日

本政府ヘ通告ノ件

外庚字第七号

(一月三十一日接受)

敬啓者本月二十六日准北京外交部電称准東省鐵路督辦來電内開霍爾瓦特擅以中東鐵路界内總長官名義出示布告内有中東鐵路界内俄民之國家統治權完全担负等語查中東鐵路關係中国領土主權霍爾瓦特此舉逾越範圍亟應向協約各國聲明以

ヲ希フ

- (一)東清鐵道ハ全ク中国領土ニ属シ同時ニ一領土權ノ下ニ管理セラルヘク第二國家カ其統治權ヲ施行スルヲ容サス
- (二)「ホルワット」ノ職務ハ鐵路坐辦(常任重役)タリ鐵道職員ノ資格ヲ以テ断シテ國家統治ノ權能ヲ負担セス
- (三)鐵路公司ノ契約ニ照シ露國員及沿線居留ノ内外人民ハ中國ヨリ完全ニ保護スルノ責任ヲ負フ等ノ趣申越シ來候間此段御照會申進候(末文省略)

九一〇 二月二日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ホルワットノ東支鐵道附屬地帯ニ對スル露國ノ統治權行使ノ布告ニ對シ中国政府ハ嚴重抗議シタル旨同政府ヨリ通知越ノ件

第一二四号

(二月四日接受)

哈爾濱發貴大臣宛第二四号「ホルワット」ノ布告ニ関シ一月二十七日支那政府ハ公文ヲ以テ(一)東支鐵道ハ全然支那領土内ニ存シ他國家ノ統治權ノ併立ヲ許サザルコト(二)「ホル」ハ該鐵道ノ理事長トシテ一職員タルニ止マリ統治權行使ノ權限無キコト(三)東支鐵道ニ関スル露支兩國間ノ契約ニ依レ

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九一〇

免誤會除由本部照會駐京各使外希向該國政府聲明三端(一)中東鐵路全属中国領土同時管一領土權之下不容有第二國家施行其統治權(二)霍爾瓦特職務為鐵路坐辦以鐵路職員資格斷無担负國家統治之權能(三)按照鐵路公司合同俄員及沿線僑居中外人民由中国負完全保護之責等因准此理合備文照會請煩查照為荷玆本代理公使對於貴大臣特表敬意謹具

中華民國九年一月二十九日

中華民國臨時代理公使 莊璟珂(印)

外務大臣子爵 内田康哉 閣下

(右和訳文) (註 日本外務省作成ノ仮訳文)

以書翰致啓上候陳者本月二十六日北京外交部ノ來電ニ接スルニ東三省鐵路督辦ノ電報ニ云ク「ホルワット」ハ擅ニ東清鐵道区域内總長官ノ名義ヲ以テ告示シタルガ其文内ニ東清鐵道区域内露民ノ國家統治權ヲ完全ニ負担ス等ノ語アリ按スルニ東清鐵道ハ中国ノ領土主權ニ關係シ「ホルワット」ノ此舉ハ範圍ヲ逾越セリ速ニ協約各國ニ向テ聲明シ以テ誤解ヲ免ルヘキモノナレハ本部ヨリ北京駐在各國公使ニ照會スルノ外該國政府ニ向テ左ノ三項ヲ聲明セラレシコト

バ從業員タル露國人及附屬地内居住ノ内外人ニ對シテハ支那ニ於テ其ノ保護ノ責ヲ負フベキモノナリト聲明シ該鐵道督辦ヨリ「ホル」ニ對シ其ノ越權ノ措置ニ付嚴重抗議シタル旨通知シ來タレリ尤モ右ハ他ノ公使ヘモ同様通知シタルモノノ如シ

松平長春哈爾濱ヘ転電セリ

九一一 二月二日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

在シベリア米國鐵道從業員ノ撤退延期ニ関スル件

第四八号 (二月三日接受)

本官哈爾濱滞在中「スチーヴンス」ト會見シタル際米國鐵道從業員撤退時期ニ関シ尋ネタル処「ス」氏ハ未ダ確定セザルモ「チエック」軍大部分ノ輸送完了後ナル可シト答ヘタルニ付本官ハ然ラバ少クモ二、三ヶ月後ト成ル可シト述ベタル処多分左様ナル可シト答ヘタリ又帰浦後「スミス」ニ尋ネタル処四月以前ニハ撤退六ヶ數カル可シト答ヘタルガ右綜合スルニ米國鐵道從業員撤退ハ暫ク延期セラレタルモノト思ハル

九一一

哈爾濱及「チタ」へ転電セリ

註 スミスハ米国鐵道委員

九一二 二月三日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道売渡ノ風説ヲ否定スルホルワットノ

書翰ニ付報告ノ件

第五四号

(二月四日接受)

本官「ホルワット」会见ニ関シ其後「ホ」ハ一月二十六日書翰ヲ以テ大要左ノ通り申越シタリ口頭ニテ述べタル所ト多少異ル点アルモ大体ニ於テ彼ガ東支地方ニ於ケル露国主權行使中同鐵道ヲ処分スル如キ意思無キコト明白ナリト思考ス

東支鐵道売渡ニ関スル風説ニ関シ貴下ガ何等ノ注意ヲ払ハレザルコトヲ確信スルモ将来本件ニ関シ疑念ヲ表示スル者ニ対シ貴下ガ決定の返答ヲ与ヘラルル為自分ガ鐵道ヲ管理セシ以来終始支那政府ト会社トノ間ニ締結セル約款違反ノ挙ニ出デザルト同時ニ何人ヲシテモ是ガ違反ヲ許サザルコトニ全力ヲ尽シ来リタルコトヲ宣明ス尚露国紊亂ノ結果同國政府及会社株主等ノ不在セル為小生ハ本露国企業ニ対シ

発セサル由ナリ

(二) 鮑督軍ハ一月三十一日鐵道沿線露国民ニ対シ左ノ布告ヲ発セリ

本督軍ハ鐵道ノ守備沿線露国人ノ生命財産ノ保護鐵道附屬地内ノ秩序維持ノ責ニ任スヘシ露国人ハ安ンシテ其ノ職業ニ従事スヘシ秩序ヲ紊ルモノハ法ニ依リ処罰スヘシ
公使政務部長へ転電済ミ

九一四 二月四日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

イルクーツク方面ノチェック軍輸送促進ノ為

鐵道特別委員会ヨリスミスヲ派遣スル旨ノ決

議ニ付報告及請訓ノ件

第五七号

(二月五日接受)

本官哈爾濱出張後「ヂヤナン」ハ「イルクーツク」方面「チェック」輸送甚ダ困難ナルヲ以テ特別委員会及技術部ヨリ現場ニ於テ諸般ノ事項ヲ決定シ得ベキ全權ヲ有スル委員各一名ヲ至急同將軍ノ許ニ派遣アリタキ旨要求シ来リ一月三十日特別委員会ニ於テ全会一致ヲ以テ之ヲ可決シ「スミス」ニ全權ヲ与ヘテ至急派遣スルコトヲ決議セリ然ルニ

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九一四

責任アル保管者ノ地位ニ立ツ者ナルニ付本鐵道ガ露國政府及企業主ノ顛覆シタル日ニ本官ニ委任セラレタル状態ニ於テ本鐵道ヲ真ノ持主ニ引渡スヲ以テ自己ノ事務ト心得居ルモノナリ云々

註 本件ホルワット來翰邦訳文ニ付テハ後掲九二六文書附屬書參照

九一三 二月三日

在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道沿線地帯ニ対スルホルワットノ統治

權行使ヲ否認スル鮑吉林督軍ノ措置ニ付報告

ノ件

第九五号

(二月四日接受)

往電第二四号ニ関シ

(一) 「ホルワット」將軍ノ宣言ニ対シ一月二十四日鮑督軍ヨリ同將軍ニ宛東支鐵道ハ中國ノ領土ニシテ他國統治權ノ施行ヲ許サス且同將軍ハ鐵道職員ニシテ統治ノ權能ヲ有セス鐵道職員露国人及沿線在留内外人ハ中國ニ於テ之ヲ保護スヘク他人ノ容喙ヲ許サストノ趣旨ノ抗議ヲ提出シタル旨道尹ヨリ通知アリタル処右抗議ニ対シ「ホ」ハ今日迄回答ヲ

本官歸任後二月二日特別會議ニ於テ「スミス」ニ与フベキ全權委任狀ノ案ヲ審議セルガ本官ハ「チェック」輸送ニ関シテハ日本側ニ於テモ極力努力シ居ルガ元來本委員會ノ性質ハ鐵道改良ニ関スル政治上比較的重要ナル事項ヲ議スベキモノニシテ從テ其ノ決議ハ合議ニ依リ決スルコトナリ居ルニ拘ラズ一委員ニ全權ヲ与ヘ委員會ト独立シテ一地方ニ止マラシムルコトハ甚ダシキ変態ナルヲ以テ本官ハ右委任狀ニ署名スル前政府ニ請訓ノ要アル旨ヲ述べタル処種々議論アリタルガ右日本政府ノ訓令到達迄本件ノ実行ヲ延期スルコトナリタルガ本官ハ米国側其ノ他ノ誤解ヲ防グ為「スミス」「ブルゴフ」等ニハ人ニ對スル問題ニハアラズシテ主義ノ問題ナル旨充分説明シ置キタルガ本四日「チェック」仏、英、支代表者ノ希望ニヨリ更ニ會議ヲ開キ「ギルサ」ハ「イルクーツク」方面ニ於ケル「チェック」輸送状態ノ窮狀ヲ訴ヘ是非共速ニ「スミス」ノ出張ヲ実行セシメラレタキ旨ヲ述べ本官ハ「スミス」ガ直チニ出發シテ出來得ル限り援助ヲ与フルコトハ何等異議ナキモ全權委任ノ文書ニ署名スル時ハ形式上如何ナル処置ニテモ本委員ハ(脱)拘束シ又本國政府ニ義務ヲ負ハシムルコトト

ナルヲ以テ一応請訓ノ必要アルニ付不取敢斯ノ如キ形式ヲ踏マズシテ当委員会ヨリ出張シ出来得ル限り現場ニ於テ援助ヲ与ヘ極メテ重大ナル事件ニ関シテハ予メ本委員会ノ承認ヲ得ルコトトセバ實際ニハ何等差支ナカル可シト主張シ結局右ノ如ク決議シ「スミス」ハ二月六日「チタ」ニ向フコトトナレリ尚「スミス」ハ本官ニ向ヒ「ヂヤナン」ガ余リニ狂ヒ居ルニ付之ヲ落着カシムルコトヲ努ムル積リニシテ決シテ專斷ノ事ヲ為サズ専ラ星野中將其他各方面ト協議ノ上処置スベク殊ニ本官ニハ何事モ電信ニテ相談スベキニ付安心アリ度キ旨内話セリ尚日本政府ニ於テ若シ異議無キニ於テハ後ヨリ全權ノ委任ヲ為スコトトナリ居ルニ付本件ニ関シ何分ノ儀至急御指示ヲ請フ

九一五 二月五日 内田外務大臣ヨリ
在本邦中国臨時代理公使宛

東支鐵道区域ニ於ケル露國ノ統治權行使ニ関
スルホルワット告示問題ニ対シ回答ノ件

政一機密送第二号

以書翰致啓上候陳者本大臣ハ最近「ホルワット」將軍カ東支鐵道区域内総長官ノ名ニ於テ告示ヲ發シタル件ニ關聯ス

其守備兵ヲ増加シ附屬地内ノ秩序維持ニ全力ヲ尽シ居ルヲ以テ日本軍撤兵スルトモ社会党一派ハ東支鐵道沿線ニ於テ俄ニ事ヲ挙クルコト能ハサルヘク是レ「ホルワット」ノ心強キ点ナルヘシト思考ス

二、一月十四日ノ予ノ宣言ハ当地ニ強固ノ権力樹立セラレス民衆ヲシテ適從スル所ヲ知ラサシメンコトヲ恐レ東支鐵道附屬地内ニハ旧制ヲ維持スヘキ旨ヲ声明シタルモノニテ其文言ニ徴スルモ支那ノ主權ニ新タナル影響ヲ及ホスモノトスルハ支那側ノ誤解ナリ故ニ鮑督軍ノ近々哈爾濱ニ來ルヲ俟テ諒解ヲ求ムル所存ナリ（以下省略）

九一七 二月十日 浦潮軍參謀長ヨリ
福田參謀次長宛（電報）

東支鐵道困窮ノ現状並中国及米國ノ同鐵道ニ
対スル野心ニ鑑ミ我方ノ執ルベキ対策ニ付意

見具申ノ件

浦參謀第一三八号 （二月十三日外務省接受）

西伯利時局觀其十三東支鐵道

与國間ニ締結セラレアル西伯利鐵道管理ノ協約ハ撤兵ト共ニ消滅スルモノナルヲ以テ今ヤ伊英米ノミナラス仏モ「チ

ル本年一月二十九日附貴翰ヲ受領致候間左様御了承相成度此段回答旁本大臣ハ玆ニ重テ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

九一六 二月六日 在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

東支鐵道附屬地帯ニ関スル布告問題其他ニ付
ホルワットノ談話報告ノ件

第一〇三号

（二月七日接受）

二月四日「ホルワット」將軍ヲ往訪シ時局ニ関スル意見ヲ尋ネタル処其語ル所左ノ通り

一、職工軍隊其他社会党等ノ一部カ頻リニ日本ノ干渉ニ対シ反对ノ声ヲ上ゲツツアルモ右ハ露國ノ輿論ニ非ズ若シ日本軍撤兵トモナラハ東部西比利亞ハ直ニ過激派ノ蹂躪スル所トナルヘシ蓋シ社会党一派ハ辞令ニ巧ミナルモ實力ヲ有セザルヲ以テナリ東支鐵道沿線ヨリ日本軍ヲ撤兵スルニ於テハ彼等ハ同鐵道ノ實權ヲ掌握セントスルト同時ニ予ニ向テ彼等ノ「コムミッサール」タランコトヲ要求スヘシト信スル理由アリ予ハ斯ル要求ニ応シテ当地ニ留マルヲ好マズ（支那側ニ於テ東支鐵道ニ関シ利權回收策ニ熱中スル結果

エック」軍ノ撤退ト共ニ皆此協約ヨリ脱スルコトナリ我國ノ此ヨリ脱スルハ其撤兵問題ノ解決セラレサル以上ハ未定ニ属スルトハ謂ヘ要スルニ本問題ノ日支露三国ニ限ラレ或ハ過去ノ情況ニ歸リ東清線ニ対シテノミ露支兩國間ノ干渉ニ歸スルノ時アルヘシ若シ後者ノ如キ狀勢トナルモ西伯利鐵道ハ暫ク除キ東清線ハ北滿地方ノ動脈トシテ我國防上及經濟上ニ頗ル重要ナル意義ヲ有スルヲ以テ其ノ將來ニ付テハ大ニ顧慮スル所ナカルヘカラス

東清鐵道長官「ホルワット」ハ極東代官失脚後尚全ク政治的位置ヨリ隱退スルノ意志ナク竊カニ東支沿線一帶ノ地ヲ根拠トシ勢力挽回ノ機ヲ窺ヒツツアリシカ如ク從來彼ト良カラサル「セミヨノフ」ノ勢力東清沿線ニ進入セントスルヤ切リニ支那側ニ握手ヲ求メテ之カ排斥ニ努ムルト共ニ一方「オムスク」政府ヲ動カシ東支沿線地区ニ於テ軍管区司令官タルノ權限ヲ行使シ得ルノ許容ヲ獲得シ次テ「オムスク」政府ノ没落ト共ニ「セミヨノフ」カ極東露領ノ政權掌握ヲ宣言スルヤ「ホルワット」ハ拮抗シテ東清沿線ノ露國民ニ対シ全權執行ノ旨ヲ声明スルニ至レリ然シテ彼ハ此声明ヲ保留セントシ支那ニ媚ヒテ其支持ヲ得ントシ為メニ若

干ノ利權ヲ讓与スルモ辞セサルカ如シト先ツ伝ヘラレ其目的タルヤ「セミヨノフ」ヲ倒シテ極東ノ政權ヲ取得セントスル準備ナリト云フ然レトモ目下ノ情況ハ如斯ヲ達成シ得ヘカサルハ察スルニ難カラスシテ果シテ然リトセハ益々時局ヲ紛糾セシメ且ツ支那ニ勢力ヲ進展セシムルニ過キサルヘシ（最近「セミヨノフ」ト「ホルワット」トノ確執融和セリト伝フルモノアレトモ疑シ）

支那ハ今次露ノ動乱ヲ機トシ東清鐵道ハ勿論各方面ニ亘リテ利權ノ回收勢力ノ扶植ニ努メツツアルハ明カニシテ彼ノ東清線ノ守備、之ニ伴フ指揮權ノ獲得、東清沿線ニ於ケル外国電線架設ニ對スル反對、松花黑竜兩江航行權ノ回收露貨並ニ日本貨ノ排斥、「コロンバイル」及蒙古ノ自治取消等其例証拳テ數フヘカラス殊ニ東清鐵道ニ実勢力ヲ扶植スル為ニハ中央政府ト東三省督軍並ニ商民ト相呼応シ全力ヲ尽シテ之カ貫徹ニ努力シアリ即一月十四日「ホルワット」

カ前記声明ヲ公表スルヤ東清沿線ハ直ニ支那ノ主權ニ屬スルヲ以テ其主權下ニ第二ノ國家カ統治權ヲ行使シ得ルモノニアラサルノミナラス「ホルワット」ハ鐵道会社ノ職員ニ過キシテ何等國家統治ノ權能ナク又会社従業員並ニ沿線

反シ米國人ハ近時東三省ニ於ケル我國ノ勢力ヲ驅逐セントシ北滿地方ニ於テモ投資ヲ企ツルモノ尠ナカラス殊ニ東支鐵道ハ彼國ノ尤モ囑望スル所ナルヲ以テ支那ノ前記慾望ト相待テ之カ利權獲得ニ努ムヘキハ明ニシテ彼ノ鐵道従業員撤退ノ故ヲ以テ本希望ノ放棄ト速断シ能ハサルカ故ヲ以テ北滿ニ於テ我國ノ優越ナル地步ヲ確保スルノミナラス極東露領ニ對スル勢力發展ノ基礎ヲ茲ニ求メンカ為メニハ必スヤ我國ハ主動ノ地位ヲ占メ以テ日支米ノ協調ヲ策シ露國側ヲ支持シテ東支鐵道ノ救済ヲ規画スルト共ニ一ハ以テ米國勢力ノ侵漸ヲ抑圧シ他ハ以テ日支提携ノ実ヲ挙クルノ三点ニ注意スヘク由來此方面ニ企圖ヲ謀ルニ當リテ支那ヲ輕視シ露國ヲ主体トナシテ画策スル所アリシモ前記ノ如ク露支兩國ノ勢力ヲ換ヘタルノ今日ニ於テ支那ノ勢力ヲ度外スヘキニアラス此点ニ関シテハ特ニ配慮シ我國ノ主動者タルニ於テ各國ノ正當ナル主張ヲ基礎トシ敢テ自己ノ野心ヲ挾マヌ尤モ公明嚴正ナル態度ニ出ツルノ必要アリト認ム

九一八 二月十二日

内田外務大臣ヨリ
在浦潮松平政務部長宛（電報）

チェック軍輸送促進ノ為鐵道特別委員會ヨリ

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九一八

居住ノ内外人保護ノ責任ハ支那ノ負担スル所ナルハ既ニ條約ノ定ムル所ナリトシ該宣言ヲ承認セサルト共ニ刻下政情變転ノ機ヲ捉ヘ一層該鐵道ニ對スル利權ノ獲得ニ努ムルノミナラス成シ得レハ之カ回收ヲモ画策セルカ如シ（條約ニ依レハ尚十一年後ニアラサレハ回收ノ權ナシ）

抑々東清鐵道ハ在露都露支鐵道会社ノ所有スル所ナルモ露國動乱以來本社トノ連絡斷絶セシ為メ極東ニ在ル該鐵道關係者ノ集マリテ臨時北京ニ理事會ヲ組織シ会社ニ關スル業務ヲ処理シツツアリ然レトモ露國政權ノ確立セサルカ為メ政府並ニ殊ニ有力ナル之カ支援者タリシ露亞銀行ヲ援助ヲモ得ルニ由ナク為ニ該理事會ハ曩ニ本社ノ有セシ權威ヲ繼承發揮シ得サルハ勿論財政ノ上ニ於テ本鐵道ヲ維持シ能ハサル窮境ニアリテ今ヤ東支鐵道ノ財政ヲ救済スルモノ実ニ之カ実權ヲ獲得シ得ルノ情況ナリ然ルニ此点ニ関シテ支那ノ資力ナキ如何ニ商量スルモ外資ヲ仰クニアラサレハ之ヲ能クシ能ハサルハ明カナリ

籲テ歐米各國ノ東支鐵道ニ對スル意向ヲ觀察スルニ英國ハ目下何等ノ希望ヲモ有セサルカ如ク仏國ハ敢テ之ニ投資ヲ辞セサル如キ報道ニ接シアルモ進テ之ヲ求メサルヘク之ニ

スミス派遣問題ニ付回訓ノ件

第二七号

貴電第五七号ニ関シ

特別委員會ヨリ「スミス」ニ全權委任狀ヲ与フルコトハ諸種ノ關係上考慮ヲ要スヘク殊ニ「チェック」送還ノ事ハ目下ノ処鐵道監督ノ最モ主要ナル事務ナルヘキヲ以テ之ヲ「スミス」一人ニ委任スルハ面白カラズト思考ス就テハ貴官御意見ニモアル通り事小ニシテ且ツ急速処置ヲ要スルコトハ事後承認ヲ得ルコトナシ差支ナキモ重大ナル事件ニ關シテハ必ス予メ委員會ノ承認ヲ得ルコトト致度ニ付右御含ノ上可然措置セラレ度シ

九一九 二月十七日

在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

東支鐵道ノ実權掌握ノ為中國側力採リ居ル措

置ニ関シ鮑督軍ノ談話報告ノ件

第一三七号

（二月十八日接受）

東支鐵道沿道ニ在ル露國兵ハ漸次解散セラレ益々其ノ數ヲ減ズルト同時ニ支那ハ増兵スルヲ以テ今ヤ鐵道ノ守備ハ全然支那ノ手ニアリト云フヲ得ベク「ホルワット」將軍ハ支

九一九

那軍隊ノ力ニ依リテ東支鐵道附屬地内ニ露国政争ノ波及ヲ防遏シ依テ以テ暫ク自己ノ地位ヲ維持シ西比利亜ニ於ケル形勢ヲ觀望シツツアルモノト察セラル鮑督軍ハ支那領土内ニ於ケル露国政争ヲ防遏スル為有ラユル手段ヲ取ル決心ニテ「ホルワット」將軍以下ヲ排斥セントスル運動ハ之ヲ抑圧スベシト言明セリ

支那側ガ露国政変ニ乗ジテ東支鐵道ノ実權ヲ掌握セントシツツアルハ勿論ニシテ鮑督軍來哈後露支当局者間ニ協議開始セラレタル処露国領事ノ言（脱）ニ何等具体的ニ決定シタル事無シトノコトナリ二月十六日本官ハ鮑督軍ニ面会シ東支鐵道ノ現状ヲ以テシテハ遠カラズ非常ノ營業難ニ陥ルベク支那ガ最近融通スルコトニ決定シタル百万元ノミニテハ到底救済シ得ザルベシト信ズル処實官ノ対策如何ト尋ネタルニ督軍ハ右ハ支那側ノ大イニ憂慮シ居ル所ニシテ救済策ニ関シ目下露国側ト協議中ナリ出來得ベクンバ此ノ際東支鐵道ヲ露支合弁事業ト為サンカトモ考ヘツツアリト答ヘタルニ付合辦事業ト為サントセバ支那ハ出資ノ為借款ヲ起スノ必要アルベシト述べ裏面ニ米國資本ノ潛ミ居ルヤ否ヤヲ探ラントシタルニ督軍ハ借款ノ件ハ中央政府ニテ決スベ

キ問題ニシテ自分ハ唯東支鐵道ヲ露支合辦トスルノ案ヲ考究シ居ルノミ但シ合辦ト云フモ新規ノ企ニハアラズシテ東支鐵道布設當時ニ存在セリ又支那ヨリ何億ト云フ多額ノ出資ヲ為サントスル計画ニアラズト語レリ要スルニ支那側ハ此ノ際東支鐵道ニ貸附クル營業資金ヲ合辦事業ニ對スル出資ノ形トナシ以テ東支鐵道ノ実權掌握ニ一步ヲ進メント計畫シ居ルモノト思考セラル

北京松平へ転電セリ

奉天吉林へ郵送セリ

九二〇 二月十八日

在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

東支鐵道ノ露国守備隊解散ヲ中国側ガ要求セントスルニ對シ之ガ阻止方ヲ露国側ヨリ懇請セルニ付請訓ノ件

第一三九号

（二月十九日接受）

東支鐵道守備軍司令官「サモイロフ」將軍來訪内密ニ探リ得タル情報ニ依レハ二月十七日鮑督軍ハ支那側当地官憲ノ會議ヲ開キ東支鐵道ノ露国守備軍解散ヲ要求スルコトニ決議シタリトノコトナルガ右ハ支那ノ承認シ居ル日露講和条

約追加約款第一第三項ヲ無視スルモノニシテ「ホルワット」將軍ノ承認スル能ハサル所ナルモ露国現時ノ無力ヲ以テシテハ单独右要求ヲ峻拒スルコト困難ナルニ付明治四十三年日露条約第三条ノ規定ニ依リ支那側ノ斯ル要求ヲ阻止スル手段ヲ講ゼラルル様セラレ度シト懇請セリ

露国側自ラ守備軍ヲ解散シ鐵道守備ヲ全然支那ニ依頼スル場合ハ兎ニ角支那ヨリ解散ヲ要求スルカ如キハ間接ニ南滿鐵道守備ニ関スル帝國ノ權利ヲ侵害スルモノト認メララルニ付此際支那政府ニ抗議ヲ提出シ前記要求ヲ為ササル様鮑督軍ニ電訓セシムルコト必要ト思考セラル「サモイロフ」ノ口吻ニ依レハ鮑ハ今明日ニモ右要求ヲ提出スルヤモ計ラレザルニ付至急御詮議ヲ請フ

右在支公使へ転電セリ

九二一 二月二十二日

内田外務大臣ヨリ
在浦潮松平政務部長宛（電報）

鐵道特別委員会ヨリノ米国委員脱退問題ニ関

シ問合ノ件

第三一号

貴電第十二号ヲ以テ米國鐵道委員ハ本委員会及ヒ其附屬各一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九二一

部ヨリ脱退スルコトニ決定セル旨一月九日特別委員会ニテ声明シタル趣並ニ同委員ハ次回ヨリ出席セザルコトナリタル旨報告アリタル処其後貴電第三〇号其他ニ依レハ其後モ「スミス」「グレーヴス」等ニ於テ同委員会ニ出席シ居ル模様ニテ殊ニ「グレーヴス」ハ自己ノ代表權ナキコトヲ特別委員会ニ於テ宣明セル趣御電報ノ次第アリタルヨリ察スルニ「スミス」ハ依然同委員会ニ於ケル米國側代表者ト見做スヘキモノナルヤニモ思料セラルル処右ノ通り了解シ差支ナキヤ將又米國カ何時迄特別委員会其他ノ鐵道關係委員會ニ代表者ヲ出ス可キヤ判明セルニ於テハ至急回電アリ度シ

九二二 二月二十二日

福田參謀次長ヨリ
在浦潮軍參謀長宛（電報）

ザバイカルニ於ケルチェック軍輸送ニ関シ星

野中將トスミス間ノ關係調整方ニ付指令ノ件

電報

後員加爾方面ニ於ケル「チェック」軍ノ輸送ニ関スル星野中將ノ努力ハ大ニ之ヲ認メサルヘカラズ然ルニ「スミス」ハ「チタ」ニ於テ恰モ特別委員会ノ代表者タルカ如キ言動

九二二

ヲナシ漸ク整頓セントスル同方面ノ輸送ヲ再紛糾セシメントスル虞アリ就テハ此際松平委員トモ協議シ特別委員会ニ對シ星野中将ノ立場ヲ明カニスルト同時ニ「スミス」ノ反省ヲ求メ同中将ト「スミス」トノ關係ヲ緩和シ且ツ同方面ノ輸送ヲ事實上ニ於テ順調ナラシムル様配慮アリタシ

九二三 二月二十三日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

鐵道特別委員会ヨリ脱退セルハ伊国委員ニシ

テ米國委員ニ非ザル旨回報ノ件

第七九号

(二月二十四日接受)

貴電第三一号ニ関シ往電第一二号特別委員会及其ノ附屬各部ヨリ脱退スルコトヲ声明シタルハ伊国委員ニシテ米國委員ニアラズ從テ米國側委員ハ本委員会及各部委員会ニ從來通り出席シ居レリ其ノ撤退日ニ関シテハ往電第四八号「スチーヴンス」ノ話ニモ有リタルガ如ク「チェック」軍輸送完了迄ハ撤退ノ模様無ク「スミス」モ亦尠クモ五月頃迄ハ撤退六ヶ敷カルベシト内話セルコトアリ往電第六七号「グレーヴス」ノ声明ハ「チタ」會議ニ出席セル米國武官ガ何等ノ權限ヲ有セズトノ意味ナリ

九二四 二月二十四日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

チタ出張ノスミスヨリ星野將軍ガ同氏ノ任務ヲ諒解セザル旨鐵道特別委員会ニ電報越ノ件

第八二号

(二月二十五日接受)

在「チタ」「スミス」ヨリ二月十九日附ヲ以テ特別委員会ニ對シ電報セルガ右電報ハ先ヅ「チタ」ヨリ「ウェルフネ」ニ向フ途中露國軍憲ノ為汽車切り放シ其他ノ侮辱ヲ受ケタルコトヲ述ヘ途中ヨリ「チタ」ニ引返シタル上十九日「ジョンソン」ト共ニ星野中将ニ会見シ本月十六日交付セル抗議書ニ認メタル特別委員会ノ希望ヲ日本側ニ於テ実行セラルヘキヤヲ尋ネタル処星野將軍ハ「スミス」ガ「チェック」軍撤退ニ尽力スヘキ特別委員会ノ權能(「オーソリチー」)ヲ有スルコトヲ聞カズ又特別委員会ノ總テノ決議ガ有効ナリトノコトモ(往電第六七号決議ニ関スルモノナルカ)公報ニ接セズト答ヘタリ速ニ大井將軍ニ對シ鐵道守備軍ニ訓令セラレンコトヲ要求セラレタシ尚星野將軍ハ同時ニ自分ニ覺書ヲ交付セラレタルガ右ニ依レハ星野氏ハ鐵道委員會ノ權限ヲ認ムレドモ数ヶ月前ヨリ露國軍憲カ鐵道

ニ干渉シ居ルコトヲ今日武力ヲ以テ排除スル如キ大問題ハ大井將軍ト特別委員会トノ交渉完了後ニアラザレバ実行スル能ハズ此ノ如キコトハ「スミス」氏ガ「チタ」ニ於テ日本官憲ニ協議スヘキモノニアラズト記載シアリ特別委員会ヨリ直ニ本件ニ関シ大井將軍ト交渉ヲ請フ何トナレバ鐵道ニ関スル狀態ハ極メテ重大ナリ若シ委員會ノ決議ニシテ遵奉セラルルニ於テハ秩序ハ直チニ回復セラルベシ云々ト記載シアリ本件ニ関シテハ何レ次回ノ委員會ニ於テ審議セラルルコトト思考ス

右哈爾濱ニ転電シ大村ニ伝ヘタリ

九二五 二月二十四日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

チェック軍輸送ニ関シ星野中将トスミス等ト

ノ意見對立ノ打開策ニ付稟申ノ件

第八三号

(二月二十五日接受)

「スミス」「ジョンソン」(技術部派遣員)對星野中将ノ關係ハ其後益々面白カラズ星野中将ハ「チタ」會議ヲ以テ必要ノモノト認メ之ニ依リテ「チェック」輸送ノ円満ヲ図ラントシ尚露國側戒嚴ノ執行ノ結果露國軍事官憲ヲ以テ鐵道

運行ノ当局ト認メ其ノ結果技術部ノ權限ヲ認メザル如キ結果ニ陥リ「スミス」等ハ鐵道協定ヲ楯ニ執リ技術部ヲシテ運行ヲ司ラシメ若シ露國軍憲ニ於テ之ヲ妨害スルニ於テハ守備ノ任ニ當レル日本軍ニ於テ之ガ排除ニ當ラレンコトヲ要求シ居ル狀態ニテ從而「チタ」會議ナルモノヲ何等ノ權威アルモノト認メズ之ガ為往電第八三号「スミス」ヨリ特別委員会ヘ電報ヲ發スルニ至リ昨年来漸ク鎮靜ニ帰シタル「セメノフ」運行干渉問題及我が守備軍任務問題ハ茲ニ再發スルノ狀態ヲ呈スルニ至レリ右ハ感情ニ驅ラレ易キ「スミス」ガ「ザバイカル」到着後「セメノフ」(脱)ヲ誤リタルヲ始メ(例ヘバ汽車切り離シ事件ノ如シ)其他ノ点ニ於テ感情ヲ害シタル結果ニ基クモノカト思ハルガ何レニセヨ理論ノ問題トシテハ「スミス」ノ主張ハ正シキノミナラズ若シ露國側戒嚴ノ結果鐵道ノ協約ガ停止セラルルコトヲ是認スルニ於テハ本協約ハ何時ニテモ露國官憲ノ都合ニ依リ事實上有名無実ノモノト為シ得ルノミナラズ又烏蘇里線黒竜線ニ對シ在浦潮新政府ニ於テ戒嚴ヲ執行セズトモ限ラズ其ノ結果我が軍ノ重大ナル不便ヲ蒙ル危險アリ故ニ主義ニ於テハ聯合國側ハ飽迄戒嚴執行ノ結果鐵道協約ノ停止

セラルコトヲ承認スルコト能ハズ私見ニ依レバ「チタ」會議ナルモノハ之ヲ止メ（各国武官トモ追々ニ出席セザルニ到ル可シ）表面技術部ヲシテ運行ノ衝ニ当ラシメ日本軍ニ於テハ主義トシテ之ヲ援助スルコトトシ實際上有効ニ運轉セラレ間敷ニ付星野中將ハ何等ノ形式ヲ執ラズ「チエック」ト露国側トノ中間ニ立チ有力ナル地位ヲ利用シテ露国側ヲ抑圧指導スルコトトセバ我ニ取り不利ナル非難ヲ蒙ルコトヲ避ケ得ルノミナラズ「チエック」側ニ於テモ衷心感謝スルコトト思ハル本官ハ既報ノ通り今日ノ状態發生ヲ懸念シタルニ付實際的効力ノ見地ヨリ「スミス」外委員ヲ説キタルモ事茲ニ到レバ前記ノ如キ処置ヲ執ル方然ル可シト思ハル御考慮ヲ仰グ

九二六 二月二十五日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛

東支鐵道売渡ノ風説ヲ否定スルホルワット將

軍ノ書翰写送付ノ件

附屬書 右書翰ノ邦訳文

機密軍政送第一一号

（三月六日接受）

大正九年二月二十五日

モノニ對シ貴下カ決定的返答ヲ与ヘ得ラルル為メ小生ハ鐵道管理以來始終一ニ支那政府ト会社トノ間ニ締結セラレタル約款ニ拠リ管掌シ来リタルモノニシテ自ラ該約款違反ノ挙ニ出テサルト同時ニ何人ノ側ヨリモ同約款違背ヲ許ササル事ニ全力ヲ尽シ来リタル事ヲ宣明スルハ小生ノ義務ト存候露国紊亂ノ結果同国政府及会社株主等ノ不在セル為メ小生ハ本露国企業ノ責任アル保存者ノ位置ニ立ツモノニ有之ニ付本鐵道ハ露国政府及企業主ノ顛覆シタル日ニ本官ニ委任セラレタル状態ニ於テ本鐵道ヲ真持主ニ引渡スヲ以テ本官ノ義務ナリト心得居候如斯シテ貴下ハ前述ノ見地ヨリ小生カ鐵道売渡ニ関シ何等交渉ヲ為シ得サリシ事ヲ御看取相成儀ト存候此機会ヲ利用シテ小生ハ閣下ニ向テ格段ノ敬意ヲ表シ候

敬具

九二七 二月二十六日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

チェック軍輸送ニ関シスミス及星野中將間ノ

關係ニ付鐵道特別委員會ニ於テ審議ノ件

第八六号

（二月二十七日接受）

二月二十五日特別委員會ニ於テ往電第八二号「スミス」ノ

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九二七

浦潮派遣軍政務部長 松平恒雄（印）
外務大臣子爵 内田康哉殿

往電第五四号ニ関スル「ホルワット」將軍書翰原文写竝ニ

邦訳為念茲ニ及御送附候条御査収相成度此段申進候 敬具

註 書翰原文（露語）写ヲ省略ス

（附屬書）

一月二十六日ホルワットヨリ在浦潮松平政務部長宛書翰ノ邦訳文

第一九八号

千九百二十年一月二十六日

在哈爾賓

東支鐵道租借地域総長官

ディ、エム、ホルワット

松平殿

小生トノ會談ニ於テ貴下ハ小生カ東支鐵道売渡ニ関スル哈市及浦潮ニ於テ伝ヘラレタル彼ノ不都合ナル風説ニ就キ御言及有之候
小生ハ小生トノ協同事業中ニ於ケル小生ヲ熟知セラレタル貴下カ之等ノ風説ニ何等ノ意義ヲ払ハレサリシヲ確信スルモノニ有之候得共將來本件ニ関シ何等疑念ヲ表示セラルル

電報議題ニ上リ「グレーヴス」少將ハ星野中將ハ戒嚴令施行ノ結果後員加爾ニ於ケル鐵道協約効力停止セルモノト解シ居ルモ聯合軍ノ守備シアル地方ニハ本協約施行セラルヘキモノト思考ス尚自分ハ大井司令官ニ面会「スミス」ノ電信ヲ示シタル処同司令官ハ星野中將ニ電報シ「スミス」
「ジョンソン」等ト協力スヘキ様訓令スヘキ旨述ヘラレタルモ右協約ノ効力ニ関シ疑義ヲ有シ居ルカ如カリキト述ヘ後段述フルカ如キ決議案ヲ提出セリ本官ハ協約ノ解釈ニ関シテハ自分モ又論理上「グレーヴス」ト同意見ナルカ星野中將ノ処置ニ関シテハ之ヲ説明スル要アリトテ同中將カ星野員加爾ニ於ケル露国軍事官憲ノ実力米國「インスベクター」ノ微力ナル実況及「チエック」輸送ノ不満足ナル情況ニ顧ミ極力改善ノ実効ヲ挙クルコトニ努力セル次第ヲ詳細説明シ右ハ理論ノ問題ヲ離レ専ラ実行ノ見地ヨリ見ルコト必要ナル旨ヲ述ヘ尚我カ守備軍ハ「チエック」軍ト露軍ト衝突スルコトヲ避クル為有ラユル苦心ヲ為シ居レルモノニシテ「チエック」ノ梯団ヲ「チタ」迄退避セシムルコトヲ拒絶シタルハ撤退ノ妨害ニアラスシテ右ノ趣意ニ外ナラサル旨（右ニノ批難ハ「スミス」ノ他ノ電報ニ記載アリ）又大井

司令官ハ鐵道協約実施ニ関シ援助ヲ惜マサルヘキモ運行干渉ニ対シ目下ノ情況ニ於テ直ニ武力ヲ用フルコトノ却テ危険ナルコトハ明カナル所ニシテ浦潮其ノ他ニ於テ米國軍モ十分經驗シタル所ナルヘキ旨ヲ述ヘタリ

米國委員提出ノ決議案ハ大体ニ於テ鐵道協約ノ後員加爾地方ニ効力アルコトヲ指摘シ鐵道協約ニ依リテ權限アルモノノ外星野中將其ノ他ノモノノ權限ヲ認ムル能ハス大井司令官ヨリ星野中將ニ干渉ヲ止ムル様要求スル形式ニ為リ居リタルモ本官ハ星野中將ハ干渉セルモノニアラスシテ援助セルモノナリト主張シ結局右星野中將ニ対スル批難及其ノ權限云々ニシテノ文句ヲ省キ前記協約ノ解釈ヲ定メ大井司令官ヨリ可然星野中將ヘ訓令方依頼スルコトナレリ尚「スミス」ヨリ「グレーヴス」其ノ他米國側ニ宛テタル二十日附電信内見シタルカ同人ハ甚シク憤慨シ居ルモノト見エ後員加爾日本軍憲ノ処置ハ何レノ見地ヨリ謂フモ全然正シカラズトテ各種ノ事實ヲ挙ゲロラ極メテ日露兩軍ノ処置ヲ非難シ米國政府ヘモ轉報方依頼シアリタルモ右ハ會議ニ提出セラレズ之ヲ「スチーヴンス」ヨリ本委員會ニ電報シ軍事輸送部ヲシテ「チタ」ニ命令シ「チェック」軍ノ輸送ニ対

ク説明シ腹藏無キ意見ノ交換ヲ為シタルガ其ノ際「ギルザ」ノ話ニテハ「チェック」軍ト其ノ後衛ニ追及シツツアル過激派トノ間ニハ休戦ノ約束成立シタルヲ以テ差当リ最終部隊ノ攻撃セラルル危険ヲ脱シ從テ從來ノ如ク輸送ニ一日ヲ争フ如キ逼迫セル情況ニアラザルモ「イルクーシク」地方ニ窪扶斯猖獗ヲ極ムル為「チェック」軍ノ中ニモ伝播ノ兆候アリ之カ為兎ニ角同地方ニ多クノ列車ヲ停滯セシムルコト危険ナルヲ以テ不取敢後員加爾線ニ入レテ輸送ヲ待タシメ度希望ナル旨ヲ述ヘ尚「チェック」後衛ト過激派ノ前衛トハ一機關車区域即五六十「ウエルスト」ノ間隔ヲ保ツコトナリ居レルカ過軍ノ兵力ハ未詳ナリ「チェック」ハ二年前其ノ窮狀ニ在ル際逸早く日本ノ武力援助ヲ得タルコトハ永久忘ルルコト能ハズ前記ノ如ク過軍ガ早晚後員加爾ニ入ルニ於テハ直ニ日本軍ト接觸スルコトトナルニ付何等此ノ際日本軍ト過軍トノ間ニ立チ日本ノ為尽力スヘキコトアラハ自分ニ於テ敏ンテ努力スヘシト申出タルニ付本官ハ其ノ厚意ヲ謝シ右ノ次第ハ政府ニ伝達スヘキ旨ヲ述ヘ置キタリ

シ一切ノ他ノモノヨリ優先權ヲ与フヘシト申來リタルカ本官ハ「スチーヴンス」ハ運行ニ関スル全權ヲ有スルモ本件ニ関シテ斯ノ如キコトヲ申出ヅル權限無シ右ハ軍事輸送部ニテ考慮スヘキ事柄ニシテ本委員會ヨリモ命令スルコトハ不穩当ナルノミナラズ鐵道守備ニ任スル軍隊モアル以上斯ノ如キ絶対的權限ヲ「チェック」ニ与フルコトハ不穩当ナル旨ヲ述ヘタル処米露其ノ他ノ委員モ之ニ同意シ右申出ニ對シテハ何等ノ処置ヲ取ラザルコトトセリ尚各國委員トモ所謂「チタ」會議ナルモノニ對シテハ尚内心不快ニ感シ居ル模様ニ付寧ロ此ノ際星野中將ニ於テ暫ク手ヲ引キ米國側ニ責任ヲ負ハセ彼等モ困ル迄傍觀スルコトモ一策ト思考ス哈爾賓及大村技師ヘ電報セリ

九二八 二月二十六日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

過激派トチェック軍ノ關係並同派ト日本軍ノ

接觸ニ関シチェック代表談話ノ件

第八七号

二月二十六日「チェック」代表「ギルザ」ニ面會後員加爾ニ於ケル星野對「スミス」問題ニ関聯シ日本ノ立場ヲ詳シ

九二九 二月二十八日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ザバイカルニ於ケルチェック軍輸送ニ関シ米

派遣軍司令官ト會談ノ件

第八八号

(二月二十九日接受)

往電第八六号ニ関シ其後星野中將等ノ電報ニ拠レバ二月二十五日「ジョンソン」ハ同中將ニ左ノ書面ヲ送リタル由「ジョンソン」ハ「メージ」大佐ニ左ノ如ク命令セリ

(一) 從來ノ鐵道運行ニ関スル規則ハ總テ無効トス(「チタ」會議ノコトヲ指スモノナリ)

(二) 一日八列車ヲ動カシ第一列車ハ露國傷病者次ノ三列車ハ「チェック」次ノ一列車ハ日本次ノ三列車ハ露國トス

(三) 普通列車ハ之ヲ止メ石炭列車ハ「ジョンソン」ノ命令ニ依リ別ニ之ヲ動カス

然シテ右ノ命令ハ日本軍ニ依リ強制ス日本軍之ヲ実行セザル時ハ「ジョンソン」ノ命ニ依リ「チェック」軍之ヲ実行ス然シテ右ハ特別委員會ノ前顯「スミス」ノ訓令ニ基キ「ジョンソン」ニ於テ命令スルモノナリト記載シアリ云々右ハ「スミス」ノ「グレーヴス」ニ宛テタル電文トハ多少

異ナル所アリ翻譯モ亦誤リアルヤモ計ラレザルガ「スミス」モ亦感情ニ走り過ギ軍ノ守備問題等全ク権限ノナキコト迄立入り益々事態ヲ紛糾セシムル傾アリ仍テ二月二十八日本官「グレーヴス」少將ヲ訪ヒ非公式ニ後員加爾問題ニ関シ率直ニ意見ヲ述べ「スミス」ノ協約実行ヲ主張スルコトハ正シキニ付大井司令官ニ於テモ特別委員会ノ決議シタル所ニ同意シ其旨星野中将ニ申伝ヘラルルコトト思ハルルガ「スミス」モ亦余リ感情ニ走り之ガ為權限外ノ事又ハ事實上不可能ノ事ヲ要求シ殊ニ日本軍ノ名譽ニ対スル如キコト迄不謹慎ニ電報スル如キハ不必要ニ日米ノ感情ヲ阻害スル如キ結果ヲ来ス虞アルニ付此ノ辺ハ特ニ考慮アリ度キ旨述べタル処「グレーヴス」モ亦「スミス」ノ電報ニ付テハ頗ル困難ヲ感ジ居ル次第ヲ述べ大井司令官ニ於テ前記ノ如キ命令ヲ發セラルルニ於テハ自分モ直チニ「スミス」ニ電報シ注意ヲ促スコトトスベキ旨ヲ述べ司令官ヨリハ鐵道委員会ニ宛テ前記「ジョンソン」ノ要求ヲ指摘シ「チェック」軍使用問題等ニ関シ抗議ヲ提出スルコトナレリ要スルニ本件ハ星野中将ニ於テ後員加爾ニ於ケル輸送事務ヲ自分ニ於テ管掌スル態度ヲ拋棄シ表面ニ於テハ兎ニ角技術部ヲシ

ニスル必要モアリタルニ付二月二十七日ノ會議ニ於テ本官ハ当地方ニ於ケル運行干涉ノ状態ハ程度ノ大小ニ差アル可キモ性質上後員加爾ニ於ケル露国官憲ノ干涉ト同一ナル旨ヲ指摘シ本委員会ハ当地方ノ鐵道守備ニ任シ居ル米国軍ニ援助ヲ要求シ尚新官憲ヲ運行干涉ヲ続クルニ於テハ兵力使用ヲ要求スル意ナリヤ又「グレーヴス」少將ハ如斯要求アルトキニ直チニ之ニ応ズル覚悟ナルヤヲ承知致シ度キ旨申出ダシタル処議長ハ「クレム」ノ部下ニシテ目下新官憲ノ逮捕ヲ虞レ居レリ目下ノ政況ニ顧ミ「ギルザ」ノ復命ヲ得ル迄本問題討議ノ延期ヲ請ヒタルニ付本官モ快諾シ置キタリ

其後「グレーヴス」ニ面会ノ際同人ハ本問題ニ言及シ米国兵武力使用ノ結果露国兵ト衝突ヲ来スカ如キ場合ニ單ニ要求アレバトテ直チニ兵力ヲ使用スルコトハ能ハズ如斯場合ニハ更ニ中央部ノ訓令ヲ仰ガザルベカラズト内話セルニ付後員加爾ニ於ケル我方ノ立場モ亦之ト同一ナル旨ヲ述べ置キタリ如斯状態ナルニ付「スミス」等ガ一方ニ於テ兵力使用ノ問題ヲ提起シ居ルモ特別委員会ニ於テハ重キヲ置カズ尚三月二日會議ニ於テ「ギルザ」ハ「メゾエゾフ」トノ会

テ運行ヲ司ラシメ軍隊輸送ニ関シテハ軍事輸送部ニ於テ管掌セシムルコトト為サザレバ復又鐵道監督事業ノ失敗ヲ日本ノ責任ニ帰セシメラルルコトナリ骨ヲ折リツツ惡口ヲ謂ハルル結果ヲ来シ米国技師撤退後我方ノ勢力ヲ用フル上ニ大ナル障害ヲ来ス虞アリト信ズ

九三〇 三月四日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

浦潮臨時政府ニ依ル鐵道運行干涉ニ関シ鐵道
特別委員会ニ於テ論議ノ件

第九四号 （三月五日接受）

当地ニ於ケル所謂臨時政府ガ黒電沿海鐵道ヲ掌握セシ以來鐵道協約ヲ無視スルガ如キ事件時々發生セルヲ以テ本官ハ二月二十二日特別委員会會議ニ於テ本件ヲ指摘シ当委員会ニ於テ嚴重ナル処置ヲ執ル可キコトヲ申出ダシタルガ結局新官憲等ハ協約成立以來ノ成行及特別委員会其他ノ權限ヲ承知セザルニ基クモノト認メラルルニ付一応「ギルザ」ヲシテ「メゾエゾフ」ニ説明セシメ且彼等ノ意向ヲ確ムルコトニ決シタルガ其後鐵道干涉ニ関シ米國「インスベクタ」ヨリモ報告アリ且後員加爾ニ於ケル我邦ノ立場ヲ明カ

見ヲ報告セルガ「ギルザ」ハ（一）当地方官憲ハ鐵道協約ヲ認ムルヤ（二）特別委員会及各部ノ決議規則ヲ認ムルヤ（三）聯合側鐵道援助ヲ將來ニ於テモ希望スルヤノ三問題ヲ提起シタル処新官憲ハ右三点ニ関シ何レモ肯定的の回答ヲ与ヘ尚個々ノ干涉事件ニ関シテハ夫レ夫レ手配シテ之ヲ除クコトニ努ムベキ旨回答セル由復命セリ
松島大村へ転電セリ

九三一 三月十二日 内田外務大臣ヨリ
在ハルビン松島總領事宛（電報）

中国側ニ依ル東支鐵道利權回收ニ関シ中国側
及露国側ノ動向ニ付報告方訓令ノ件

第八三号

最近支那側ニ於テ東支鐵道ニ関スル利權ノ回收ニ腐心シツツアルハ蔽フヘカラサル事実ニシテ貴電第一五七号守備兵撤退要求ノ如キ又貴電第一六六号理事庁改組ノ如キ又在支小幡公使來電第二三四号鐵道沿線露國人ノ保護取締申出ノ如キハ其ノ一端ヲ示スモノニテ本件今後ノ推移如何ハ頗ル注意ヲ要スルニ付貴官ハ今後共支那側施設ノ實際竝ニ右ニ対スル露国側ノ態度等ニ関シ注意ヲ払ハレ參考トナルヘキ

事項ハ隨時電報アリタシ尚右守備隊撤退要求ハ其ノ後如何相成タルヤ又理事庁改組ヲ見ルニ至レル事情等ヲモ承知致度又「ホルワット」ハ支那ニ対シ五百万弗ノ借款ヲ申込ミタリトノ報道アル処果シテ右様ノ事実アリヤ直接「ホルワット」ニ会见ノ上鮑督軍トノ交渉ノ模様等聞訊シ結果電報アリタシ

北京ニ転電アリタシ

註 二月二十五日松島總領事宛内田外務大臣宛電報第一五七号二月二十九日同第一六六号及三月四日小幡公使宛同第三三三四号ヲ省略セリ

九三二 三月十三日

在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

労働組合側ヨリホルワットニ対シ東支鉄道附

属地帯内ノ政權譲渡ヲ要求ノ件

第二〇八号

(三月十三日接受)

当地労働組合其他ノ聯合会本部ハ三月十二日午前十時附ニテ「ホルワット」ニ対シ最後通牒ヲ送り東支鉄道附属地帯内ノ政權全部ヲ沿海州自治会臨時政府ニ直ニ譲渡センコトヲ要求シ若シ十三日午前十一時迄ニ回答無キトキハ一般ニ

同盟罷業ヲ決行スヘシト声明セリ
在支公使及松平ヘ転電セリ

九三三 三月十四日

在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鉄道附属地帯内ノ政權要求ニホルワット
ノ回答ナク労働者側同盟罷業決行ノ件

第二一〇号

(三月十五日接受)

往電第二〇八号ニ関シ「ホルワット」將軍ヨリ十三日午前十一時迄ニ回答無カリシ為同盟罷業本部ハ予定ノ通り薬剤店病院電燈会社及麵炮屋ノ労働者ノ外東支鉄道附属地内ニアル労働者ニ同盟罷業ヲ命ジタル結果在當地東支鉄道従業員ハ全部罷業シ鉄道運行中止セリ職業同盟、各種政治団体聯合会本部附近ニ労働者集合シ店舗ハ門ヲ閉ザシタルモ目下ノ処市中平穩ナリ本同盟罷業ニ関シテハ十二日以来各種ノ露文宣伝書市中ニ撒布セラレ尚哈爾濱同盟(不明)等ノ名ヲ以テ支那文宣伝書ヲ配布シ支那労働者ヲ同盟罷業ニ加担セシメントセリ十三日夜巴司令官ノ使者ノ本官ニ語リタル所ニ拠レバ支那官憲ハ十二日露国同盟罷業本部ノ代表者ヲ招致シ説論スル所アリ彼等ハ同盟罷業ヲ為サザル旨ヲ約シ

タルニ拘ラズ之ヲ決行シタルヲ以テ直チニ軍隊及巡警ヲ出動セシメ警戒ヲ嚴ニシ支那労働者ノ罷業ヲ防止シ尚鉄道運行回復ノ為斷乎タル処置ヲ執ル可シトノコトナリ然レドモ官辺(脱)重立タル者ノ追放アル可シト信ズ前記市中ニ撒布シタル宣伝書ハ執レモ旧官憲ノ稅政ヲ鳴ラシ支那文ノモノハ同時ニ日本ノ極東ニ於ケル野心ヲ云々シ支那ヨリノ排日思想ヲ煽リ居レリ尚市中ニハ日本軍ハ浦潮ヲ占領シ「ニコリスク」ニ前進中ナリトノ風説專ラナル処右ハ革命党側ノ「プロバガンダ」ト思考セラル

北京、松平ヘ転電セリ

九三四 三月十五日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

鉄道委員会ニ於テ露国委員沿海州ノ鉄道守備
ヲ露国軍隊ニ肩代リ方提議セルニ付之ニ反対
シタル件

第一一三号

(註)

往電第一〇九号ニ関シ三月十三日鉄道委員会ノ際露国委員ハ臨時政府ノ要求ニ從ヒ鉄道守備問題ヲ提起シ当地方ニ於ケル政況一變シ内乱モ終熄シ沿海州ニ於ケル鉄道襲撃ノ虞

一五 シベリア及東支兩鉄道管理ニ関スル交渉一件 九三四

ナキニ至リタルヲ以テ此際沿海州ニ於ケル外国兵ノ鉄道守備ヲ撤セラレ露国側ニ任サレ度ク左スレバ露国民一般満足ス可キ旨申出デタルニ付本官ハ鉄道守備ノ問題ハ必ズシモ内乱ニ基キテ設置シタルモノニモアラズ又外部ノ襲撃ニ対シテノミニアラズ露国官憲ノ妨害ニ関シテモ之ガ排斥ニ援助ス可キ從來ノ方針ニモアリ鉄道協約ニ依リテ守備ヲ聯合軍ニ託シ其守備ノ配置ニ至リテハ聯合武官會議ニ於テ決セラルコトナリ居リ過般既ニ「ニコリスク」浦潮間ヲ日本軍ノ守備ニ任ゼラレタル以上之ニ依リテ実行スルヨリ他ナキ旨述ベタル処露国委員ハ該武官會議ニハ露国委員ノ参加無クシテ決セラレタルニ付(脱)本官ハ右ノ如キコトハ露国側ヨリ直接武官會議ニ提出セラル可ク本委員會ハ守備配置ニ関シテハ之ヲ議決スル權能ヲ有セズ右ハ客年守備配置ノ初メニ当リ本委員會ニ於テ決議セル所ナル旨指摘シタル処露国委員ハ本委員會ニ於テ之ヲ決スルノ權能アリトシテ頻ニ他委員ノ同情ヲ求メタルガ「グレーヴス」將軍ハ最初ノ代表武官會議ニ於テ全線ノ守備ヲ議セルニ当リ露国代表武官ノ意見ヲ徴シタル処守備ニ用フル兵ナシトノ故ヲ以テ聯合側ニテ配置ヲ為シタルガ東支鉄道ハ支那ノ領地ナルヲ

以テ支那ニ之ヲ託シ又其後「ムィソワヤ」附近ノ守備ヲ露軍ニテ希望セシヲ以テ之ヲ承諾セルコトアリトテ過日米國撤兵後ノ守備ヲ議セル分科會議ニ露國側ヲ参加セシメザリシコトヲ妥當ナラズトシ並露國ノ領土故露國側ノ希望ヲ容ルベシトノ意ヲ諷シ又本會ニ於テ本件ヲ議スル權能アリトノ意見ヲ述ベ他ノ委員モ一般ニ露國側ニ同情セルモノノ如ク本會ニ於テ本件ヲ議スル權能アリト認ムル意ヲ述ベ約三時間ニ亘リ本官ト露國委員トノ間ニ論議ヲ続ケタルガ結局本官ハ本委員會ガ右軍事上ノ問題ヲ議決スル權限無キコトニ関シテハ明カニ日本政府ヨリ訓令ヲ受ケ居ルニ付若シ本委員會ニ於テ本件ヲ議決セントセバ本官ハ之ニ參加スルコト能ハザルニ付直ニ退席スベク但假令諸君ガ如何様ニ決定セラルルトモ日本軍隊ハ必ズシモ其決議ニ從ハザルベキニ付此点ヲ明カニ承知セラレタシ尤モ本件ニ関シテハ本官モ出来得ル丈円満ニ解決セントシ既ニ本日モ日露軍憲ト會合シテ協議スルコトトナリ居レル旨述ベタル処各國委員トモ右結果ノ判明スル迄本件審議ヲ延期スルコトセルニ付本官ハ右會合ハ本委員會ニ關係無ク自己ノ「イニシアチヴ」ニ於テ為スモノニ付本委員會ニ對シテ責任ヲ取ル能ハズト述

ベタル処各委員トモ之ヲ諒シ唯其結果ヲ知ル迄延期スルコトトセリ尚本件ヲ議シタル二月二十五日代表武官會議ニ於テハ米仏兩國委員ハ決議ニ加ハルヲ避ケ英國委員ハ本國政府ヨリ反對ノ命令無キ限り日本軍ノ守備ニ同意スル旨ヲ述ベ「チェック」支那伊太利委員ノミ同意ヲ表シタル由ナリ
註 松平政務部長兼内田外務大臣宛第一〇九号ハ日本外交文書大正九年第一冊下卷七二文書(八七一頁)

九三五 三月十六日

在長春佐々木領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ホルワットノ辞意表明及鐵道運輸再開ノ見込

報告ノ件

第二八号

(三月十七日接受)

哈爾濱支那護路司令部ヨリ吉林督軍公署ニ達シタル情報トシテ当地道尹公署員ノ漏シタル所ニ抛レバ十五日「ホルワット」ハ遂ニ辭職スベキ旨ヲ声明シタルニ依リ本十六日ヨリ列車ノ運輸ヲ為スベキコトトナリタル処從業員中単ニ右声明ノミニテハ満足スベキニ非ズ其ノ実行ヲ見ザル以上ハ就業スベカラズト主張スルモノアリタルガ為猶運輸開始ノ運ビニ至ラザルモ遠カラズシテ開通ヲ見ルベキ見込ミナリ

在支公使、奉天、吉林、関東庁長官へ転電セリ

九三六

三月十七日

在長春佐々木領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国軍ハ東支鐵道沿線ノ露國守備兵ニ對シ武

裝解除ヲ強制シタル件

第二九号

(三月十七日接受)

十五日ヨリ十六日ニ亘リ哈爾濱支那護路司令部ノ命令ニ基キ支那軍隊ハ東支鐵道沿線露國守備兵ノ武裝解除ヲ強制シ既ニ米沙子駅(寬城子ノ次ノ駅)迄全部実行シ来レリ現ニ寬城子駅ノ守備兵ヲ余スノミトナリタル趣ニテ道尹ヨリ同地露國兵舎ハ我守備隊ト同一構内ニアリ自然誤解ヲ生ジ易キヲ以テ予メ我方ノ承認ヲ得タキ旨申出アリタルニ付右ニ関シ小官ハ目下当地我陸軍側ト協議中ナリ尚寬城子ニ於ケル支那守備兵ハ約五十名ニ過ギザルヲ以テ「カン」鎮守使ハ其部下ノ兵百名ヲ同地ニ派シ警戒セシムル手筈ナリト云フ

在支公使、関東都督、在奉天吉林各総領事ニ転電セリ

九三七

三月十七日

在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九三六

東支鐵道ノ共同經營ヲ露國過激派政府ヨリ中

國政府ニ申込ミ中国之ヲ拒絕セル旨ノ張作霖

談話ノ件

第九〇号

(三月十八日接受)

本日十六日張作霖ノ吉原ニ語リタル所ニ依レバ露國過激派政府ハ東支鐵道問題ニ関シ「ホルワット」ノ權限ヲ認メズ從テ今後同鐵道ハ過激派ト支那政府トニテ該鐵道取極条約ニ從テ協同經營スベシトノ旨公文ヲ以テ支那側へ申込ミ来タリタル処支那側ニテハ其ノ申込ヲ拒絕シ「ホルワット」ヲ援助シテ其ノ位置ヲ維持セシムルコトニ決定シタリト云フ

在支公使、関東都督、哈爾濱へ転電セリ

九三八 三月十七日

在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道附屬地内ニ於ケル他國統治權ノ行使

竝露國ノ政党又ハ個人ノ鐵道業ヘノ干涉ヲ許

サザル旨鮑督軍宣言ノ件

第二一七号

(三月十八日接受)

三月十五日鮑督軍ハ東支鐵道ニ関シ督軍護路軍總司令ノ名

九三七 九三八

一一六七

ヲ以テ宣言セリ

予ハ東支鐵道ハ支那ノ領土内ニ存シ我領土主權ノ下ニ他國統治權ノ行使ヲ許サズ即安寧秩序ヲ乱シ及鐵道ノ運行ヲ妨害スル露國ノ政争ヲ我領土内ニ移スヲ得サル旨一再ナラス宣言セリ然ルニ東支鐵道殊ニ「ホルワット」將軍カ政權ヲ執リ其ノ政策遂行ノ為軍警ヲ利用シタル為露國勞働階級ハ同盟罷業ヲ声明シ玆ニ政争ハ激烈トナレリ支那主權ノ擁護及鐵道運行ノ円滑ヲ期スル為予ハ「ホルワット」將軍ニ速ニ東支鐵道附屬地内ニ於ケル其ノ政權ヲ棄テ依テ以テ支那ヲシテ条約上ノ義務ヲ履行セシメンコトヲ提議セリ軍規等ニ至リテハ責任アル予ノ代表者之ヲ（不明）シ右ト同時ニ予ハ其ノ職責上將來露國ノ政党若クハ個人カ政治的目的ヲ以テ鐵道業ニ干渉スルコトヲ許容スル能ハサル旨聲明シ沿線ノ住民ニ對シ各其正業ニ安センコトヲ希望ス

北京、松平へ転電セリ

九三九 三月十七日 在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

東支鐵道附屬地帯内ノ政權讓渡ヲホルワット

ニ對シ要求セル中国側提議ニ関シ請訓ノ件

レタリトノコトナリ此ノ間「ホルワット」將軍ハ別電ノ通リ日附無シノ布告ヲ發シタルモ同盟罷業ハ今尚繼續シ長春哈爾濱間ニ支那軍用列車運行スルノミ一説ニ依レバ支那ハ暗ニ同盟罷業ヲ煽動シ之ヲ鎮圧スルヲ名トシテ東支鐵道沿線ニ自己ノ勢力ヲ扶植セントスル計畫ヲ有ストノコトナルモ遽ニ信ジ難シ

北京、松平へ転電セリ

九四一 三月十八日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

東支鐵道従業員ノ同盟罷業ニ關聯シ浦潮臨時

政府ハ中国側ニ對シ其態度ヲ表明セル旨新聞

報道ノ件

第一一八号 （三月十九日接受）

三月十八日当地新聞紙ノ報道スル所ニ依レバ当地臨時政府ハ十六日附ヲ以テ在当地支那政務官宛大要左ノ如キ覺書ヲ交付シタリ

臨時政府ハ今後共露支兩國ノ親善關係繼續ヲ希望スルモノニシテ東支鐵道地帯ニ於ケル支那ノ主權ハ固ク之ヲ認ムルコト、同地帯内ニ於ケル「ホルワット」ノ行政ハ露國ノ利

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九四一

第二一八号 （三月十八日接受）

往電第二〇八号ニ関シ

「ホルワット」將軍ハ支那側ノ提議ヲ拒絕ノ態度ニ出ヅベキヤ若クハ何等回答ヲ為サザルモ事実上右提議ヲ容ルルノ破目ニ陥ルベキヤ不明ナルモ本件ニ関シ曩ノ警備隊撤廢問題ノ場合ノ如ク帝國政府ノ援助ヲ懇請シ來ルコトアラバ本官ハ如何ニ之ニ應對スベキヤ至急御回訓アリタシ

北京へ転電セリ

九四〇 三月十七日 在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

東支鐵道従業員等ノ同盟罷業鎮圧ノ為中国側

ノ採リツツアル措置ニ付報告ノ件

第二二三号 （三月十九日接受）

十四日支那側ハ同盟罷業者ノ幹部数名十五日（不明）八名ヲ拘禁シタリ十六日ニ至リテハ十五日附督軍ノ宣言ヲ文字通りニ実行スルモノト見エ露國警察官ハ公然市内ニ於テ武装解除セラルアリ当館警察官ノ探查スル所ニ依レバ市内露國警察署ハ既ニ全部支那巡警ノ占領スル所トナリ病院街附近ノ露國兵營内ニアル百余名ノ兵卒モ亦武装ヲ解除セラ

益ニ反シ「セメノフ」ノ部下ヲシテ公然強奪行為アラシムルハ「ホルワット」ノ処置宜シカラザルニ起因スルコト、政府ハ同地帯内ニ行ハル同盟罷工等鎮圧ニ就テハ斷乎タル手段ニ出ヅベキヲ以テ支那人ハ嚴正中立ヲ守ラシメラレ度キコト、之ガ最良ノ方法トシテ臨時政府ヨリ新ニ同鐵道長官及業務監督官ヲ任命スル管ナルコト、「ホルワット」ハ必ズ罷免スベキコト等ヲ列举セリ

九四二 三月十九日 在浦潮矢野政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

中国市民及南北政府ニ對スルカラハン宣言報

告ノ件

別電 同日在浦潮矢野政務部長代理發内田外務大臣宛

電報第二二二号
右宣言

第一二〇号 （三月二十日接受）

三月十八日当地新聞（オボズレイニエ）紙上別電第一二二号ノ記事發表セラレタルガ聞ク所ニ依レバ本記事ハ歐露ヨリ「イルクーツク」革命本部ニ電報セラレ同本部機關紙ニ掲載セラレタルモノ当地「ロスタ」ニ於テ入手シタルモノ

ナリト何等御参考迄

北京へ転電セリ

(別電)

三月十九日在浦潮矢野政務部長代理宛内田外務大臣宛電報第一二二号

中国市民及南北政府ニ対スルカラハン宣言

第一二二号 別電 (三月二十日接受)

市人及支那南北政府ニ告グ

「ソビエット」軍ハ外国ノ軍憲及黄金ノ力ニ依リ起リタル各反革命軍ヲ撲滅シ連戦連勝西比利亜ニ殺到シ漸次西比利亜ニ於ケル革命軍ト合致セントス「ソビエット」政府国民外交代官ハ玆ニ支那国民ニ対シ左ノ友好的の勧告ヲ為サントス

過激派政府及過激派赤衛軍ハ二ケ年間ノ惡戦苦闘ノ後強奪圧迫又ハ占領ノ目的ニ依ラズシテ烏拉爾ヲ越エテ長驅極東ニ出デントス既ニ西比利亜労働民衆ノ熟知スル如ク吾人ハ極東ニ於ケル人民ヲ外国銃剣ノ羈絆外國黄金ノ束縛ヨリ脱セシメ同時ニ支那国民ヲモ其羈絆ヨリ脱セシメントス吾人ハ独リ我労働階級者ノミナラズ同時ニ前記支那人民ヲモ救助セントスルモノニシテ右ニ就テハ吾人曾テ千九百十七年

而シテ滿洲鉄道ノ還附ヲ俟タズ同盟國ハ反テ之ヲ横領セシノミナラズ西比利亜ニ侵入スルニ支那軍隊ヲモ其ノ圈中ニ引入レ以テ前代未聞ノ暴虐ヲ演ゼシメタリ而モ憐ムベキ支那労働階級ハ何ノ故ヲ以テ聯合國ノ奸賊ガ西比利亜及滿洲(脱)シタシヤヲ悟ラズ故ニ吾人ハ此所ニ支那人民ニ勧告シテ以テ其ノ蒙ラ啓カントス

「ソビエット」政府ハ帝政當時ノ露國ガ占領シタル滿洲及其ノ他ノ諸州ヲ支那ニ返附セントス蓋シ其ノ採決ハ該諸州ニ於ケル人民自ラ為スベキ問題ナレバナリ尚政府ハ何等ノ報酬無シニ東支鉄道ハ勿論「ケレンスキー」「ホルワット」「セメノフ」又ハ「コルチャック」其ノ他露國ノ將軍資本家聯合ニ依リ獲得シタル一切ノ鉦山山林金鉦其ノ他一切ノ權利ヲ支那ニ還附セントス千九百年ノ義和団事件ニ対スル償金又然リ右ハ當時帝政中ノ北京公使及聯合國ガ自利ノ為ニ無法ニ奪取シタルモノナレバナリ帝政時代ノ權能ハ既ニ其ノ効力ヲ消滅シタルニ今日尚其ノ形骸ヲ其ノ地ニ導キ以テ支那人民ヲ瞞着セントス

「ソビエット」政府ハ支那領土ニ於ケル露國商人一切ノ權利ヲ廢棄ス可ク支那領土ニアリテハ法理上他國ノ主權アル

一五 シベリア及東支兩鉄道管理ニ関スル交渉一件 九四三

十月ノ大革命当初ニ於テ発表シタルコトアルモ吾人ノ該声明ハ或ハ金權者ノ買収ニ依リ陰蔽セラレ居ルベキヲ以テ玆ニ重ネテ言明セントスルモノナリ

労働政府ハ千九百十七年十月政權ヲ掌握スルヤ直チニ全世界ニ対シテ永久的の平和ノ必要ヲ叫ベリ但シ諱和ノ条件トシテハ獲取セル他國領土ノ返還強制併合セル他國ノ解放償金ノ返還タラザルベカラザルヲ提議セリ邦國ノ大小民衆ノ多寡ヲ問ハズ苟モ國民ノ自由意思ヲ阻止シ強ヒテ自己ノ疆域ニ拘束スル如キハ吾人ノ看過シ能ハザル所ナリ之ヲ以テ「ソビエット」政府ハ一切ノ秘密條約即チ帝政時代ニ於テ其ノ同盟國ト結ビ強迫買収ノ方法ヲ以テ極東ノ人民ヲ其ノ支配下ニ隸屬セシメ多クノ資本家將軍輩ノ利益ヲ主眼トシテ締結セラレタル條約ヲ廢棄セントシ此ノ点ニ付當時支那政府ニ対シ千八百九十六年ノ條約千九百一年ノ北京條約並ニ千九百七年ヨリ千九百十六年ニ至ル日本トノ協約廢棄(脱)還附方ニ関シ商議センコトヲ提議セリ本件ニ関スル交渉ハ千九百十八年三月ニ至ル迄繼續セラレタルヲ聯合國ハ突如北京政府ノ咽喉ヲ扼シ支那ニ於ケル新聞紙ヲ買収シ支那政府ヲシテ労働政府ノ該提議ヲ拒絕セシムルニ至レリ

可カラズ他國ノ裁判權ヲ認ム可キニアラズ故ニ本政府ハ之等ノ点ニ関シテモ別ニ全權代表ヲ支那ニ差遣シ苟モ政綱ニ反スル処置ナカラシム可シ

「ソビエット」政府ハ其敵ガ今ヤ其欲スル所ヲ行ヒ露國労働ノ声ガ支那國民ノ耳染ニ達セザル可キヲ熟知シ併モ滿洲西比利亜ニハ尚野獸ノ存スルモノアルヲ以テ先ヅ以テ之ヲ撲滅セントス若シ夫レ支那國民ニシテ露國民同様奮起シテ聯合國ガ「ヴェルサイユ」ニ於テ取極メタル一切不条理ノ羈絆ヲ脱シ且第二ノ朝鮮第二ノ印度タラザラコトヲ欲セバ須ク諸君ノ背後ニハ諸君ノ信用アル露國労働及赤軍ノ支持アルヲ認識ス可シ「ソビエット」政府ハ玆ニ政府ノ名ヲ以テ公式ニ國際關係ノ開始ヲ提議スルモノナリ

註 カラハンハ労働政府外務人民委員代理ナリ 国民外交代官代理「カラハン」

九四三 三月十九日 在ハルビン松島總領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

東支鉄道従業員ノ同盟罷業中止ニ関スル件

第二二六号 (三月二十一日接受)

三月十六日浦潮臨時政府ノ代表者「ブンベヤンスキー」ハ

罷業本部ニ宛テ鮑督軍ノ宣言ハ「ホルワット」將軍ノ政權拋棄ヲ保障スルモノニシテ之ニ由リ職業組合銀行主政治団体聯合会ノ目的ハ達成セラルヘキヲ以テ此上罷業ヲ継続スルハ無意味ナルノミナラス却テ露國ノ為ニ利益ナルヘシ此際東支鐵道附屬地内露國民ハ其ノ政治上經濟上ノ利益保障ノ為支那政府ト交渉スルノ機會ヲ在浦潮臨時政府ニ与フルヲ要ス而シテ露支兩國民ノ利害相一致スルコト及支那政府ハ露國ノ一時的衰退ニ乗セサルヘキコトニ鑑ミ右交渉ノ円満ニ纏マルヘキコトヲ信スルニ付同盟罷業ハ中止セラレタシト通告シ同日前記聯合会幹部及罷業本部ハ會議ヲ開キ罷業中止ヲ議決シ右決議ニ基キ罷業本部ハ十七日午前十一時ヲ期シテ罷業ヲ中止スヘキ旨声明セリ其ノ結果十七日午後鐵道運行ハ一部開始セリ

松平及北京ヘ転電セリ

九四四 三月二十日 警視庁ヨリ
外務省宛

東支鐵道ノ現状維持ノ為日本側ノ援助ヲ懇請
セルクレム氏ト後藤男トノ会谈内容報告ノ件

外秘乙第四九号

大使ハ「クレム」ニ對シ「日本ガ鐵道ヲ占領セントスル野心アルニアラズヤ」トノ質問ヲ為シタル事、「スチーブンズ」ハ確ニ支那側ニ左袒シツアルコトヲ述ベタリ。コノ問題ニ就テハ男ハ「鐵道院木下長尾兩理事ノ意見ヲ徵シ、ソノ上適當人物ヲ「ホルワット」ノ許ニ送り直接打合せシムルモ可ナリ」ト語ラレタリ。次ニ後藤男ハ「今ヤ過激派政府ハ直接我が政府ニ交渉ヲ為サントシツアル迄ニ形勢變転シ来レリ、實ハ余ハ日露協會ヨリ田中理事ヲ哈爾濱ニ送り狀況ヲ觀察セシメ且「ホルワット」ニモ面談セシメタキ所存ナリシモ、今日ノ形勢トナレルヲ以テ之ヲ見合シ居ル」次第ナリト語ラレタルニ「クレム」ハ「ソハ是非願ハシキコトナリ公人トシテノ都合悪シケレバ私人トシテニテモ派遣サレ觀察セラルレバ閣下ノ為メニモ裨益尠カラザル可シ」ト答ヘタリ

過激派ノ承認ニ関シテハ「若シ過激派政府成立シ日本ニ通商ヲ求ムトセバ、日本ハ果シテ之ヲ承認ス可キヤ」トノ「クレム」ノ質問ニ對シ後藤男ハ「之ハ列國ノ協調ニ由ルモノニシテ、若シ列國之ヲ認ムレバ日本モ亦之ヲ認メザルヲ得ザル可シ」ト答ヘタリ

大正九年三月二十日

東清鐵道顧問「クレム」ト後藤男トノ會見内容ニ就テ目下來朝中ノ前「オムスク」政府外務次官現東清鐵道顧問「クレム」ハ去ル十五日午前十時麻布狸穴ノ邸ニ於テ後藤男ト會見約一時間ニ亘リタルガ今其ノ会谈内容ヲ内偵スルニ大要左ノ如シ御參考迄ニ

左記

一、其ノ要領ハ「東清鐵道ハ今ヤ二ツノ危険ニ瀕シ居レリ即チ一ハ過激派ニ由リ劫ヤカサレ居ルコト、二ハ支那ガ引渡ヲ求メ現ニ沿線守備ヲ支那官憲ニ委セ、幹部ヲ支那人ヲ以テ換ヘンコトヲ「ホルワット」ノ許ニ要求シ居ルコトナリ。然ルニ東清鐵道ハ種々ナル事情ヨリ決シテ支那人ノ手ニ委サル可キニアラズ、コノ場合列強就中日本ノ援助ニ由リ刻下ノ危機ヲ救ハレンコトヲ望ム」トイフ「ホルワット」ノ希望ヲ伝言スルニアリタリ。後藤男ハ先ヅ同鐵道ト支那トノ關係米國トノ關係ヲ尋ネラレタルガ之ニ對シ「クレム」ハ「支那ハ飽迄コノ機會ニ東清鐵道ヲ自分ノ手ニ収メントシツアルコト、拉米國ハ沈黙シ居ルモ支那ト默契アリ日本ノ態度ヲ觀望シツアルガ如ク現ニ「モーリス」

撤兵ニ関シテハ「クレム」ハ目下ノ狀態ヨリ東清線沿線守備ダケハ是非残サレタシト懇願シ、男ハ大ニ同情スル旨述ベタル

過激主義ニ就キテハ「武力ヲ以テノ鬭爭ハ早晚止ムベキモ同主義ノ宣伝ハ益々行ハルベク而シテ之ガ防止ハヒトリ武力ニ由リテハ不可ナリ寧ロ經濟的文化的ニ鎮圧スルニ如カザルコト竝之ニ就テハ接壤地タル日本ガ今後最モ警戒ト取締ヲ要ス可キコト」ヲ「クレム」ノ説ケルニ對シ、男ハ「宜ナリ、カノ「コルチャック」ガ失脚ヲ早メシ一因ノ如キモ彼ガ単ニ武力ニ頼リ經濟的方面ニ努力スルヲ等閑視シタルニ由ルト余モ觀察シ居レリ」ト述ベタル

結局「東清鐵道ノ維持ニ就テ援助ヲ乞フ」トイフガ「クレム」ノ目的ニシテ、之ニ對シ男ハ「關係当局トモヨク相談ノ上政府ニモ其ノ意ヲ伝ヘ、出来ル丈援助スベシ」トノ回答ヲ与ヘタル次第ナリキ

九四五 三月二十日 在浦潮矢野政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ニコリスク及浦潮間ノ鐵道守備ヲ露國軍二担當セシムル問題ニ関シ鐵道委員會審議ノ件

第一三二号

(三月二十一日接受)

三月十九日鉄道委員会開催稲垣中将日本委員代理トシテ出席ス

「ニコリスク」浦潮間鉄道守備問題ニ関シ露国臨時政府側ヨリ委員会ニ宛テ再審議ヲ希望シ来リ居リ当日同伴ハ再ビ議題ニ上リタルガ稲垣中将ハ本件ニ関シテハ前回會議ニ於テ松平部長ヨリ詳細説明アリシ通リ本會議ニ於テ審議スベキ次第ニアラズト思考スルニ付更ニ重ネテ説述スルノ要ナシト述ベタルモ露国委員ハ本件ハ本會議ニテ審議ノ権限無シト日本委員ハ述ベタルモ露国人民及臨時政府トモ當委員會ニ依頼シテ解決ヲ計ラントノ希望ヲ以テ申出タルモノニテ他ニ解決ノ機關無キニ付露国人民援助ノ為日本(脱)ノ存スル以上露国人ノ意思アル所ヲモ汲ミ且又(不明)「ムィソワヤ」間ノ鉄道守備ヲ米軍ヨリ露軍ニ移セシ前例モアレバ本會ニ於テ何等カ決議ノ上措置アリタシトテ露軍守備ヲ希望シタルガ稲垣中将ハ守備區域問題ハ武官會議ノ権限内ニモアリ吾人トシテ鉄道協定ニ違反ノ行為多キ露国軍ニ對シ該協定ニ依リ鉄道ノ守備ヲ担任セシムルハ不合理ナリトテ反對セシガ各委員ノ意見ヲ問フコトトナリ支那委員ハ秩

序無ク条約履行ニ関スル義務ヲ考量セザルガ如キ軍隊ニ守備ヲ任スハ如何ナランカト謂ヒシガ英米委員ハ協定ニテハ露国軍ノ守備ヲモ認メ居ルニ付差支モ無カラント意見ヲ述ベタルニ支那委員ハ然ラバ(脱)守備ノ任ニ当ラシムルモ又可ナラント米國委員ハ委員會ノ請求ニ依リ聯合軍守備隊ハ派遣サルルモノト承知セルニ付本會ハ現状ニ顧ミ守備配置ヲ議スル権限アリ既ニ「エリオット」ノ意見トシテモ之ヲ聴キタリト附言セシガ仏國委員ハ本會ハ技術上財政上ノ支配ヲ審議スルニアリ本問題ヲ議スル権限無シト反對シ「チエック」委員ハ自國軍輸送ノ見地ヨリ事件ノ円満解決ヲ希望シ本件本来ノ目的ハ技術上財政上ノ支配ニアリト思考セラレ本會ニテ決定スベキハ守備ノ要否ニアリ若シ要アリトセバ前例モアルコトナリ露国軍ニ當ラシメテ見テモ可ナラント述ベシカ稲垣中将ハ米國委員ノ説ハ本會ガ守備配布ヲ議スルノ權アリト云ハルルモ本官之ニ反對ナリ又是ヲ事實ニ徴スルモ当初鉄道守備區域ノ決定ハ武官會議自ラ之ヲ議決シタルモノニシテ本委員會ノ指図ニ依リシニアラズ又武官會議ノ決議ハ之ヲ本會議ニ電報セラレタルニ止マリ本會ニ於テ守備區域ニ付テ可否ヲ審議シタルコト無シト記

憶ス又露軍ヲシテ鉄道守備ヲ担任セシメバ如何トノ説ニ對シテハ露國側ガ協定ヲ遵奉セン実績ヲ見テ初メテ之ニ當ラ

止シ唯議長ノ通知トシテ之ヲ記録ニ載セルコトトセリ

九四六

三月二十三日

内田外務大臣ヨリ
在ハルビン松島總領事宛(電報)

中国側ニヨル東支鉄道ノ利權回收の行動ニ對

シ日本側ノ対応措置ニ付訓電ノ件

第九五号(至急)

貴電第二一八号ニ関シ支那側カ東支鉄道ニ関シ利權回收の行動ニ出テツツアルハ固ヨリ我方ニ於テモ多大ノ注意ヲ要スル所ナルモ理論上露支兩國間ノ關係ニ止マルノミナラス仮令我方ニ於テ之ヲ抑止セントスルモ右ハ露國ノ現状ニ顧ミ頗ル困難ニテ勢ヒ支那側トノ間ニ面白カラサル事態ヲ生スル虞アルノミナラス尋常ノ手段ニテハ其援助ノ目的ヲモ達スルコト能ハス畢竟帝國ノ本問題ニ對スル立場ハ今後ノ形勢ニ基キ對露政策ヲ確立シタル上決定セラルヘキモノナリ旁々支那側カ露國側ニ對シ其要求ヲ強制シ来ル場合ニ於テハ日本トシテハ差当リ形勢ヲ推移ヲ注視スルニ止メ何等之ニ関与スルカ如キ措置ヲ避クルコトト致度シ右ノ次第ニ付若シ支那側ニ於テ行政權ノ引渡乃至軍隊ノ解散ヲ強要シ之ヲ実行スルニ至ル場合ニハ「ホルワット」等ヲシテ在支

公使發本大臣宛電報第二三六号在支露国公使ノ執リタルト同一ノ態度ニ出テ露支間条約上ノ權利ヲ留保シ置クノ措置ニ出テシメ置クコト露国側ニ取リテハ勿論日本ニ取リテモ得策ト思考セラル就テハ貴官ハ露国側ニ對シテハ露国ノ立場ニ付日本ニ於テ十分之ヲ諒トスルモ支那側カ実力ヲ以テ要求シ来リシニ對シ日本ニ於テ露国ヲ援助セムトセハ勢ヒ日支間ニ頗ル面白カラサル關係ヲ生シ延ヒテ或ハ露国側ニモ果ヲ及ホスニ至ルヤモ難計旁々露国トシテハ支那側ノ強要ニ對シテハ前記在支露国公使ノ態度ノ如ク条約上ノ權利ヲ保留シ置キ以テ他日露国正當政府樹立ヲ俟ツテ解決ヲ期スルノ方途ニ出ツルコト得策ナル旨篤ト説示相成様致度シ右關係貴電ト共ニ北京、松平、奉天、長春、齊々哈爾、吉林へ転電シ奉天ヨリ関東長官へ転電方申添ヘラレタシ

九四七 三月二十九日 在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

東支鐵道附屬地内ノ政權放棄鮑督軍側トノ折

衝其他ニ関スルホルワットノ談話報告ノ件

第二五六号 （三月三十一日接受）

二十八日「ホルワット」將軍ニ面会鮑督軍トノ折衝ノ成行

ジ難シトノコトニテ本件ハ決定ニ至ラズ（大洋銀票使用ノ件ハ持出サレザリシ由）(ハ)ニ関シテハ東支鐵道ニ資金サヘアラバ給料支払ハ直チニ為スベキモ充分ノ収入無キ為如何トモ為スベカラズ又給料ノ外東支鐵道ハ莫大ノ購入物資代価支払未了ナルト同時ニ来年度ノ薪炭購入資金其ノ他ノ運轉資金ヲ要スルニ付此ノ際資金供給ノ方法ヲ講ゼラレタシト要求シタルニ支那側ハ之ニモ直チニ回答スル能ハズト云ヒ結局何等纏リタルコト無シ

(三)条約上ノ權利留保ニ関シテハ腹案アルモ目下督軍ガ何ノ程度迄讓歩スルニ至ルベキヤヲ見ツツアル次第ニシテ何レニシテモ結局北京政府ヘ抗議ヲ提出スルコトトスベシ本件ニ付テハ屢々貴官ト面会シタキモ御覽ノ通り護衛兵ニ取リ捲カレ居リ自由ニ貴官ヲ訪問シ得ザルヲ遺憾トス
(四)支那ノ後押ニ米國アリト思考ス今ヤ問題ハ単ニ一東支鐵道ノ問題ニアラズシテ太平洋問題ナリ露国ノ強大ナルヤ米國ハ日本ヲシテ之ニ打撃ヲ与ヘシメ今露国ノ復活セントスルヤ米國ハ日本ノ發展ヲ阻害セントシツツアリト觀察ス
北京、松平、奉天及關係各領事ヘ転電セリ

ヲ尋ネタルニ同將軍ノ語リタル所左ノ如シ
(一)東支鐵道附屬地内ニ於ケル政權放棄ノ要求ニ関シテハ支那側ハ強力ヲ以テ軍警ノ武裝ヲ解除シテ余ノ実力ヲ奪ヒ政權行使ヲ不可能ナラシメタルヲ以テ止ムヲ得ズ之ヲ放棄セルモ支那政府ニ對シテハ在支公使ヲ經テ強力ヲ以テ余ノ政權ヲ奪ヒタルコトニ對シ抗議シ置ケリ

(二)二十六日ノ會議ニ於テ督軍ハ(イ)鐵道従業員ニ對シ彼等ガ同盟罷業ヲ中止シ誠実ニ其ノ業務ニ服シタルコトヲ賞讃シテ鐵道運行ノ円滑ヲ計ルコト(ロ)幾分破損シタル紙幣ヲ受納スルコト(ハ)遲滞無ク従業員ノ俸給ヲ支払フコトヲ議題トシタルガ余ハ(イ)ニ関シテハ鐵道従業員同盟委員會組織セラレ同委員會ハ其ノ同意無クシテ従業員ノ地位ヲ動カスコトヲ得ズト議決シ勝手ニ各個従業員ニ命令ヲ下シ居ルノ有様ナルヲ以テ斯ル委員會ノ專横ヲ抑圧スルノ手段ヲ取ラザル限リ(イ)ノ措置ハサシタル効果ナカルベシト述ベ(ロ)ニ関シテハ支那商人ニ於テ破損紙幣ヲ受領スルニ於テハ東支鐵道モ勿論之ヲ拒絶スルモノニアラズ故ニ東支鐵道ニ於テ受入レタル破損紙幣ヲ破損セザルモノト同様ニテ支那紙幣ヲ交換スベシトノ保障ヲ与ヘラレタシト述ベタルニ之ニハ応

九四八 三月三十一日 在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

東支鐵道ノ従業員ニ依リ執行委員會ノ設立ニ

對スル鮑督軍ノ反対ニ付報告ノ件

第二六二号 （四月一日接受）

從來東支鐵道庁役員ハ浦潮政府ヲ認メズ鐵道事業ニ妨害ヲ為スヲ以テ之ヲ匡正スル為鐵道従業員同盟ハ鐵道經營ノ一般の機關トシテ五名ヨリ成ル執行委員會ヲ設ケタリト電報ヲ沿線各地ニ發シタルニ對シ鮑督軍ハ東支鐵道ノ監督權ハ督辦タル自分ニ屬スル所ニシテ鐵道長官ハ重役会ニ對シ責任ヲ負ヒ各局課長ハ所定ノ範圍内ニ於テ其權能ヲ行使シ職工其他従業員ハ上司ノ命ニ服従スルヲ期スト声明シ各同業者ハ其ノ利益ノ為労働組合ヲ組織スルコトヲ得ルモ鐵道庁ノ事務行政庁ノ命令ニ容喙シ監督權ヲ行フコトヲ得ズ職工従業員ガ労働組合ニ加入スルハ各人ノ随意ニシテ強制スベキモノニ非ズ労働組合ハ自己ノ資金ニテ成立スベク鐵道ヨリ何等補助金ヲ給スベキモノニ非ズト説示シ鐵道従業員同盟執行委員會解散ヲ求メ各人其ノ權限ヲ忘ル可カラザルコトヲ諭示セリ尚別ニ往電第二五六号第二項(イ)ノ三月二十

六日決議ヲモ告示セリ

右北京、松平、奉天及關係領事へ転電セリ

九四九 四月十六日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

鐵道委員會ニ於テ東支鐵道經濟援助ニ関スル
中国代表ノ発言並烏蘇里鐵道運行復旧ニ関スル
露國側ノ聯合會議決議ニ付報告ノ件

第一六〇号 （四月十七日接受）

四月十四日鐵道會議開催本官帰任早々ニテ代理ヲ出席セシム支那代表者ハ北京ヨリノ通報トシテ「支那政府ハ更ニ鐵道援助資金米貨五十万弗ヲ提供ス過般一旦東支鐵道ノ為ニ五十万弗ヲ支那技術部員ニ送金セシモ技術部廃止ノ風説アリシ為同人ハ独断ニテ右資金提供（昨年往電第六二六号ノ分）ヲ差控ヘタルガ政府ハ右資金ノ外既ニ銀百五十万弗ヲ東支鐵道ニ交付シ居レルガ此ノ後トモ同鐵道ニ經濟的援助ヲ与フル意志ナリ」ト述ベタルガ右通報中ノ百五十万弗ニ関シテハ支那委員ハ客年春頃ヨリ幾回カニ亘リテ同鐵道會社ニ交付シタルモノナル由述ベタリ右ニ関シテハ今井技術部員ニ調査方依頼スル積リ又露國代表者ハ臨時政府交通部

註 四日事變トハ四月四日浦潮ニ於ケル日露兩軍ノ衝突事件ヲ指ス

九五〇 四月十七日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ウスリー鐵道運行復旧ニ関シ鐵道委員會審議

狀況報告ノ件

第一六二号 （四月十八日接受）

四月十七日鐵道委員會開催往電第一六〇号烏蘇里鐵道復旧ニ関スル事ヲ審議セリ「スミス」モ数日前帰還シ出席セリ後員加爾ヨリ帰來セル途中ニテ見聞セル日本軍隊ノ不法行動ヲ種々報告シ例ニ依リ日本軍憲ニ対スル惡感ヲ遺憾無ク發揮セリ尚日本軍ガ今回ノ事件以來鐵道ヲ自ラ管理セル如キ態度ヲ取り居ルニ付日本軍ハ尚鐵道協約ノ存続ヲ認メ居ルヤ否ヤヲ大井司令官ニ確メ度ク若シ存続スルモノトスレバ烏蘇里線ノ開通ヲ安全ナラシムル為必要ナル手段ヲ取ルニ関シ聯合委員會ト可成妥協のニ処置セラルル意アルヤ否ヤヲ確メタシトノ議論出デタルガ本官ハ烏蘇里鐵道側ノ條件ヲ本會議ニ於テ議スル限ニアラズ過般事件ハ日露軍衝突ノ結果我軍ニ於テ自衛上露軍ノ武装解除ヲ実行シタルノミ

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九五〇

烏蘇里鐵道地方委員會及軍事輸送官等ノ代表者集リ四月十三日聯合會議ヲ開キ烏蘇里鐵道運行復旧ニ付為シタル決議書ヲ通告セシガ大要左ノ通り

會議ハ四月五日臨時政府ガ日本軍司令官ニ交附シタル覺書ヲ支持シ（往電第一四二号ノ抗議書ヲ指スモノナラン）又鐵道従業員ハ如何ナル軍事官憲ト雖モ鐵道事務ニ干渉スル以上職務ニ就ク能ハザルコト竝ニ露國市民ト戦ハンガ為ニスル日本軍隊列車ノ運行ニ対シテハ之ニ尽力セザル見地ヲ以テ烏蘇里鐵道運行恢復ノ為ニハ左ノ諸項ヲ必要トス
一、烏蘇里線各停車場及機關車庫ヨリ日本守備兵ヲ撤去シ露國鐵道民警之ニ代ルコト

二、四日事變^註以前ニ存在セシト同一ノ狀態ニ復旧セシムル了解ノ下ニ烏蘇里鐵道ヲ臨時政府交通部ニ還附スルコト
三、日本守備隊撤退ニ當リテハ交通隊及鐵道民警ヨリ成ル特別委員會ハ日本軍指揮官立會ノ上各鐵道官有物ノ還附ヲ受ケ其際調書ヲ作成スルコト

右通告ノ後露國代表者ハ日本側ニ於テ右ノ内幾分ニテモ応ゼラレ人心緩和ヲ計リタキ旨希望セリ
右松島へ転電シ金井へ伝ヘシメタリ

ニテ鐵道ノ運行ヲ妨ゲタルコト無シ右ハ露國側ニ於テ之ヲ止メタルノミ故ニ是ガ復旧ハ勿論日本軍ニ於テ希望スル所ナレドモ烏蘇里鐵道側提出ノ條件ヲ本委員會ニ於テ議スル限ニアラズ目下軍隊輸送ノ必要上止ムヲ得ズ自ラ軍用列車ヲ動カシ居ルモ交通復旧スルニ於テハ干渉ノ意無シ鐵道協約ノ存続ハ日本軍ニ於テモ認メ居ルト思考ス尤モ本會ニ於テ強ヒテ軍司令官ノ意向ヲ尋ネラレタキ希望アルニ於テハ本官ニ於テ異議無キ旨述ベタルガ一般ノ人心鎮撫ノ為一応司令官ノ意向ヲ聞キ度シトノ意見ニ一致シ前記ノ二問ヲ本官ヨリ司會官ニ確ムルコトニ決議セリ同時ニ本官ハ今回ノ鐵道罷業ハ臨時政府ノ使囑ニ依ルトノ噂アルニ付本委員會ヨリ臨時政府ニ対シ鐵道従業員ニ復業スル様努力方ヲ要求スルコト至当ナル旨ヲ提議シ全會一致ニテ可決セリ
哈爾賓へ転電シ金井參事へ伝ヘシメタリ

九五一 四月二十一日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

東支鐵道ニ於ケル日本軍ノ行動ヲ非難スル決
議案ニ関シ鐵道委員會審議ノ件

第一七二号 （四月二十二日接受）
九五一 一一七九

四月二十日鐵道委員會開催我軍ノ東支線ニ於ケル横暴ニ對シ四月十四日技術部ニ於テ決議セル強硬ナル抗議ニ関シ審議セリ「スミス」ハ本件及其他ニ関シ日本軍ノ行動ヲ極力非難シ支那委員ハ之ヲ機トシテ日本軍他國ノ守備区域内ニアルコトヲ攻撃シタルガ本官ハ軍ヨリ得タル情報ヲ適宜取捨シテ之ヲ示シ尚他國ノ守備区域ニ他ノ目的ヲ以テ軍隊ノ存在スルコトハ最初ヨリ差支ナキコトナリ居ル旨ヲ指摘シタルガ「スミス」ハ東支線内日本軍ノ行動ニ関シ技術部同様強硬ナル抗議ノ決議案ヲ提出シタルガ本官ハ飽迄反對シ一方ノ情報ニ依リテ此ノ如キ決議ヲ為スコトハ穩当ナラズ且從來技術部ハ東支線ニ於テ支那軍隊ノ為シタル幾多ノ暴行干涉ニ對シ曾テ之ヲ本委員會ニ報告セシコトナキニ拘ラズ偶々日本軍ノ行動ニ関スレバ直チニ抗議の二出ヅルハ公正ナル列國會議ノ執ルベキ態度ニアラズ本委員會ニ於テハ公平ニ判斷セザルベカラザル旨論爭シ露國委員ハ技術部ガ直接北京ニ報告セルハ本來ノ手續ヲ誤レリト指摘シ本官ノ意見ニ賛成シ單ニ委員會ヨリ大井司令官ニ對シ事實ヲ調査シ尚此ノ如キ事件ノ繰返サレザル様手段ヲ講ゼラレンコトヲ要請スル案ヲ出シタルガ「スミス」ハ技術部ノ威信ニ関

スルコトトシ強硬ニ自説ヲ主張シ支那委員之ニ賛成シ「チエック」ハ之ニ賛成ノ意ヲ表シタルモ議決ニ加ハルヲ避ケ英國委員ハ事實ノ調査不確實ナリトテ露國案ニ賛シ仏國モ亦之ヲ助ケ多數決ニテ露國案ニ決定セリ往電第百六十二号大井司令官ニ對スル質問ニ對シ司令官ハ鐵道協約ノ有効ニ存在スルコトヲ認メ守備軍ハ鐵道及其ノ從業員保護ニ努力シ居ル旨ヲ回答セリ從業員ハ尚復業セザルモ当地ニ於ケル石炭食糧欠乏ノ為追々局部ノ運轉ヲ開始スベキ見込ナリ右哈爾濱へ第六八号トシテ電シ金井へ伝ヘシメタリ

九五二 四月二十五日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛 (電報)

東支鐵道回收ニ関スル中国側ノ動向ニ付仏國側ノ意向ヲ内探スル様訓電ノ件

第二三六号

東支鐵道ノ運輸狀態ヲ改善セムカ為支那側ニ於テ適當ノ方途ヲ講セムトスルハ露國ノ現状ニ顧ミ且ハ支那トシテハ其ノ領土ヲ通過スル本鐵道ニ對シ特ニ利害ヲ感スル關係ヨリ見テ已ムヲ得サル事態トシテ之ヲ諒トシ場合ニヨリテハ我方ニ於テモ相當援助ノ手段ヲ尽スヲ辞スルモノニアラスト

雖最近支那側ノ東支鐵道ニ對スル態度ヲ見ルニ從來其ノ回收の措置ノ効ヲ奏セルニ乗シ輒モスレハ此際鐵道自体ノ回收ヲモ敢テセムトスル形跡ナキニアラス (在奉天赤塚總領事來電第二四号及在吉林森田總領事來電第三二二号等参照) 若シ支那ノ真意ニシテ果シテ茲ニ在リトセハ之畢竟露國ノ混沌タル局面ヲ利用シ露支間ノ條約ヲ無視シテ迄モ利権回收ノ措置ヲ敢行セムトスルモノニシテ同鐵道ト密接ノ關係ヲ有スル我滿鉄ハ勿論同鐵道資金ニ對シテ重大ナル利害關係ヲ有スル仏國側ニ取リテモ充分考量ノ必要有之儀ト思考セラルルニ就テハ貴官一個ノ思附トシテ仏國側ノ腹藏ナキ所見ヲ内探セラレ結果電報アリタシ

九五三 四月二十七日 閣議決定

ウスリー鐵道ノ運行ヲ日本軍ニ依リ実施ノ件

陸軍省

烏蘇里鐵道運行改善ニ関スル件

現下烏蘇里鐵道ハ露國從業員ノ結束の罷業並過激派ノ線路破壊其ノ他各種ノ妨害ヲ蒙リ為ニ交通全ク杜絶ノ狀態ニアリ而シテ現況ヲ自然ノ推移ニ委スルハ軍ノ存立ヲ危殆ナラ

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九五三

シムルヲ以テ軍ハ自衛上自ラ起テ該鐵道ノ運行ヲ實施シ自己ノ安全ヲ確保セサルヘカラス依テ応急ノ処置トシテ近ク交代スヘキ鐵道隊大正五年兵ノ帰還ヲ一時見合セ且南滿洲ニ駐屯シアル工兵第十六大隊ヲ一時西伯利ニ派遣シ鐵道運行業務人員ノ不足ヲ補足シ現況ノ急需ニ応スルコトト致度

右ニ要スル經費左ノ如シ

- 一、鐵道隊ノ交代兵帰還見合せノ為
維持費 月額 約五万円
- 二、工兵第十六大隊派遣ノ為
一時費 約八万円
維持費 月額 約六万円

九五四 五月三日

陸軍省ヨリ
外務省宛

シベリア及東支鐵道ノ監督案並張巡閱使ヨリノ借款申込等ニ関スル件

西伯利及東支鐵道対策

一、西伯利及東支鐵道ノ監督ハ米國委員撤退後ニ於テハ日英仏露支各國ニ於テ繼續實施ス之カ為決定スヘキ要件左

九五四

ノ如シ

- A 技術部長ハ日本委員ヲ以テ之ニ充ツルコト
- B 鐵道經營ニ要スル經費ハ必要ニ応シ日本之ヲ負担スルコト

二、鐵道監督案カ我希望ノ如ク実施セラレサル場合ヲ顧慮シ張巡閱使ノ申出ニ係ル借款ハ左ノ如キ目的ヲ以テ之ニ応ス

A 将来東支南線ノ利権ヲ我國ニ收ムルコト

B 賓黒鐵道ヲ日支合辦ニテ經營スルコト

三、東支鐵道ニ対スル支那ノ措置ニ対シテハ一時ノ変態トシテ之ヲ妨害スルコトナク善意的傍觀ノ態度ヲ取ルモノトス但シ露支條約ニ於ケル露國ノ正当ナル權利利益ハ之ヲ認ムルコト勿論ナリ

前項支那ノ權利回復ハ之ヲ以テ直ニ我南滿洲ニ於ケル權利利益ニ影響スルコトナシト認ム

九五五 五月七日 閣議決定

東支鐵道及シベリア鐵道管理善後ニ関スル閣議案^(註)

ハ帝國側ニ於テ露支等ニ対シ抑圧的態度ニ

出ツルカ如キ猜忌心ヲ外間ニ与フルノ惧アルカ上支那側等ニ於テ直ニ之ヲ利用スヘク假令一時我ニ応シテ步調ヲ一ニスルモ一旦協調ヲ不便トスレハ直ニ我方トノ關係ヲ破ルノ懸念アリ況ヤ從來協同ノ精神ニ則リ好意ヲ示シ來レル仏國側等トノ現取極ニ基ク連鎖ヲ失ヒ之カ為メ收拾スヘカラサル危険ヲ伴フニ至ルコトアルヘキヲ稽フルトキハ本取極存続ハ政策上亦必要ナリト謂ハサルヘカラス

(二)米國委員撤退後ハ技術部長ニ帝國委員ヲ選任スルコト

理由

(一)ニ述ヘタル如ク取極存続說ヲ採ルトキハ技術部長「ステイヴンズ」離任後ハ帝國側ヨリ同部長ヲ出スコト最必要ニシテ妥当ノ措置ナルコトハ更ニ贅說ヲ要セサルヘシ

(三)援助資金ハ場合ニヨリ帝國ニ於テ全部ヲ負担スルノ覺悟ヲ要スルコト^(註)

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九五六

東支鐵道及西比利亞鐵道管理善後案

(一)聯合國東支鐵道及西比利亞鐵道管理ニ関スル取極ハ米國軍及米國鐵道專門家等撤退後ト雖有効ニ存続ス

理由

一、條文上・同取極第五項ニ「本取極ハ聯合軍カ其ノ策動地帯内ヨリ撤退スルト同時ニ消滅スヘク而シテ本取極ノ下ニ任命セラレタル外國鐵道專門家ハ直ニ召還セラルヘシ」トアリ然ルニ米國軍撤退後ト雖帝國軍隊ハ尚依然同地帯内ニ駐屯シツツアリテ同項ノ所謂「聯合軍」ノ一部ハ從來ノ儘殘留スルモノト認ムルヲ條理上妥當トスヘク從テ其ノ撤退ヲ見ル迄ハ本取極ハ消滅セサルモノト解釈スルコト條文上正當ナリ

二、政策上

若シ本取極ニシテ米兵等撤退ト共ニ消滅スルモノトセハ同地帯ニ關係アル各國即チ日露支等ノ間ニ更ニ新協定ヲ締結シ以テ新事態ニ対応セシムルヲ要スヘシ然ルニ從來ノ行懸ヲ離レ改メテ新ナル取極ヲ成サムトセ

理由

米國ノ撤退後英仏ニ於テ本管理ニ参加スルトスルモ從來ノ行懸ニ徴シ到底其ノ費用ノ分担ヲ望ムコト能ハズ支那ノ分担モ亦種々利害ヲ考量シテ其ノ許否ヲ決スルノ要アリ旁々帝國政府ニシテ前(一)(二)ノ方針ニ拠ッテ進ムモノトセハ勢ヒ之カ費用ノ全部ヲ負担スルノ覺悟アルヲ要スヘク其ノ額ハ關係庁ノ概算ニヨレハ初年貳千万円次年度以降ハ壹千万円ナリト云フ

註 本閣議案ノ冒頭余白ニ左ノ書入アリ

「大正九年五月七日閣議決定但第三項ヲ削除シ左ノ趣旨ニ改ム

本案ノ(三)援助資金ニ付テハ予而帝國側ニ於テ支出方内定シ居タル八百万円ノ内既支出四百万円ヲ控除シタル殘額四百万円ヲ以テ援助ノ目的ヲ統行スルコトニ定ム」

九五六 五月八日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛

ウスリー鐵道業務引渡協定寫送附ノ件

附屬書 右協定寫

軍政送第三四号

(五月十五日接受)

大正九年五月八日

浦潮派遣軍政務部長 松平恒雄(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

烏蘇里鐵道業務引渡ニ関スル件

本件ニ関シテハ往電第二〇六号ヲ以テ不取敢大要及報告置候処星野野戰交通部長及スペングレル鐵道長官間ニ調印セル別紙協定書写致ニ送附供貴覽候 敬具

(附屬書)

五月七日附ウスリー鐵道業務引渡協定書

烏蘇里鐵道業務引渡ニ関スル協定

一九二〇年五月七日下記署名者日本軍野戰交通部長星野中將及沿海州臨時政府烏蘇里鐵道長官「スペングレル」ハ左記協定ヲナス

第一条 日本軍ニテ使用中ノ鐵道用建物及従業員ノ宿舍ハ出来得ル限り速ニ之ヲ開放ス

但シ守備隊用ノモノハ野戰交通部長ノ權限外ナルヲ以テ之ヲ軍司令部ト臨時政府トノ交渉ニ委シ野戰交通部長ハ好意ヲ以テ其ノ仲介ノ勞ヲ取ル

烏蘇里鐵道庁ハ日本軍ニ於テ必要ト認ムル停車場ニ第三条ニ示ス施設機關ノ為メ所要ノ室等ヲ提供ス但シ其

分其作業ヲ繼續ス但シ實施ノ細部ニ関シテハ技術部ハ日本軍及鐵道庁側ヨリ出サレタル特別委員間ニ於テ協定ス

一番川機關庫ニ在ル日本軍職工ハ之ヲ撤去ス但シ将来必要ニ際シテハ技術部ノ了解ヲ得タル上露國側ヲ援助スルノ精神ヲ以テ再ヒ作業ニ就クコトヲ得

第六条 運輸ニ要スル燃料及消耗品ノ大部ハ五月十日迄日本軍所屬ノモノヲ使用シ五月十一日以後ハ鐵道庁所屬ノモノヲ使用ス

第七条 日本軍々事輸送ハ鐵道監督協約ノ精神ニ基キ軍事輸送部ノ決議ニ依リ鐵道側ハ適確ニ之ヲ実行ス

第八条 技術上ニ関シテハ鐵道監督協約ニ基キ鐵道側ハ技術部ノ指示ヲ遵奉ス

第九条 日本軍ハ鐵道用電信電話ヲ当分ノ内隨時ニ使用スルノ權利ヲ保留ス

第十条 日本軍ハ鐵道従業員ノ行為ニ依リ運行杜絶等ノ結果日本軍ノ存立ヲ危クスルニ至ルトキハ直ニ自ラ応急運転ヲ實施スルノ權利ヲ保留ス

第十一条 鐵道当局者及従業員ハ從來各種ノ行違ヒヨリ生一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九五七

實施ハ現地ニ於ケル協定ニ依ル

第二条 情況ノ變化ニ伴ヒ不必要トナリタル歩哨ハ之ヲ撤去ス但シ鐵道警備ニ必要ト認ムル個所例ヘハ機關庫給水機等ニハ当分ノ内之ニ接シテ歩哨ヲ置クモノトス歩哨ノ數ハ日本軍ニテ之ヲ定ム

第三条 鐵道業務ハ五月十一日午前六時ヲ以テ鐵道庁ニ引渡ス鐵道庁ハ浦潮、東支線間ニ於ケル日本軍々事輸送ヲ確實ニ遂行スルコトヲ保証ス

五月十一日引渡以前ト雖モ鐵道従業員ハ就業シ鐵道庁ハ日本軍ノ同意ヲ得テ乗客貨物及鐵道用列車ヲ運行スルコトヲ得但シ運行ノ規定ハ日本軍ノ定ムル所ニ從ヒ鐵道庁ハ運行間ノ危險ノ予防ニ関シ保証ヲ与フルモノトス

五月十一日引渡以後ニ於テモ日本軍ハ警戒上ノ必要ニ際シテハ日本軍々用列車ノ機關庫ニ乗務者ヲ添乗セシムルコトアリ日本軍ハ各停車場ニ停車場司令官若ハ其派遣員ヲ設置ス

第四条 尼市以北ノ烏蘇里線ノ引渡ニ就テハ更ニ協定ス

第五条 現在尼市機關庫ニ於テ作業中ナル日本軍職工ハ当

セシ日本軍ニ對スル感情ヲ一掃シ將來ノ輸送業務ニ関シ鐵道側及日本軍隊ハ相互ニ好意ヲ以テ協力ス

大正九年五月七日

日本軍野戰交通部長 星野中將

烏蘇里鐵道長官 「スペングレル」

九五七 五月九日 在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

鐵道従業員同盟会ノ日本軍輸送拒絶決議ニ関スル件

第三六七号 (五月十日接受)

在當地鐵道従業員同盟会ハ五月三日ノ會議ニ於テ日本ハ其ノ声明ニ反シテ露國內政干涉ヲ繼續シ今ヤ増兵ヲ斷行シテ將ニ東部西比利亞ヲ占領シ終ラントス吾人ハ支那領土内ニアルモノ素ヨリ之ニ抵抗スル實力ヲ有セズ唯日本ノ行動ニ對スル聯合諸國ノ責任ヲ問ヒ世界ノ同胞ニ訴フルアルノミ明日我同胞ヲ討伐スベキ日本軍ヲ輸送セシカ吾人ハ同胞殺戮者祖國叛逆者トナルノ羽目ニ陥ルベク之吾人愛國者ノ到底忍ブ能ハザル所ナルヲ以テ吾人ハ日本軍輸送ノ衝ニ當ルコトヲ拒絶スト決議シタルガ本日當地ニ達シタル日本軍用

列車ハ露国機関手ニ依リ無事運転セラレタリ露人中ニハ彼等ノ決議ナルモノハ一部主謀者ノ遠吠ニ過ギズト觀察スルモノアルモ未ダ安心ヲ許サズ

北京、松平、齊々哈爾、滿洲里へ転電セリ

九五八 五月二十日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

チェック軍ノ輸送料金ヲ東支鉄道請求ノ件

第二二三号 (五月二十一日接受)

貴電第一一一号ニ関シ在西比利亞「チェック」軍ノ鉄道輸送料金ハ今日迄一回モ支払ハレズ右ニ対シ東支鉄道ハ経営困難ノ為屢々「チェック」軍輸送料ヲ請求シ特別委員会ニ於テモ昨年来屢々審議セルモ「チェック」及仏国委員ハ其都度「ジャナン」ニ又ハ仏国政府ニ問合せベシト答フルノミニテ要領ヲ得ズ本月十七日委員会ニ於テモ露国側ヨリ本件ヲ提出シ列国殊ニ「チェック」ノ支払ニ対シ督促スルコトヲ決議セリ東支鉄道ノ「チェック」ニ対スル請求額ハ五月ニ至ルマデ大約金四百五十万弗ナル由

九五九 五月二十二日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

コトハ差控へ置キタリ) 同領事ハ米國従業員撤退後協約ノ存在スルコトハ全ク意外ナル如キ様子ニ見受ケラレタリ右ノ談ハ「スミス」ト相談ノ上為シタルモノト思ハル尚昨今当地方露國従業員等ハ幾ラカ米國技師ノ留マランコトヲ希望シ居リ米國政府へ電報ヲ発シタル形迹アリ又本國政府ノ意見ハ別トシ当地米國委員始メ他國委員ハ「チェック」輸送完了米國従業員撤退後ハ鉄道協約消滅スルモノト期待シ居ル模様ナリ右ノ如キ状態ナルニ付貴電合第八二号ノ方針ハ此際速ニ關係國政府ニ通知セラレテ了解ヲ付ケラルコト必要ト思考ス若シ既ニ御交渉中ナレハ其經過承知シタシ尚当方ニ於テ聞カレタル場合ニハ帝國政府ノ方針トシテ貴電合第八二号ノ次第ヲ言明シ差支ナキヤ御回示ヲ請フ

註 合第八二号ハ五月十八日内田外務大臣発松平政務部長宛合第八一号ノ別電ナリ合第八一号ハ左ノ通
東支鉄道及西比利亞鉄道管理ニ関シ政府ニ於テハ差当リ別電ノ趣旨ニ基キ之ヲ処理スルコトニ決定セリ右御含迄
右別電菊地へ伝ヘラレタシ
尚合第八二号ハ前掲五月七日東支鉄道及西比利亞鉄道管理善後案閣議決定全文ナリ

一五 シベリア及東支兩鉄道管理ニ関スル交渉一件 九六〇

日本側ハ米國鉄道従業員ノシベリア殘留ヲ希望スルヤト米國領事ヨリ問合アリタル件

第二二五号 (五月二十三日接受)

五月二十一日米國領事來訪過日星野中將「スミス」ト会谈ノ際同中將ハ米國鉄道従業員ノ將來引続キ西比利亞ニ残ラシコトノ希望ヲ述ヘラレタル由ナルカ右ハ日本軍ノ意向ヲ代表セラルル如キ意味合ナルヤ又本官ニ於テモ右ヲ希望セラルルヤ承知シタク其結果米國政府へ意見ヲ上申センカト考ヘ居ル旨述ヘタルニ付星野中將ハ全然個人ノ意見ヲ述ヘタルモノト思ハレ軍ノ代表的ト見做ス能ハス星野氏ハ鉄道協約ノ存続ヲ希望シタルモノニシテ特ニ米國技師ノ殘留ヲ希望シタルモノニアラスト思ハル本官トシテハ米國従業員ハ曾テ米國政府ノ宣言ニ基キ早晚撤退スルモノト期待シ日本政府ニ於テモ又其期待ニ基キ今後ノ方針ヲ考ヘ居ルモノト思ハル從テ本官ハ特ニ米國従業員ノ殘留希望ヲ考ヘ居ラサリシ次第ナリ同鉄道協約ハ聯合軍ノ一部止マリ居ル間ハ米國従業員撤退後ト雖モ存続セラルル様解釈セラルル旨述ヘタル処(貴電合第八二号ニ関シ本件發表ニ関シ政府ニ於テ別ニ御考案アルカト思考シ政府ノ方針トシテ言明スル

九六〇 五月二十七日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮松平政務部長宛(電報)

シベリア鉄道管理ニ関スル帝國政府ノ態度ヲ言明スルコトハ差控フル様回訓ノ件

第一〇五号

貴電第二二五号ニ関シ

西比利亞鉄道管理ニ関スル帝國政府ノ態度言明方ノ問題ニ関シテハ往電一〇三号^(註)關係列國側ノ意嚮ヲ確メタル後決定スルヲ得策ト思考スルヲ以テ往電合第八二号ノ次第言明方ノ儀ハ差当リ差控ヘラレ度シ

註 五月二十二日外務大臣發松平政務部長宛電報第一〇三号ヲ省略セルガ該電ハ西比利亞鉄道管理ニ関シテハ帝國政府ノ意向含ミノ上鉄道特別委員会ニ於ケル各國代表者側ト可然協議スル様訓令セルモノナリ

九六一 六月四日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鉄道及シベリア鉄道管理ニ関スル取極ノ存続問題ニ付回電ノ件

第二四九号 (六月五日接受)
貴電第一〇三号ニ関シ

英国委員「ホヂソン」ノ意見ヲ尋ネタル処「チエック」撤退米國委員引揚ト同時ニ鉄道協約ハ消滅スヘシト述ヘタルニ付本官ハ協約ノ解釈上及實際ノ便宜上協約ノ存続必要ノ意見申述ヘタル処日本側ニ於テ存続ヲ希望セラルルニ於テハ勿論存続ニ異議ナシト述ヘタリ支那委員林提督ニ尋ネタル処別ニ意見モ無ク政府ニ問合ハスヘシト述ヘ本官ノ意見ヲ問ヒタルニ付自己ノ思附トシテ存続ノ必要ヲ述ヘタル処自分モ之ニ同意ナルニ付其旨北京政府ニ申送ルヘシト述ヘタリ仏國委員「アンドレー」モ亦林ト同様ノ返答ヲナセリ要スルニ何レモ個人トシテハ存続ニ異議ナシ六月四日「ミス」ニ面会夫レトナク米國側ノ態度ヲ確メタル処米國技師大部ハ近々出發ス可キモ「スチーヴンス」及自分ハ何等命令ノアル迄其儘殘留スヘシトノ訓令アリタリトテ其口吻ニ依リテ察スルニ「チエック」輸送完了後ト雖モ日本其他ニ於テ協約ヲ存続スル以上引続キ殘留スルモノカト思ハル技術部長後任ノ問題ハ未ダ切り出スコト却ッテ面白カラスト思考シ差控ヘ居レリ米國側ニテ果シテ脱退シ他ノ諸國ニ於テ繼續ニ同意セバ技術部長後任問題ノ解決ハ容易ト思考スルニ付暫ク成行ヲ見ルコト然ルヘシ

人關係ノモノノミニシテ何等直接ニ支那側ニ関スル所ナク且該摘録中ニモ記述セル如ク之等ノ事例ハ多クハ既ニ原狀回復ヲナセルモノナルニ顧ミ右ハ畢竟支那政府ノ東支鐵道回收問題ニ伴ヒ同地帯内ニ於ケル自己ノ權力ヲ主張セントスルモノニ過キササルモノト認メラレ候ニ付旁支那政府ニ對シテハ此際何等回答ヲナスコトナク此儘不問ニ附スルコトト致候条右様御承知相成度此段及報告候他

註 抗議ノ中国文覺書寫ヲ省略シ小幡公使ヨリ送附越ノ和訳文ノミ採録ス

(附屬書) 中国政府覺書ノ和訳文

覺書

地方官ヨリノ屢次ノ報告ニ依レハ此數月以來東支鐵道沿線ニアル貴國軍隊ハ頗ル範圍ヲ逸シタル挙動アリ例ヘハ停車場ヲ占領シテ交通ヲ阻止シ列車ヲ強弛シ露國工人ヲ虐待シ及他國軍隊ト争端ヲ開ク等ノ如キ夫夫調査ノ上或ハ既ニ原狀ニ復シ或ハ調停ノ上平息シ或ハ誤會ニ基クモノト雖モ而モ其事跡ヲ究ムレハ貴國軍隊カ我領土内ニ於テ如斯種々ナル範圍外ノ行動アルハ邦交ヲ顧念シ及兩國ノ親善ヲ促進スルノ道ニ非サルヲ以テ決シテ貴國政府ノ意ニ出ツルモノニ

註 外務大臣発第一〇三号ニ付テハ前掲外務大臣発松平政務部長宛第一〇五号末尾ノ註参照

九六二 六月四日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

東支鐵道地帯内日本軍隊ノ行動ニ對スル中国

政府ノ抗議ニ關スル件

附屬書 右中国政府ノ覺書と和訳文

機密第二一九号 (六月九日接受)

大正九年六月四日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

東支鐵道地帯内ニ於ケル帝國軍隊ノ行動ニ關シ支那政府ヨリ抗議接到ノ件

今般支那政府ヨリ近來東支鐵道地帯内ニ於ケル帝國軍隊ノ行動力往往支那ノ主權ヲ無視セルモノアリトテ地方官憲ノ報告ニ基ク摘録ヲ添付シ別紙寫ノ通り抗議スルト共ニ帝國政府ノ注意ヲ喚起シ度キ旨ノ覺書^(註)ヲ送越候処右附屬書中ニ列挙セル各事項ハ何レモ主トシテ東支鐵道自体若クハ露國

ハ非サルハ之ヲ諒トスルモ茲ニ吉林黑龍江省等ノ報告ニ基キ貴國軍隊カ東支鐵道沿線ニ於テ中国ノ主權ヲ妨害セル行動ヲ別紙ニ摘録ノ上貴公使ニ送付スルニヨリ委細貴國政府ニ転電ノ上貴國政府ヨリ在東支鐵道沿線ノ軍隊長官ヲシテ嚴重兵士ヲ取締リ再ヒ前項ノ如キ行動ナカラシメ以テ睦誼ヲ堅クスル様電命方取計ハレ度何分ノ儀回答煩ハシ度シ

(別紙)

一、三月十九日吉林督軍發边防処宛電報ニ依レハ日本軍用列車カ寬城子駅ニ到着セル際露國労働党ハ之カ点驗ヲ求メタルニ日本軍ハ許可セスシテ該党ノ首領ヲ監視シ並ニ兵ヲ派シテ該停車場内ニ歩哨ヲ設ケ機關銃ヲ据付ケテ交通ヲ遮断セルコトハ未タ地方官ト商議セス日本公使ニ向テ交渉セラレンコトヲ請フ云々

查スルニ寬城子駅ノ日本軍隊本部ハ長春交渉員ヨリノ電報ニ依レハ已ニ撤退セリ

二、濱江關及滿洲里分關發稅務処宛前後ノ電報ニ依レハ日本兵ハ滿洲里駅ヲ占領シ「プラットホーム」及屋上ニ機關銃ヲ据付ケ外来ノ列車ニ對シテハ一一包囲シテ搜查ヲ行ヒ政治的關係アル旅客ヲ抑留ス又三月二十七日露領ヨ

リ満洲ニ到ル列車ニ「セメノフ」軍輸送ノ物品ヲ搭載シ来レルカ未納税ノモノタリシ為税関ニ抑留シ納税後発車セシムル筈ナリシニ突然日本兵ハ露兵ヲ帮助シテ勝手ニ物品ヲ卸シ去リタリ此種ノ行動ハ殊ニ東支鉄道区域内ニ於テ紛擾ヲ發生セシムヘキモノナレハ御取調ヲ請フ云々查スルニ本件ハ本部ヨリ黒竜江督軍ニ取調方ヲ電命シ置キタルニ其復命ニ依レハ満洲里ノ日本軍隊ハ現ニ亦撤退セリ三、四月二日吉林督軍ヨリ本部宛電報ニ依レハ日本連絡員佐々木ハ海拉爾ノ張鎮守使ニ対シ長官ノ密令ヲ受ケ「セ」軍ヲ保護シ並ニ海拉爾駅ノ重要機關看守ヲ分担セントスル旨言明セリ斯ハ顯ニ中國ノ主權ヲ侵害スルモノナレハ嚴重交渉ヲ請フ云々トアリ

四、四月十二日吉林督軍ヨリ同十四日黒竜江督軍ヨリ本部宛電報ニ依レハ十一日海拉爾駅ニ於テ日本軍カ露國ノ工人ヲ逮捕セントスル事ヨリ該地ノ「チェック」軍ト衝突シ互ニ死傷アリ中國軍官ノ調停ニヨリ解決セルカ十三日ニ至リ復タ前議ヲ翻シテ殆ト事端ヲ開カントシ再ヒ調停ヲ經テ平息セリ一再ナラス中國ノ領土ヲ以テ任意ニ戰闘ノ場所トスルハ誠ニ不都合ナリ交渉セラレタシ云々トア

リ

查スルニ本件ハ東少將カ本部ノ部員ニ面談セル所ニ抛レハ「チ」軍カ日本軍隊ニ向ヒ機關銃及爆彈ヲ放チシニ依ルモノナリト言フモ事ノ如何ニ論ナク海拉爾駅ハ中國ノ領土ナレハ日本軍隊ノ之等ノ行動ハ範圍ヲ逸シタル所ナキニ非ス五、四月十八日本部カ黒竜江督軍ヨリ接受セル電報ニヨレハ黒河張道尹巴司令ノ報告ニヨレバ十七日十一時日本官兵十六名ハ機關銃二台ヲ小帆船ニ搭載シ試演セントスル様子ナリシヨリ中國ノ哨兵ハ之ヲ阻止シテ止ミタルニ依リ日本ノ柴男中佐ニ向ッテ詰問セシニ一時ノ疎忽ナリト云ヘリ日本公使ニ通告シ再ヒ如斯行動ナキ様電飭方取計ハレタシ

六、四月十七日吉林鮑督軍ヨリ國務院辺防処宛電報ニヨレハ日本ハ近來防備變更ヲ名トシテ突然軍隊ヲ増加シテ東支鐵道沿線ニ分布セリ交渉ノ上阻止シ誤會ヲ生セサル様致度シ云々
查スルニ本件ハ前キニ辺防処ヨリ東少將宛照會シ同少將ノ面談ニ基キ既ニ転電回答セリ

七、吉林督軍宛本部宛屢次ノ電報ニヨレハ日本軍ハ東支鉄

道沿線ニ於テ屢々露人ヲ虐待スル等ノコトアリ一面坡醫院ノ露人二名カ突然銃殺サレタルカ如キ又満洲里駅海拉爾駅ノ日本軍隊ハ屢々露國ノ工人ヲ逮捕セリ云々

查スルニ本件ハ既ニ本月十二日覺書ヲ以テ申進メタル通りナリ

九六三 六月九日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道沿線ニ駐在ノ日本憲兵ヲ至急撤退方

外交部ヨリ申越ニ付回答振請訓ノ件

第五一三号

(六月九日接受)

外交部ヨリ口上書ヲ以テ昨年ヨリ東支鐵道沿線一面坡、張家灣本年二月以後穆稜綏芬河横道河子四月以後双城海林ノ各所ニ日本憲兵駐在シ將來モ常駐セントスルモノノ如キニ付隨時日本領事ニ交渉シタルモ要領ヲ得ズ然ルニ該鐵道ハ支那ニ於テ完全保護ノ責任ヲ負フノミナラズ本件ハ支那領土主權ニ妨害アリ且兩國軍隊接近シ互ニ誤解ヲ生ジ易キニ付前記憲兵ハ至急之ヲ撤退セシメラレ度キ旨照會シ来レリ就テハ之ニ対スル回答振至急御電訓ヲ請フ

哈爾賓、吉林、松平へ転電セリ

一五 シベリア及東支兩鉄道管理ニ関スル交渉一件 九六三

九六四 六月十八日 内田外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

東支鐵道ヲ對中國新借款團事業ノ範圍内ニ置

ク案ニ付英國大使來談ノ件

附記 東支鐵道ニ對スル我措置案私見

第二八〇号

在本邦英國大使六月十四日来訪日本ハ奉天ニ兵力ヲ集中シツツアルヤノ風説アリ又西比利亞ノ駐兵ニ関シテモ種々ノ風説伝ハリ居レル処右ハ事實ナリヤト訊ネ更ニ東支鐵道ニ言及スル所アリタルニ付本大臣ハ奉天ニ兵力集中ノコトハ全然無根ナリ又西比利亞駐兵ニ就テモ事体ノ許ス限リ速カニ「チタ」方面ヨリ撤兵スルコトニ内定シ居レル程ニテ日本ガ東支鐵道ヲ管理スルナドトハ考ヘ居ラザル所ナリト答ヘタルニ英大使ハ実ハ本国政府ノ訓令ニ依ル Tentative suggestion ニ過ギザルモ東支鐵道ニ對シ新借款團ニテ出資經營スルコトシテハ如何本件ニ付先般「ラモント」又ハ「モリス」大使ヨリ何等提言シタルコトナカリシヤト尋ネタルニ付右兩人ノ何レヨリモ何等聞キ及ビタルコトナシ乍去東支鐵道ニ對シ新借款團ニテ出資經營スルコトハ該借

九六四

款団ノ性質及露支兩國ノ關係ニ顧ミ果シテ行ハレ得ベキモノナルヤ考究ヲ要スルノミナラズ種々ナル新問題ヲ惹起スベク從テ篤ト政究ノ必要アリト信ズ仮リニ貴案ノ如ク東支鐵道ニ對シ借款団ニテ出資經營スルトスルモ「ボグラニチナヤ」以東浦潮線並滿洲里以西ノ西比利亞本線ノ經營運行ノコトヲ考量ニ加ヘザルベカラズ此等西端接統線ノ經營運行ニシテ良好ニ行ハレザル限り其ノ中間線タル東支線ノ運行モ意ノ如クナラザルベシ畢竟右兩端接統ノ露國內ノ二線ト相關聯シテ政究スベキモノナリ日本政府ノ見ル所ヲ以テスレバ日本ハ猶軍隊ヲ駐メ置ケル次第ナルニ付西比利亞及東支ノ兩鐵道ニ關スル管理協定猶有効ニ存続スルモノト認メラルガ故右協定ニ基キ鐵道ヲ運行セシムル方針ニテ之ニ要スル資金トシテ日本側ニ於テハ其負担殘額金四百万円ヲ目下使用シツツアリ尤モ貴問ノ如ク米國ニ於テ右鐵道運行ノ資金供給ノ意アルニ於テハ敢テ異存ナキ所ナリト答ヘ置キタリ

本来東支鐵道ヲ借款団事業ノ範圍内ニ置クノ得失ハ日本トシテハ篤ト考量ヲ要スル問題ナルノミナラズ該鐵道ハ現ニ露國ノ鐵道タル以上之ニ對シ對支借款団ヲシテ投資セシム

カ如キハ到底望ムヘカラザル所ニ付他國側共通ノ利益ト日本ノ特殊ノ關係トヲ考慮シ速ニ東支鐵道ニ對スル我根本方針ヲ確立シ其ノ實現ヲ圖ル為適當ノ措置ヲ講スルコト極メテ緊要トス

一、東支鐵道ハ元來露國ノ事業タリト雖モ時勢ノ變遷ニ伴ヒ支那カ之ヲ回收セムトスルハ最早一ノ大勢ト見ザルベカラズ素ヨリ支那ガ之ヲ回收スルニハ適法ノ措置ニ出デシムルコトヲ要スルハ勿論ナリト雖モ此ノ大勢ニ逆行スルカ如キ施措ヲ試ミルハ事ノ成就ヲ期スル所以ニアラス且又西比利亞鐵道管理取極ノ有効ヲ主張シ此ノ方面ヨリ財政援助ノ途アルヲ云々スルハ結局新借款団ニヨリ東支鐵道ノ國際化ヲ防カムトスル趣旨ト一致セズ東支鐵道ヲ國際化スルコトハ素ヨリ考慮ヲ要スル次第ニテ之ヲ新借款団ノ共同事業トスルコトハ之ヲ拒絕スルノ外ナシトスルモ速ニ東支鐵道ノ現狀ヲ改善スルニアラザレハ必ズヤ列國容喙ノ端ヲ啓ク虞アリ

一、以上ノ次第ニ顧ミ東支鐵道ニ對シ左ノ通り我方針ヲ確定シ其ノ實現ヲ圖ルコト急務ト認メラル

(イ)新借款団ヨリ支那政府ニ對シ塩稅剩餘又ハ煙酒公売收入

ルハ不合理ニモ有之旁々英米側今回ノ計畫ハ我方トシテ容易ニ贊意ヲ表シ難キ所ナルモ該鐵道將來ノ運命ニ付テハ今少シク大勢ノ趨帰ヲ見究メタル上篤ト考慮ヲ遂グル必要アリト認メラルルニ付追而何分ノ儀申進ズベキモ右御含迄不取敢

本電米仏ニ転電アリタシ

註 右ト同文ノ電報ガ同日在中國小幡公使宛第三三四号ヲ以テ發送セラレタリ

(附記)

六月十九日附東支鐵道ニ對スル我措置案私見(政務局第一課)

東支鐵道ニ對スル我措置案私見

一、東支鐵道ニ對シ新借款団ヨリ資金ヲ融通スルコトハ同鐵道ヲ國際化スル次第ニテ右ニ關スル英國側申出ハ之ヲ拒絕スルコトナリタルモ果シテ容易ニ英國側ニテ之ヲ撤回スヘキヤ否ヤ疑問ナルノミナラス日本ニ於テ強テ之ヲ固執セハ自然同鐵道ニ對スル日本ノ態度ニ疑惑ヲ抱カシメ日本ハ結局同鐵道ヲ独占セムトスル意思アルモノナルカ如キ感想ヲ与フルニ至ルヘシ從テ機會アラハ必ス日本ヲ牽制スル為何等カノ提言ヲ見ルヘキハ予想ニ難カラズ而モ日本一手ニテ同鐵道ニ對シ資金ヲ融通シ之ヲ我勢下ニ収メムトスル

ヲ担保トシ東支鐵道改善ニ要スル資金ヲ供給スルコト

右ニ付テハ出來得ル限り新借款団カ直接東支鐵道ニ對シ關係ヲ結フカ如キ條項ヲ設ケサル様注意スルコト

(ロ)日本ニ於テ英國政府申出ノ新借款団投資案ヲ拒絕シタリトスルモ万一西比利亞鐵道管理取極ニ基ク財政援助ノ方面ヨリ東支鐵道ニ對シ投資ヲ提言シ來ラバ日本トシテハ之ヲ拒絕スルニ由ナキ次第ニテ結局東支鐵道ヲ國際化スルカ如キ事態ヲ招クニ至ルヘシ故ニ寧ロ進テ新借款団案ヲ逆用シ前頭ノ通り措置スルコト結局東支鐵道ノ國際化ヲ防ク所以ナリ

(ハ)支那政府ハ右ノ如ク新借款団ヨリ得タル資金ヲ東支鐵道会社ニ貸付ケ鐵道ノ運輸狀態改善ヲ圖ラシムルコト

右ノ如ク支那本位ノ仕組トスルモ支那政府ヨリ東支鐵道ニ對スル資金ノ融通ハ所謂補助金交付又ハ株式引受等ノ形式ヲ避ケ單純ナル貸借トナスコト緊要ナリ斯クセハ東支鐵道会社ノ運輸狀況改善シ収益ヲ増加スルニ至ラバ一定ノ償還方法ヲ講スルコトヲ得ヘク從テ支那政府ノ東支鐵道ニ對スル關係カ確定不變ノモノトナルヲ憂フルノ要ナカルヘシ

(二)右ノ如ク支那本位ノ形勢ヲ作ルニ付テハ日本ニ於テ列國ノ間ニ斡旋シテ之ヲ纏ムルト共ニ之ヲ機會トシテ東支鐵道ト南滿鐵道及英國トノ關係アル京奉鐵道トノ聯絡ヲ完全(「ゲージ」改訂等)ニスルコトヲ図ルヘク右ニ付テハ純然タル交通經濟上ノ見地ニ立脚シ政治的考慮ヲ加ヘザルコトヲ肝要トス斯クセハ實際ニ於テ東支鐵道ヲ利用シ其ノ實益ヲ収ムルコトヲ得ヘシ

一、斯ク支那本位ノ仕組トセバ南滿鐵道ニ影響スルコトナキヤノ說ナキニアラザルベキモ東支鐵道問題ハ露國ノ崩壞ニ伴フ特殊現象ニシテ其ノ例ヲ直チニ南滿鐵道ニ及ホスヘキ筋合ニアラザルハ言ヲ俟タス且南滿鐵道經營期限ニ付テハ大正四年南滿東蒙條約ニ於テ日支間ニ原露支條約ト異ナリ九十九年間タルヘキコトヲ明約シアリ旁々此ノ点ニ付テハ懸念ノ要ナカルベシ

九六五 七月二日 内田外務大臣ヨリ 在中国小幡公使宛

東支鐵道ニ對スル中國側ノ出資ニ関スル件

政一機密送第八八号

哈爾濱出張中ノ金井鐵道省參事最近ノ來電ニ拠レハ支那側

ヨリ五百万兩払渡方ニ付テハ払渡ヲ要セザルコトニ其後露支當事者間ニ了解成立シタルガ右了解ニ付テハ露支間ニ何等文書ノ徵スヘキモノ無ク又上記露重銀行ニ對スル出資額五百万兩カ三百五十万兩ト記帳セラレ居ル理由モ審ナラズトノコトニ有之要スルニ本件ノ真相明確ナラザル点アリ若シ前顯「ド、ホイヤー」所言ノ通りナリトセバ支那政府ニ於テ此際東支鐵道ニ對スル債權ヲ主張スルノ理由無シト謂ハザルベカラザル次第第二有之候就テハ本件ハ未ダ具體的問題トナレルモノニハ無之モ將來東支鐵道処分問題ニ關聯シ右等支那側トノ資本關係ヲ明カニシ置クコト肝要ト致思料候ニ付御留意ノ上參考トナルヘキ事項ハ隨時御報告相成度此段申進候也

註 本信寫七月二日附政一機密送第四号ヲ以テ在哈爾濱松島總領事宛送付セラレタリ

九六六 七月七日 在中國小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛

東支鐵道ニ對シ四國新借款團ヨリノ借款供与

說ニ関シ外交部ヨリ反對意見申越ノ件

附屬書 七月五日附右中國外交部書翰寫及訳文

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九六六

ニ於テハ東支鐵道ニ對シ五百万兩ノ債權アルコトヲ發見セル旨申立居ル趣ノ処察スルニ右ハ東支鐵道條約ニ基キ同鐵道運輸開始ト共ニ支那側ニ払渡スヘキ庫平銀五百万兩(同條約第十二條參照)カ爾來尚未払ナルヲ謂フモノナルヘシトノコトニ有之候処右東支鐵道第十二條ニ基キ払渡スヘキ五百万兩ト同條約前文ニ所謂支那政府ノ露重銀行ニ對スル出資額タル五百万兩トノ關係又右五百万兩ハ現在如何相成居レルヤ其ノ辺不明ニテ一說ニハ右露重銀行ニ對スル支那側出資額ハ同銀行ニ於テハ単ニ支那政府ノ預金トシテ処理シ居タルヤノ趣ニテ要スルニ條約上ノ規定ト實際ノ取扱振トニ多少ノ相違アルヤニ被認候ニ付小田切正金銀行取締役ヲシテ目下來朝中ノ「ド、ホイヤー」ニ就キ夫レト無ク確メシメタル処「ド、ホイヤー」ノ語ル所ニ拠レハ東支鐵道條約第十二條ニ基キ支那政府ニ払渡スヘキ五百万兩ハ同政府ノ露重銀行ニ對スル出資金ノ還附ヲ意味スルモノナルモ右露重銀行ニ對スル出資額ニ付テハ露重銀行帳簿ニハ三百五十万兩トナリ居リ而シテ右金額ニ對スル配当金ヲ支那政府ニ交付シ支那政府ハ之ヲ教育費ノ一部(俄文專修館ノ費用ナルヘキ乎)ニ充当スルコトナリ居リ又東支鐵道会社

機密第二七二号 (七月十一日接受)

大正九年七月七日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

關係電報

往電第六五七号

東支鐵道ヘ四國新借款團ヨリ借款方ニ對シ支那政府ヨ

リ抗議ノ件

本件ニ関シ左記書類及送付候也

書類要目

七月五日外交部同文照會及訳文

本信寫送付先

奉天、長春、吉林、哈爾濱、齊々哈爾、松平政務部長

(附屬書)

七月五日附中國外交部同文照會

照會健字第九九号

外交次長代理部務陳 為照會事項准交通部函稱開道勝銀行有向新銀行團借款維持東路之說查東省鐵路係屬中俄合辦其

路線又在我国領土之内該路需款維持迭經我國墊借應用自無更向他國借款之理由縱使該路需款亦非俄人一方面獨得任意主張日前曾電鮑督辦向該路公司警告非經我國允許不得擅向他國借款有案近聞道勝銀行有私向新銀團借款之說恐各國未明該路關係有所誤會應請向駐京各國公使正式聲明等因查東省鐵路原係中俄合辦在中國有領土主權之關係縱使該路需款亦不得任由俄人單獨挪借茲特正式向 貴公使聲明倘道勝銀行或東路公司僱用該路名義向他國借款非先經中國政府允許絕對不能承認即希查照須至照會者

右 照 會

大日本國欽命駐華全權公使小幡

中華民國九年七月五日

訳文

以書翰致啓上候陳者道勝銀行ハ新銀行團ヨリ東支鐵道維持ノ為メニスル借款ヲナサントスルノ説アルヲ聞込ミタル処東支鐵道ハ支露ノ合辦ニ係リ其線路モ亦我國領土内ニ在リ該鐵道ニ於テ其維持ノ為資金ヲ要スルニ就テハ從來我國ヨリ立替貸与シアリ自ラ更ニ他國ニ向テ借款スルノ理由ナクヨシ該鐵道ニ於テ資金ヲ必要トスル場合ニ於テモ是亦露國

部宛回答ノ件

附屬書 七月八日附右回答等

機密第二七七号

(七月十四日接受)

大正九年七月八日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

關係電報

大臣宛往電第五一三号

大臣來電第三五三^(註)号

東支沿線駐屯憲兵ノ撤退方ニ関シ外交部ヨリ申出ノ件

本件ニ関シ左記書類及送付候也

書類要目

陳外交總長代理宛

大正九年七月八日附回答等

本信写送付先

吉林哈爾濱齊々哈爾滿洲里松平政務部長

註 外務大臣來電第三五三号省略

(附屬書)

人一方面ノミニテ单独任意ニ主張シ得ルコトニ無之依テ過般鮑督辦ニ電報シ該鐵路公司ニ対シ我國ノ允許ヲ経ルニ非ザレバ擅ニ他國ニ向テ借款スルヲ得サルヘキ旨警告セシメ置キタル次第ニ有之然ルニ最近聞ク所ニ抛レハ該銀行ハ私ニ新銀行團ヨリ借款ヲ為サントスルノ説アル由ナル処各國ニ於テハ未タ該鐵道ノ關係ヲ明ニセス為ニ誤會スル所アラシヲ恐ルル次第ナルニ付外交部ヨリ駐京各國公使ニ対シ右ノ趣正式ニ声明シ置カレタキ旨今回交通部ヨリ本部(外交部)へ照會有之候查スルニ東支鐵道ハ元支露ノ合辦ニ係リ支那ニ取リテハ領土主權ノ關係アリヨシ該鐵道ニ資金ヲ要スル場合ニ於テモ亦露國人側ニ於テ单独ニ借入ヲ為スニ任スルヲ得サルモノニ有之依テ茲ニ貴公使ニ対シ万一道勝銀行又ハ東支鐵道公司側ニ於テ該鐵道ノ名義ヲ用ヒ他國ニ向テ借款セントスルコトアルモ先ツ支那政府ノ允許ヲ経ルニ非サレハ(支那政府ハ)絕對ニ承認スルコト能ハサル旨正式ニ致声明候間右御查照相成度此段照會得貴意候 敬具

九六七 七月八日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

東支鐵道沿線駐在我憲兵ノ撤退方ニ関シ外交

七月八日附小幡公使ヨリ陳外交總長代理宛回答等

第一四九号

以書翰致啓上候陳者本年五月三十一日貴部秘書ヲ以テ一面坡其他東支鐵道沿線ニ於ケル日本憲兵駐在ノ件ニ関スル貴部口上書御送致相成致閱悉候然ルニ右憲兵各地配置ノ目的ハ専ラ我駐屯軍隊及沿線地帶ヲ通過スル我軍人軍属等ニ対スル必要ナル軍事警察執行ノ任ニ当ラシメ以テ此等出先軍憲ノ規律嚴肅ヲ期スルト同時ニ從來該地帶ニ於テ頻發シツツアル我軍用電信線ニ対スル被害事件ヲ予防シ且ツ之ヲ力補修ニ任スル保線兵ヲ支援スルニ在ル次第ニ有之從ツテ右憲兵ノ駐在自体ハ鐵道ノ保護トハ何等關涉スル所無之然ルニ之ヲ以テ貴國ノ領土主權ニ妨ケアルモノトセラルルモ之ハ畢竟前記憲兵配置ノ目的ニ対スル誤解ニ出テタルモノト被存候ノミナラス日支兩國軍隊間相互ノ誤解發生ヲ防止シ我軍隊ノ節制ヲ完フスルニ就テモ斯ル憲兵ノ配備ヲ得策トスルハ明カナル儀ニ有之右ハ本使ニ於テ前記貴部口上書ニ接シタル後為念帝國政府へ電請経同致置タル結果ニ有之候間右様御了承ノ上貴國当該地方官憲ニ於テ誤解ナカラシムル様可然御取計相成度此段及回答候 敬具

九六八 七月二十九日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道問題ニ関シモリス大使トノ會談報告
及請訓ノ件

第三八三号

(七月三十一日接受)

過日「モリス」大使ト面談ノ機会ニ於テ同官ハ屢々東支鐵道問題ニ言及シ同鐵道ノ運行ガ目下頗ル不満足ナル状態ニアルコトヲ説キ日本ノ或ル一部ニ於テハ日本單獨ニテ其運行ヲ引受ケ漸次同鐵道ニ對スル利益ヲ扶植セントスルノ意向アルヤニ察セラルルモ右運行ノ現状ヲ改善センガ為ニハ巨額ノ資金ヲ要シ一國ノ單獨經營ハ其國ニ取リテモ得失疑ハシキノミナラズ必然支那トノ葛藤ヲ生ジ引イテ時局ニ紛糾ヲ加フルノ虞アリ就テハ大体嚮ニ日米間ニ協定セル西北比利亞鐵道運行取極ニ準ジテ別ニ日米英仏支ノ五國間ニ取極ヲ設ケ東支鐵道ノ運行及資金融通ヲ引受クルコト何國ノ為ニモ得策ナリト思考セラルル旨ヲ述ベタリ

本使ハ之ニ對シ目下同鐵道運行ガ如何ニ不満足ナルヤニ就キテハ何等報道ニ接セザルモ本問題ヲ考究スルニ當リ第一ニ考慮ヲ加フベキハ同鐵道ガ全然露國ノ財産ナルコト是ナ

依然滿洲及「ハバロフスク」方面ニ駐屯スル限其南滿トノ連絡上日本ニ於テ密接ナル關係ヲ維持スルノ必要アルコトト思考スル旨ヲ述ベ置キタリ

終リニ本使ハ「モリス」ニ於テ東支鐵道問題ニ関シ別ニ何等具體的考案ヲ有スルヤヲ問ヒタルニ同大使ハ目下考究中ナルガ孰レニスルモ目下ノ状態ニ放任スルコトハ不得策ト認メラルル旨ヲ答ヘタリ

「モリス」ガ特ニ本問題ニ重キヲ置クノ真意ニ至リテハ俄ニ臆斷シ難キモ「スチーヴンス」技術部長在任中米國ニ注文セル鐵道材料追々製造ヲ了シ積出ノ運ニ至ルベキモノ少カラザル趣ニ付速ニ其始末ヲ附クルノ必要アルコトモ實際ノ一理由ナルガ如シ

將又以上ハ「モリス」ニ於テ全然一己ノ私見ヲ率直ニ述ベタルモノナルコトヲ附言シタルモ或ハ遠カラズ米國政府ヨリ更ニ何等開談シ来ルコトアルベシト察セラルルニ付帝國政府ニ於テ考慮ヲ加ヘラルベキ余地アリヤ予メ大体ノ方針及東支鐵道運行現狀御電示ヲ請フ

九六九 七月三十一日 内田外務大臣 會談
在本邦露國大使

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九六九

リ從テ露國ノ希望ニ基クコト無クシテ列國ガ右運行及資金融通ヲ引受クルコトハ理論上專斷ノ措置ト言ハザルベカラズ嚮ニ日米協定ヲ為シタル當時ニアリテハ少クトモ事實上列國ノ支持セル「コルチャック」政府アリテ關係列國ハ之ト接觸ヲ保チ其同意ヲ得テ右協定ヲ実行セル次第ナリシモ今ハ同政府サヘ存在セズ露國官憲ト協議スルノ途全ク絶エタルニ當リ列國ハ自己ノ所有ニ屬セザル財産ニ関シ如何ニシテ正當ニ其運行及資金融通ヲ協定スルコトヲ得ベキヤト質問セルニ「モリス」ハ東支鐵道ガ全然露國ノ財産ナルコトハ疑ヲ容レザルモ恰モ相続人ノ定マラザル死亡者ノ遺産ト同様ノ性質ヲ有シ列國ハ右相続人ノ定マル迄遺産管理ノ任ニ當ルヲ妨ゲザルベク要スルニ本案ハ鐵道ノ運行及資金融通ノ問題ニ止マリ何等鐵道ノ資格又ハ所有權ニ變更ヲ加ヘントスルモノニ非ズ尤モ例ヘバ露重銀行代表者トシテDehoyat ノ如キ露國人ヲ協議ニ參加セシムルコトハ有益ナルベシト答ヘタリ

尚本使ハ何レノ場合ニ於テモ日本軍ガ不日倭貝加爾州ヨリ撤退ノ上ハ東支鐵道中哈爾濱以西ノ部分ニ就テハ軍事上ノ關係無キニ至ルベキモ哈爾濱以南及以東ノ部分ハ日本軍ノ

東支鐵道經營ノ為日本ヨリ借款ヲ得度旨ノ申

出等ニ関スル件

先般「クルペンスキー」大使内田外務大臣ヲ來訪ノ上在巴里前露國大使「ド、ギールス」ヨリ東支鐵道ノ現狀甚タ憂慮スヘキモノアリ支那ハ百万手段ヲ尽シ殊ニ條約上ノ露國ノ權利ヲ侵害シ遂ニ其ノ手ニ之ヲ收メムトスルノ形勢ナルニ付テハ日本ヨリ同鐵道ヲ一千万円ヲ貸付ケ同鐵道ノ經營維持ニ資セラレ度旨來電アリタル趣ヲ以テ何分ノ配慮ヲ乞フ旨申出アリタルヲ以テ大臣ハ日本ハ西北比利亞鐵道及東支鐵道管理協定ニ拠リ東支鐵道ニ關スル事項ヲ処理スル方針ナルノミナラス現下財界ノ不況ニ顧ミ右ノ如キ借款ハ成功覺東ナキ旨答ヘラレタルニ「クルペンスキー」大使ハ此ノ意ヲ領シテ退席シタリ

其後同大使再ヒ内田大臣ヲ來訪シテ前回同様ノ趣旨ヲ繰返シ更ニ日本政府ノ好意的考慮ヲ懇請シタルニ付大臣モ亦前回同様ノ趣旨ヲ以テ返答セラレタル処七月三十一日同大使更ニ來訪前二回會見ノ内容在巴里「ド、ギールス」ニ電報シ置キタル処今回同氏ヨリ更ニ來電アリ東支鐵道ノ現狀ヲ維持スル為同鐵道ノ經理ニ関シ北京ニ國際機關ヲ設置シタ

シトノコトナル旨申出タルニ付大臣ハ東支鐵道ニ関スル事項ハ元來露支兩國間ノ問題ナルカ故支那側ノ措置ニシテ何等不当ノ事アラハ露國側ヨリ支那側ニ対シ抗議セラルレハ可ナル次第ニシテ本案ノ如キ國際機關ヲ設クルノ必要アリトモ覺エス假令日本側ヨリ之ヲ支那側ニ提示スルコトアルモ目下ニ於ケル日支間ノ關係ニ顧ミ支那側ニ於テ之ヲ容認スルコトナカルヘキ旨答ヘラレタリ

九七〇 八月一日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道ノ運行改善ニ關聯スル諸問題ニ付モ
リス大使トノ會談報告ノ件

第三九〇号

(八月三日接受)

「モリス」大使ハ七月三十日本使ト會談中更ニ東支鐵道問題ニ言及シ往電第三八三号末段「スチーヴンス」ガ米國ニ注文セル鐵道材料米貨約五十万弗ニ当ル分既ニ製造ヲ了シタルモ本問題未決ノ為積出ヲ中止シアル狀況ヲ述ベテ其解決ノ急務ヲ説キ日本政府ノ同鐵道ニ對スル意嚮明カナラズトテ率直ニ之カ説明ヲ求メ日本軍ノ「後貝加爾」州撤退モ今や地方不安ノ形勢ヲ理由トシテ中止トナリタルノミナラ

ズ却テ多量ノ機關銃及小銃ヲ続々同派遣隊ニ輪送中ナリトノ報道ニ接シタリト述ベタリ

一、本使ハ先ヅ「スチーヴンス」目下ノ資格如何ト問ヒタルニ「モリス」ハ同氏ハ依然技術部長ノ職ニアルヲ答ヘタルニ付本使ハ米軍ノ西比利亞撤退ト共ニ同氏及其部下技師一同モ直ニ引揚グベキコトハ冀ニ米國政府ノ言明セル所ナルニ今尚同氏ガ技術部長ノ職ニアルハ如何ナル事情ニ依ルヤト反問セルニ「モリス」ハ明確ナル回答ヲ避ケタリ

二、次ニ本使ハ日本軍ノ後貝加爾州撤退ガ中止トナリタリト断言セラルルハ如何ナル事實ニ基クヤト問ヒタルニ「モリス」ハ同地方ニアル諸外國人ノ一致セル觀察ナル旨ヲ答ヘタリ本使ハ同地方ヨリノ撤兵ハ帝國政府ノ既ニ公然声明シ米國政府ニモ通告セル所ニシテ帝國政府ガ如何ナル場合ニ於テモ其聲明ヲ破ルモノニアラザルコトハ充分信頼セラレンコトヲ望ム近來右撤兵中止ノ風説ハ當國新聞紙ニ散見スルモ自分ハ之ヲ以テ常ニ日本ニ對シ猜疑中傷ヲコトスル宣伝ノ一部ニ外ナラズト認ムル旨ヲ述ベ置キタリ

三、日本軍ガ多量ノ軍器ヲ後貝加爾方面ニ輪送中ナリトノ報道ニ付テハ本使ハ其ノ真疑ヲ判断スベキ材料ヲ有セズト

雖モ日本軍撤退ノ際赤軍ノ追撃ヲ受クルノ危険アルニ顧ミ之ニ備ヘンガ為一層警戒ヲ嚴ニスルハ軍事官憲トシテ當然ノ措置ナルベク從テ仮リニ右報道ニシテ事實ナリトスルモ之ヲ以テ撤兵中止ヲ推断スルコトヲ得ザルベシト説キタル処「モリス」ハ赤軍ガ速ニ日本軍ノ撤退ヲ望ムハ疑ヲ容レザルヲ以テ其ノ撤退ヲ阻害スルガ如キ行動ヲ執ルノ虞無カルベク又右行動ヲ執ラザルノ取極ヲ赤軍ト協定スルコトモ容易ナルベシト答ヘタルニ付本使ハ斯クノ如キ赤軍ノ約束ニ信頼シタルコトハ偶々「ニコラエフスク」ノ慘狀ヲ招キタル一原因ナラズヤト述ベタルニ「モリス」ハ之ヲ爭ハズシテ已ミタリ

四、終リニ本使ハ過日來「モリス」ノ提案セル東支鐵道ノ運行及資金融通ハ露國人ノ為ナリヤ支那人ノ為ナリヤト問ヒタルニ同官ハ右ハ主トシテ露國人ノ為ナルモ同時ニ支那人ノ利益トモナルベシ蓋シ北滿地方ノ物資ハ久シク哈爾濱附近ニ停滞シアルヲ以テ鐵道運行ノ改善ハ支那人ニ於テ之ヲ歡迎スベキコト疑ヲ容レズト答ヘタリ本使ハ之ニ對シ元來東支鐵道ノ重要ナルハ其ノ西比利亞及歐露トノ交通幹線ニ當レバナリ然ルニ不日日本軍ニ於テ後貝加爾州ヲ撤退セ

ル上ハ同鐵道ハ全ク右交通幹線タルノ機能ヲ失ヒ西比利亞内地ノ露國人ハ物資ノ輸出入ニ之ヲ利用スルノ途無キコトナルベシ事茲ニ至ラバ巨額ノ資金ヲ投ジテ同鐵道ノ運行ヲ改善スルコトハ果シテ露國人ノ熱心ニ希望スル所ナルベキヤ將又支那人ノ為ナラバ其ノ費用ハ露國財産タル鐵道ノ負担トスベキ理由ナカルベシト述ベタル処「モリス」ハ同鐵道ガ西比利亞内地ト直接ノ連絡無シトスルモ以往ノ西比利亞鐵道ニシテ過激派ノ手ニ歸スルト否トヲ問ハズ依然運行セラルル限リ事實上兩鐵道ニ間接ノ連絡アルベク從テ西比利亞内地ノ露國人ハ東支鐵道運行改善ノ便宜ヲ受クベシト答ヘタルニ付本使ハ仮リニ右間接ノ連絡アリトスルモ今日西比利亞ニ於ケル貨幣及交通制度ノ狀況ヲ以テスルトキハ到底多量ノ輸出入アルベキヲ想像スルコト能ハズ從テ此際列國ガ巨額ノ費用ヲ支出シテ東支鐵道ノ運行ノ改善ヲ計ルノ価値アリヤ自分一己トシテハ疑ヲ存スルモノナリト述ベ尤モ本使ハ東支鐵道ノ近狀ヲ詳カニセザルニ付東京ニ電報シテ確實ナル報道ヲ求メツツアル旨ヲ附言シタルニ「モリス」ハ尚自分モ篤ト本問題ヲ考究スベシト云ヘリ

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九七二

九七一 八月二日 内田外務大臣ヨリ
在米國幣原大使宛(電報)

東支鐵道ノ運行改善ノ為新借款團ヨリノ借款
供与案ニ対シ不賛成ノ旨回訓ノ件

第三三七号

貴電第三三八三号ニ関シ東支鐵道ノ運行カ經營機關ノ混沌タル現狀ト資金不足ノ為メ兎角思ハシカラサルモノアルハ之ヲ認メサルヲ得サル所ニシテ現ニ貨物旅客ノ激減汽車連絡ノ不完全等ノ事情ニ基キ我カ滿鉄ニ於テモ艱カラサル苦痛ヲ感シ居リ之カ改善策ニ付テハ常ニ留意ヲ怠ラサル次第ナルカ同鐵道特殊ノ性質ニ顧ミ之カ実行ニ付テハ特ニ慎重ナル考慮ヲ要シ現ニ往電第二二八号及在英大使ヨリ轉電セル同大使宛第二八〇号ニテ御承知ノ通り糞ニ在本邦英國大使ヨリ提言ニ接シタル節モ大体我方ノ立場ト意嚮ヲ開陳シ置キタル次第ニテ要スルニ同大使提案ノ如ク新借款團ヲシテ出資經營ノ任ニ当ラシムルカ如キハ借款團ノ性質ニ顧ミ我万トシテ未タ遽ニ賛意ヲ表シ難ク實ハ最近「ラモント」ヨリ井上日銀總裁ニ対シ支那政府ヲ通シテ新借款團ヲ利用シ日米英仏四國協同出資案ヲ提言シ來レルモ同總裁ニ於テハ本大臣ニ内藏ノ上同總裁限リノ意見トシテ同鐵道ノ地位及

九七二

一一〇二

現狀ニ顧ミ日本資本家ヲ勸誘スルニ便ナラストノ趣旨ニテ返電シ置キタル次第ナリ(「ラモント」井上往復電報ハ紐育正金支店ヨリ御取寄アリタシ)如上ノ事情ニ依リ我方ニ於テハ新借款團ヲシテ直接東支鐵道問題ニ関与セシムルコトハ之ヲ見合セ度方針ナルモ西比利亞及東支鐵道管理協定ヲ活用シテ当面ノ援助策ヲ講スルニ付テハ敢テ異存無キ所ナルハ前記在英大使宛往電第二八〇号本大臣ノ英國大使ニ対スル言明ニテ疾ク御了悉ノ通りナリ就テハ東支鐵道ニ対スル我根本方針ニ就テハ政府ニ於テ現ニ考慮中ノ次第モアリ追テ更ニ何分申進スヘキ場合可有之モ差向キ同鐵道運行改善ニ関スル我方ノ意嚮ニ付テハ前記ノ通り御含ノ上可然応酬シ置カレタシ
英仏ヘ轉電アリタシ

九七二 八月二十日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

チェック軍シベリア撤退完了ニ付鐵道特別委員會ヨリ同國委員脱退ノ件

第三五〇号

(八月二十一日接受)

「チェック」委員ハ今回愈々「チェック」ノ西比利亞撤退

ヲ完了スルニ付特別委員會及技術部、軍事輸送部ノ委員ヲ脱退セシムルコトトナリタル旨鐵道委員會ニ通告シ「チェック」輸送ニ対スル同盟國ノ援助ヲ深謝セリ同軍ノ最後部隊ハ八月十四日当地發ノ「ブレジデント、グラント」ニテ帰還ノ途ニ就キ「ギルザ」公使モ亦同船ニテ帰國シ当地外交事務ハ在東京「チェック」公使ニ於テ取扱フ旨通知アリタリ

哈爾濱「ハバロフスク」「チチハル」滿州里ヘ轉電セリ

九七三 八月二十四日

在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本政府ハ東支鐵道対策ヲ速ニ決定ノ上其管理案ヲ英米諸國ニ提議スル様稟申ノ件

第六〇四号

(八月二十五日接受)

東支鐵道ノ実權ヲ掌握セントシタル支那ハ財政窮乏及鐵道經營ニ当ルベキ人材欠如ニ依リ意ノ如クナラザルモノノ如キモ北京政變一段落ヲ告グルノ曉必ズヤ何等画策スル所アルベク加フルニ同鐵道管理ニ関シ英米兩國政府ニ於テ審議中ナリトノ報道モ伝ヘラルル今日帝國政府ハ速ニ對東支鐵道策ヲ決スルノ必要アリト思料セラル

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九七三

九七四

一一〇三

極東ニ於ケル帝國ノ地位ニ鑑ミ英米ガ東支管理案ヲ提議スル前我ヨリ進ンデ之ヲ提議スルヲ要シ米國ガ東支鐵道ニ資金ヲ融通スルコトヲ決定シタル後ニ於テ之ニ追隨シテ我ヨリモ資金融通ヲ申出ヅルハ策ノ得タルモノニ非ズ帝國政府ニシテ此際英米諸國ニ對シ東支管理案ヲ提議シテ協同出資ヲ勸奨シ英米出資ヲ賛成セザル場合ニハ独力出資スルノ態度ヲ取ルニ於テハ一方(不明)我勢力扶殖ノ基ヲ置キ他方日本ハ同鐵道ニ對シ野心ヲ包藏ストナス理由ナキ無用ノ猜疑心ヲ緩和シ得ベシト思考ス
「スチーヴンス」ガ去ル如ク去ラザルハ本國政府ヨリ訓令ニ接セザルガ為ナリト云フモ右訓令ナキハ偶々米國政府ニ於テ何等画策中ナルコトヲ暗示スルモノト感ズルニ付帝國政府ニ於テ速ニ対策ヲ決定セラレシコトヲ希望ス
北京公使ヘ轉電セリ

九七四 九月十日

在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

我軍運轉ノウスリー鐵道ニコリスク及ムラビエフ間返還ヲ露國当局要求ニ付請訓ノ件

第三七二号

(九月十一日接受)

「ウスリー」鉄道「ニコリスク」「ムラビエフ」間ハ引続キ我軍隊ノ手ニ於テ運転シ其区間普通旅客ハ貨車ニ自由ニ乗車セシムルモ運賃ヲ徴セズ又露国鉄道庁ヲシテ運賃ヲ徴スルコトモ許サズ從ツテ該区間ニ對シテハ何等ノ收入モ無キ状態ナリ露国当局ヨリハ再三之ガ返還ヲ要求シ鉄道特別委員會ニ於テモ同線上ニ於ケル普通運行情態ノ復活ヲ希望シ聯合監督ニ復歸セシメラレンコトヲ希望スル旨決議シタル次第ハ往電第二九八号ノ通然ルニ野戰交通部長ハ「ウスリー」鉄道庁ニ將來運行ノ計画提出ヲ求メタルモ之ニ応ゼズトノ理由ヲ以テ之ガ引渡ヲ拒絶セリ然ルニ從來ノ黒竜管区ヲ「ニコリスク」迄延長シ日本管理官ノ配置ニ關スル我希望ニ對シ「スチーヴンス」ノ同意及実行ノ命令アリタル後ニ於テモ尚引渡ヲ決(脱)ニシテ打合セノ上技術部ニ全責任ヲ負ハシムルコトトシ星野中将ヨリ「スチーヴンス」ニ對シ引渡後日本軍ニ於テ日日所要ノ列車數ヲ示シ技術部ニ於テ保障ヲ与ヘラレ度キ旨ヲ要求シ「ス」ハ直チニ「ウスリー」鐵道庁ニ對シ嚴重ナル詰問ヲ為シタル結果同庁ハ結局右列車數ヲ必ズ都合スベキ旨並ニ管理官ノ命令ヲ遵奉スベキ旨ヲ声明シタルニ付「ス」ハ右ノ趣ヲ星野中将ニ回答ス

問書ニ關聯シ更ニ我政府ノ説明ヲ求メ來ルヤモ知レズ卑見ニ依レバ我軍憲ノ主張モ軍本位トシテハ尤モノ次第ナレドモ「ウスリー」線ニ於テモ北半ハ既ニ露国従業員ノ動カシ居ル事實モアリ強ヒテ各方面ノ反對ニ拘ラズ我費用ト勞力ヲ費シテ不徹底のニ一部ヲ運轉スルヨリ技術部ニ之ヲ委セ普通ノ状態ニ之ヲ復歸セシムルコト国策上得策ト思考ス既ニ我管理官ニシテ該区ニ配置セラレ全線ニ亘リ我軍ガ守備シ居ル以上同盟罷業等ノ場合自由ノ行動ヲ採リ得ルコトハ容易ナリト思考ス

右ニ關シ何分ノ指示ヲ請フ

註 七月七日松平政務部長發外務大臣宛電報第二九八号ヲ省略セリ

九七五 九月十二日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮松平政務部長宛(電報)

我ハバロフスク駐屯部隊撤退ニ關スル閣議決

定通報ノ件

第一六一号

今般左ノ通り閣議決定セリ御舍迄

哈府駐屯部隊ハ全般ノ情况上之ヲ撤退セシムルヲ要スルヲ

一五 シベリア及東支兩鉄道管理ニ關スル交渉一件 九七五

ルト同時ニ技術部ハ積極のニ右実行ヲ保障スルコト能ハザルモ最善ヲ竭スベシ尚同鐵道財政問題ニ付テ目下如何トモシ難キ状態ナルヲ以テ満足ナル運行ハ不可能ナルモノト了解アリ度キ旨申來リタル為日本軍憲ハ引渡ヲ中止シ特別委員會ニ於テハ米國委員ヨリ鐵道委員會設置ノ目的及其規則ニ顧ミ当然其区間ハ聯合國ノ監督ニ復歸スベキモノニシテ財政問題等ハ復歸後ニ於テ考量スベキモノナリト主張シ本官ハ尼港事件ニモ顧ミ在哈府日本軍通路ノ安全ニ對シテ充分ナル保障ヲ期待スル軍憲ノ立場ヲ説明シ居ルモ右ニ對シ司令官ノ責任アル回答ヲ求メ更ニ委員會ニ於テ審議スルコトトナリ居レリ本件ハ右ノ如ク鐵道協約本來ノ目的ト哈府我軍駐屯ノ目的トガ既ニ撞著シ來リタル結果ニシテ双方ニ理由アリ鐵道協同管理ノ目的ヨリ論ズレバ我軍ノ引渡拒絶ハ如何ニシテモ正シキモノニアラズ又斯クノ如キ正式ノ保障ハ東支鐵道ニ於テスラ技術部ガ与ヘ得ルヤ否ヤ疑問ナリ「ウスリー」線ニ於テ鐵道協約ヲ適用セザルコトニ日本政府ニ於テ他國ノ同意ヲ得ザル限ハ米露主張ニ強味アリ英仏其ノ他ノ委員モ之ニ同情シ居ル傾キアリ司令官ヨリ回答ノ結果米國委員ハ本國ニ之ヲ上申シ或ハ同政府ヨリ過般ノ質

以テ適當ノ時期ニ於テ該部隊ヲ引揚ケ沿海州方面ニ於テハ概ネ「ボクラニチナヤ」ヨリ「スパスカヤ」ヲ經テ蘇城ニ亘ル線以南ニ部隊ヲ排置ス之カ為メ哈府撤退ト同時ニ第十四師團ヲ内地ニ帰還セシメ第十一師團ノ殘部ヲ沿海州ニ派遣シ之ト交代セシム

註 本件閣議決定ハ九月十日ナリ

尚本電報同文ハ九月十三日内田外務大臣發在ニコライエフスク花岡書記官宛第六九号ヲ以テ發送セラレタリ

九七六 九月十五日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮松平政務部長宛(電報)

露國過激派ノ密使ト中国政府ノ接觸ニ付情報

隨時電報方訓電ノ件

第一六四号 極秘

北京發本省宛第八五九号ニ關シ「ブンビアシンスキー」其ノ後ノ動靜及八月下旬北京ニ入レル「ウエルフネ」政府代表者ノ支那側トノ接觸ノ模様ハ明確ナラサルモ最近支那政府ハ在支露國公使ニ對シ爾今暗号通信ノ使用ヲ禁スルト同時ニ露國公使ヨリ自發的ニ同公使館及在支露國領事館ヲ閉鎖セムコトヲ期望スル旨ヲ通知シ來レル趣ニシテ事效ニ至レ

九七六

ル理由ニ関シ支那当局ハ露国公使ニ対シ最近露国内各種政府ノ代表来京シ居レル処露国公使館ノ権限ヲ依然承認シ之ニ暗号通信ヲ許スニ於テハ勢ヒ他ノ代表者ニ対シテモ同様ノ特典ヲ許セサルヘカサルコトナリ自然彼等ヲシテ過激派トノ間ニ秘密通信ヲ行フノ機会ヲ与ヘ危険此上無キノミナラス現在ノ露国公使館ハ事実ニ於テ何等ノ代表スル政府ヲ有セサル次第ニ付寧ろ露国公使ヨリ進ムテ自発的ニ公使館及領事館ヲ閉鎖セムコトヲ期望スルニ外ナラザル旨述ヘタル趣ナルモ露国公使ハ支那政府ガ突如トシテ恣ク断乎タル措置ニ出テタルヲ以テ畢竟過激派系各密使ノ画策其ノ功ヲ奏シタルモノト観測シツアルモノノ如シ果シテ同公使推測ノ如ク支那政府今回ノ措置カ過激派系各代表者ニ対スル接觸ノ真相ニ胚胎スルモノナリヤ否ヤハ素ヨリ明確ナラサルモ支那側ノ措置往々過激派ニ接近セムトスルノ傾向アルヤニ認メラルルト同時ニ過激派ニ於テモ東支鐵道ノ還附其ノ他已得利權ノ抛棄ヲ提唱シテ支那側トノ接觸ニ腐心シツアルヤニ推セラルル処右ニ対スル支那側ノ方針如何ハ我方ニ取り極メテ重大ナル關係アルハ申ス迄モ無之ニ付此ノ上共篤ト御留意ノ上参考トナルヘキ情報隨時電報

電末段ノ次第モアルニ依リ貴官ハ篤ト軍憲ト御協議ノ上可成速カニ引渡ノ要求ニ応ジ本件ヲ解決スル様御配慮アリタシ

(附記)

烏蘇里鐵道「ニコリスク」「ムラビエフ」間引渡ニ関スル陸軍大臣ノ意見左ノ如シ(陸軍省軍務局兎玉少佐ヨリ外務省係官ヘ電話アリタルモノ)

本件引渡ハ主義ニ対シテハ全然同意ナルモ陸軍省トシテハ(一)引渡ノ時期ヲ「ハバロフスク」撤兵完了後トシ(二)「ニコリスク」以北ノ日本軍隊駐屯地域鐵道ニ付テハ将来必要生スル場合ハ再ヒ日本軍隊ヲシテ之ヲ運轉セシムルコトアルヘキヲ留保シ且(三)引渡ニ際シテハ日本軍ノ威信ヲ損スルコトナキ様十分ノ措置ヲ講スルコトニ致シタシ而シテ一兩日中ニハ撤兵ノ時期決定ヲ見ルヘキニ付之ヲ待チ軍司令官ニ前記条件ニテ引渡交渉方ヲ訓令スル考ナリ右撤兵ノ時期ハ決定次第御通報スヘキニ付外務省ニ於テモ其ノ時期迄發電ヲ御猶予ノ上軍司令官カ本大臣訓電ヲ接受スルト同時ニ松平政務部長モ貴省大臣ノ御訓電ヲ接受セラルル様御取計アリタシ

アリタシ

哈爾濱ヘ転電アリタシ

註 八月十八日小幡公使發外務大臣宛第八五九号省略セルガ右ハ浦潮政府ヨリ派遣ノ東支鐵道代表者ト称シ松平政務部長ノ紹介狀ヲ持參セル「ブンビアンスキー」ナルモノ八月十七日小幡公使ヲ來訪シ東支鐵道其他ノ問題ニ付談話セル旨並ニ同人ハ過激主義ノ宣伝ヲ目的トスルヤノ疑モアル旨ヲ報告セルモノナリ

九七七 九月十八日 内田外務大臣ヨリ 在浦潮松平政務部長宛(電報)

ウスリー鐵道ニコリスク及ムラビエフ間ノ露

國ヘノ引渡ニ付回訓ノ件

附記 ウスリー鐵道ニコリスク及ムラビエフ間ノ露國ヘノ引渡ニ関スル陸軍大臣ノ意見

第一六五号

貴電第三七二号ニ関シ

往電第一六一号ノ閣議決定ハ陸軍省ヨリ貴地軍憲ヘモ電報アリタルコトト察セラルル処右ノ通り哈府撤兵ノコトニ決定シタル上ハ自然本件引渡問題ニ付テモ從來ノ態度ヲ固執スル必要ナカルベク(我軍哈府引揚ノ際ニ於ケル鐵道ノ使用ニ付テハ予メ適當ノ打合ヲ遂ゲ置クコト然ルベシ)且貴

九七八 九月二十日 在浦潮松平政務部長ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

ブンビアンスキー氏北京滞在中ノ行動殊ニウ

ェルフネ代表ユーリントノ東支鐵道ニ関スル

会谈ニ付來話ノ件

第三七八号 (九月二十一日接受)

貴電第一六四号ニ関シ「ブンビアンスキー」十六日帰浦十七日本官來訪北京滞在中ノ行動ニ関シ大要左ノ通り談話セリ

出張ノ用件タル東支鐵道問題ニ関シテハ北京駐在ノ臨時政府半官的代表者タル「アガリヨフ」(旧浦潮市長)ノ立場ヲ損スル様ノ事情ニ纏ハラレタルト生憎ク内閣臨時ノ際トテ対談者ヲ得ザリシトニ依リ遂ニ支那当局トハ何等交渉ヲ為サズシテ引上ゲ使命ハ失敗ニ終リタリ「クダシエフ」トハ会见シタルモ彼ノ變節的態度ニ依リ不愉快ナル感情ヲ以テ別レタリ尚滞在中「ウェルフネ」代表「ユーリン」トハ屢々会见シタルガ彼ハ東支鐵道還附問題ニ関シ最初彼ハ「カラハン」宣言(本年往電第一二二一号)ハ実行的「プログラム」ヲ有シタルモ自分ハ(不明)声明ニ付必ズシモ実

行ノ義務ナシ如何ニ民主化シタル露國ト雖モ支那側ノ要求ニシテ相当理由アルニ於テハ之ヲ容ル可キモ露國ノ利益ハ主張セザル可カラズ(脱?)本問題ハ全露政府確立ノ曉ニ条約ノ改正ニ依リ行ハザル可カラズ我窮地ヲ利用セントスル支那側ノ運動ニ対シテハ充分考量ヲ加ヘテ対応セザル可カラズ加之本件鐵道ニ関シテハ露支兩國間ノミナラズ「ボーツマス」条約締結ニ際シ表示シタル日本ノ利害關係ニモ留意ヲ要ス可キ旨ヲ力説シタルニ遂ニ彼モ之ニ同意シ其旨當州臨時及「ウエルフネ」並ニ莫斯科政府ニモ打電シタリ尚自分ハ同人ニ対シ今後対支問題ニ関シ交渉ノ場合ニハ極東ノコトニ最モ緊密ノ關係ヲ有スル日本代表者タル小幡公使ノ意嚮ヲ伺フベキ旨勸告シ置キタリ云々

右「ブンビアンスキー」ノ談話ガ何レノ程度迄事實ナルヤハ別トシ「ユーリン」ノ使命ガ支那トノ通商開始ヲ目的トシ其ノ対償トシ鐵道又ハ同地帯ニ關スル露國ノ特權ヲ支那側ヘ譲リ渡ス意圖アルヤト察セラルルニ付此ノ際我方ニ於テ相当警戒ノ要アリト思考ス

九七九 九月二十五日 在浦潮松平政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ルガ如キコトハ断ジテ之ナク且斯クノ如キ留保ハ先例アリト本年四月「ニコリスク」浦潮間還附ノ際四月二十三日ノ會議ニ於テ大井司令官ノ与ヘタル声明中将来鐵道従業員ガ日本軍ガ鐵道協約ニ基キ要求スル軍事輸送ヲ直接間接ニ妨害スル如キ場合ニハ日本軍ハ自衛上已ムヲ得ズ必要ノ処置ヲ執ルコトアルベシトノ留保ヲ為シタルニ委員会ハ満足ヲ以テ認メタル旨四月二十三日ノ會議録ニ記載シアルコトヲ指摘シタル処「スミス」ハ前回ノ宣言トハ文句ノ異ナル趣ヲ主張シタルニ付本官ハ其ノ趣意ハ全然同ジコトヲ責任ヲ以テ声明スル旨及「スミス」ノ抗議ハ徒ニ上ゲ足取リニ傾キ事ヲ殊更紛糾セシムルモノナル旨ヲ述ベタルガ結局英國委員ノ仲裁ニ依リ單ニ右書翰ノ受書ヲ送ル際委員会ニ於テハ右文句ヲ前顧四月二十三日ノ声明ト同ジ意味ト解スル旨附記スルコトトシ「スミス」ハ其ノ提議ヲ撤回セリ

猶「スミス」ハ散会后右文句ガ余リニ露骨ナル為其ノ儘米國政府ニ取次グコト能ハザルニ付一応司令官ノ意嚮ヲ確メムトシタルモノニシテ輸送終了後還附セララルコトニ対シテハ何等異議ナキ旨弁解シ居リタリ

ウスリー鐵道南部線返還ニ関スル大井軍司令官ヨリノ通告末尾ノ留保ニ対シ鐵道委員会米國委員抗議ノ件

第三八三号 (九月二十六日接受)

貴電第一六五号ニ関シ
軍司令部幹部ハ該鐵道返還ヲ主張シ軍司令官モ亦還附ニ異存ナカリシ処偶々哈府撤退ノ決定アリタルガ為右撤退輸送ノ完了ヲ待ッテ返還スルコトトシ本月二十二日附ヲ以テ司令官ヨリ聯合鐵道委員長ニ宛右ノ趣ヲ通告シ猶右書翰ノ末尾ニ将来鐵道ノ修理運行ニ関シ期待ノ如ク実行セラレズ為ニ我軍ノ存立ヲ危クスル如キ場合ニハ再び我軍ノ手ニ依リテ実行スルノ已ムナキニ至ルベキコトヲ留保ストノ文言ヲ附シタル処九月二十四日鐵道委員會ニ於テ「スミス」ハ右最後ノ文句ニ苦情ヲ述べ大井將軍ハ聯合機關ヲ信用セザルヤ本委員會各都ハ今日迄聯合軍撤退輸送ニ関シ營テ失敗シタルコトアリヤ鐵道運行ガ適當ニ行ハルルト云フコトハ何人ガ判断スヘキヤ等数多ノ皮肉ナル質問ヲ並ベ委員會ハ大井司令官ニ質問書ヲ發スベキコトヲ提議シタルガ本官ハ之ニ反対シ日本軍ハ故意ニ事ヲ設ケテ再び鐵道ノ運行ヲ握

九八〇 十月一日 在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道庁組織變更ノ場合ニ於ケル附屬地帯
内邦人ノ權益擁護ノ為ノ対策ニ付稟申ノ件

第六四〇号 (十月二日接受)

在支露國公使領事ノ待遇停止ト同時ニ露國租界東支鐵道附屬地等ニ関シテハ主管各部及各部長官ニ於テ之ヲ辦理スルコトトナリタル以上支那ハ東支鐵道庁ノ組織ニ變更ヲ加フルニ至ルヘク若シ同庁土地(脱)ノ事務モ支那ノ意向次第ニテ処理セララルニ至ラハ日本人カ附屬地内ニ於テ土地ヲ商租スルコト不能トナリ其他各般ノ事項ニ関シ邦人ノ蒙ル不便少カラサルヘク從ッテ邦人發展ニ對スル一大打撃ト思考セラルルニ付是非トモ鐵道庁ノ業務方針ニ變更ヲ求ササル様致度ク之カ為ニハ支那政府ヲシテ附屬地内ニ於テ從來各國人ノ享有シタル權利ニ何等影響ヲ及ホスカ如キ施設ヲ為ササル可キ旨約東セシムルコト必要ナルヘク支那側ノ与フル保証ノ如キ事實上信頼スルニ足ラストセハ第三國ヲシテ露國カ支那ニ於テ有スル總テノ條約上ノ權利利益ヲ保護セシムルノ外ナカルヘシ國際管理モ可ナルヘキモ若シ有力ナル一國力之ニ反対スルトキハ成立シ難キニ付露國ノ同盟

国タル仏国ニ信賴スルコト適當ト思考ス
右北京松平へ転電セリ

九八一 十月四日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道事務処理方法ニ関シ中国政府及露亜

銀行代表者間ニ暫行協定成立ノ件

第一〇五八号 (十月四日接受)

露亜銀行当地代表者十月四日本使ヲ来訪シ東支鐵道事務処理方法ニ関シ支那政府トノ間ニ暫行協定成立シ去ル二日交通總長ト契約ニ調印ヲ了シタル旨ヲ内報シ契約ノ要点ハ東支鐵道理事ノ定数ヲ十人トシ露支兩國ヨリ各其半数ヲ選出シ重要ナル事項ニ付テハ理事七人以上ノ同意アルコトヲ要ストセルニ在リテ之ニテ露国正当政府成立迄支那ノ勝手ナル庄迫ヲ防止スルコトトナリ鐵道実務ノ処理ニ付テハ從來ト大差ナク宋小濂ヲ督辦トシ露国人ヲ Vice-President トシ更ニ二人ノ Assistant 〆置キ露国側ヨリ de Hoyer 支那側ヨリ王景春出テ之ニ当リ各部ノ長ヲ露国人トシ支那人ノ次席ヲ置クコトトナリタル次第ナリ双方ノ理事ハ近ク株主總會ヲ開キ選任ノ筈ナリト云ヘリ

哈爾濱、長春、上海、松平へ転電セリ哈爾濱ヨリ齊々哈爾濱ニ長春ヨリ吉林へ郵送セシメ漢口、天津、奉天、濟南へ郵送セリ

九八二 十月五日 南滿洲鐵道株式會社東京支社ヨリ
外務省宛

中国ニ於ケル東支鐵道ノ利権回収運動ニ對シ

我政府ノ採ルヘキ措置ニ関シ内申ノ件

東支鐵道ニ関スル内申

東支鐵道經營ノ狀況ハ最近ニ至ッテ異常ナル變化ヲ實驗セリ今春來擲頭シ來レル支那側ニ於ケル利権回収ノ運動ハ着々トシテ其ノ効ヲ奏シ該鐵道ニ對スル支那ノ勢力カ日ニ月ニ増大シツツアルハ各方面ノ情報等シク是ヲ証明スル所ナリ殊ニ最近ノ情報ニヨレハ支那政府ハ該鐵道ニ関シ露亜銀行トノ間ニ新契約ヲ締結シ強固ナル基礎ノ上ニ該鐵道ノ監督權ヲ確立セント企圖シツツアルモノノ如シ然モ此ノ如キ利権回収運動ノ背後ニハ支那政府ノ傭聘セル英米人アルコトハ疑フノ余地ナク支那カ日本ヲ除外シテ専ラ其ノ計画ノ實現ヲ努メツツアルハ最近ニ至ルマテ哈市ニ駐在セシ聯合國鐵道管理事務局日本委員代理金井參事ノ報告ニヨルモ極

メテ明瞭ナリ是レヲ我カ滿蒙經營ノ立場ヨリ見ルニ東支鐵道管理ノ実權カ何国ノ手ニ歸スルヤハ頗ル重大ナル意義ヲ有スルモノニシテ殊ニ我滿鉄會社カ日本ノ滿蒙經營ニ関シ特種會社トシテノ使命ヲ遺憾ナク遂行センカ為ニハ今日ノ時機ニ於テ政府当路者カ相當ノ処置ヲ取ラルルノ必要ヲ痛感スルモノナリ故ニ茲ニ敢テ所見ヲ開陳シテ政府当路者ノ採択ヲ乞ハントス幸ニ吾人ノ進言ニシテ日本ノ對支政策(殊ニ對滿蒙政策)上多少ノ暗示ヲ提供スルヲ得ハ吾ニ我カ滿鉄會社ノ光榮ノミニ止ラス

第一 東支鐵道回収ニ関シ支那政府ニ對シ日本ヲ除外スヘカラサルコトヲ警告シ同時ニ日本政府ハ独力ニテ該鐵道ノ財政援助ヲ引受クルノ誠意ヲ声明スルコト

抑々東支鐵道ハ世界戰開始以後ニ於テ頗ル日本ノ援助ヲ必要トシタルカ殊ニカノ「ロマンノフ」政府及「ケレンスキ」政府時代ニ於テハ日本ヨリ多大ノ資金ヲ得テ其ノ經營ヲ完全ナラシムルヲ得タルヤニ承知ス故ニ現今支那政府カ其管理ノ実權ヲ回收セントスルニ当リテモ是レヲ日本ニ諮ラスシテ单独若クハ他ノ二三国ト事ヲ共ニセントスルハ頗ル不条理ナル処置ナリト言ハサルヘカラス此際我カ日本カ

支那政府ニ對シテ右ノ投資果シテ事實ナラシニハ之ヲ理由トシテ日本ノ利益ヲ無視スヘカラサルヲ警告スルハ極メテ正当ニシテ公明ナル對策ナリト信ス而シテ特ニ支那側カ日本ヲ除外シテ東支鐵道管理ノ実權ヲ回収セントシツツアル現在ノ機會ニ於テ時ヲ移サスシテ此舉ニ出ツルハ我カ對支政策上新生面ヲ開拓スル所以ナリ然モ此ノ警告ハ素ヨリ警告ノタメノ警告ニ非スシテ同時ニ滿幅ノ誠意ヲ以テ日本カ支那ニ對シ東支鐵道ノ財政的援助ヲ為スノ前提タラシメサルヘカラス蓋シ支那ノ東支鐵道ニ對スル實力漸次増大シツツアル今日ニ於テ徹底的ニ之ヲ抑止センコトハ到底不可能ナルノミナラス其ノ勢ヲ援助スルコトニヨリテ日支利害ノ共通ヲ計リ依テ相互ニ親善スルノ第一歩ヲ實現スルハ將來滿蒙經營上ノ必須事タリ故ニ支那政府ニ對スル警告ハ東支鐵道ニ関スル財政的援助ノ提議ト不可分のニ行ハレサルヘカラス

第二 東支鐵道南部線軌間狹小ヲ滿鉄會社ヲシテ東支鐵道會社ニ交渉セシムルコト

東支鐵道南部線カ滿鉄ノ死命ヲ制スルモノナルコトハ既ニ我會社カ本年六月外務陸軍當局ニ進言セル「北滿洲ニ於ケ

ル露支勢力ノ消長ト日本ノ対応策」ニ於テ詳述セル所ナリ
今若シ我カ日本政府ニシテ上述第一ノ警告及ヒ提議ヲ支那
政府ニ対シテ為ス所アラハ是レニ相応シテ我滿鉄会社カ東
支鐵道会社ニ対シテ東支南部線ノ軌間ヲ狭小ニスルノ提議
ヲ為スヘシ軌間狭小ニヨリ哈市ヨリ奉天ヲ經テ北京又ハ大
連迄直通運輸ヲ行フノ利益ハ日支兩國ニ取リテ頗ル大ナリ
是レ又先ニ政府当局者ニ提出セル「北滿洲ニ於ケル露支勢
力ノ消長ト日本ノ対応策」ニ詳述セル所ニシテ東支南線軌条
狭小ノ件ハ純經濟的、運輸交通のノ立場ヨリ主張シ深ク政
治的問題ニ触ルルコトナクシテ東支及南滿兩鐵道会社ノ間
ニ於テ折衝スルヲ賢明ナル方策ナリト信ス又滿鉄当事者ト
シテモ此点ニ関シテハ全力ヲ傾注シテ事ニ当ルノ覺悟ヲ有
スルモノナリ

上記二項ハ現今支那政府ノ東支鐵道實權回收運動熾烈ナル
時機ニ當リ日本ノ対策トシテ最モ緊要ノ事ナリト信ス殊ニ
右第二項ニ就キテハ我滿鉄会社カ特ニ賢明ナル政府当局者
ノ御嘉納ヲ切望スル所ナリ

九八三 十月七日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛 (電報)

テハ至極好都合ナリ

九八四 十月九日 陸軍省ヨリ
外務省宛

東支鐵道問題対策二関スル陸軍省意見通報ノ
件

附記 十月五日附東支鐵道問題ニ対スル方策 (外務省
政務局案)

東支鐵道問題対策

(十月九日接受)

甲、此際支那政府ニ対シ左ノ件ヲ警告声明スルヲ要ス

一、支那政府ニ対シ旧露國ト支那トノ間ニ存在スル滿洲
ニ関スル條約ヲ廢棄シ之カ為メ帝國ノ利害ニ影響ヲ及
ホスカ如キ行動ハ予メ帝國政府ノ諒解ヲ求ムルノ要ア
ル旨ヲ警告ス

二、露國ノ現状ニ鑑ミ權宜ノ処置トシテ支那政府カ単ニ
經濟上ノ見地ヨリ東支鐵道ニ改善ヲ施スコトハ人道上
及世界交通上日本トシテ異議ナキモ該鐵道ハ帝國ノ國
防並國民ノ經濟の生存上特殊ノ關係アルヲ以テ本鐵道
ニ関シ外國ノ投資ヲ仰ク場合ニハ先ツ帝國政府ノ諒解
ヲ求ムヘキヲ要求ス

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九八四

東支鐵道事務處理方法ニ関スル中國政府及露
亜銀行代表者間暫行協定ニ付精細報告方訓令
ノ件

第五六八号

貴電第一〇五八号ニ関シ本件暫行辦法ハ露亜銀行代表者所
言ノ通り支那側ニ於テモ承諾ノ上調印ヲ了シタル次第ナル
ヘキヤ支那側從來ノ態度ニ顧ミ聊カ疑ヲ容ルルノ余地無キ
ニ非ス就テハ可然方法ニ依リ支那側ニ就キ精探ノ上結果電
報アリタシ尚暫行協定ノ内容トシテ貴地發新聞電報ノ伝フ
ル所ニ拠レハ(1)露亜銀行カ商業上ノ機關ニシテ政治的干係
ヲ有セサルコトヲ明カニシ(2)鐵道理事八十名(支露各半
數)七票ヲ以テ多數決トシ(3)運輸部技術部商務部等ノ各部
長ニハ露支各一名ヲ置キ(4)東支鐵道ノ管理權ハ支那側ニテ
之ヲ支持シ統一セル露國政府成立スルヲ俟テ旧條約ヲ改訂
スルコト等ニシテ尚從來支那側ヨリ要求セル五百万兩(七
月二日附政一機密送第八八号參照)ハ鐵道條約ニ照シ之ヲ
交付スヘキコトヲモ承認セルヤノ趣ニテ其内容多少貴電ト
ハ異リ居ル点モ有之ニ付テハ本件協定ノ内容ニ付テモ尚精
細御内探ノ上電報アリタク若シ協定全文入手ノ途アルニ於

三、東支鐵道南部線改訂ニ関スル交渉ハ此際見合ハスヲ
要スヘキモ之カ前提トシテ該南部線ハ一千九百十六年
日露兩政府間ニ於テ露國政府ハ松花江陶賴照駁以南ノ
線ヲ日本政府ニ讓渡スル協定成立シアリテ日本政府ト
極メテ密接ナル關係ヲ有シアルヲ以テ支那カ露國ノ無
政府狀態ニ乘シ日本ノ諒解ヲ得スシテ本鐵道ノ事相ヲ
變セントスルモ日本政府ハ之ヲ承認セサルヘキヲ声明
ス

乙、右第二項ニシテ實現セラルル場合ニハ現ニ實施セラレ
シツアル東支及西伯利橫断鐵道監督案ハ自然之下相容レ
ザル結果ヲ招致スヘキヲ以テ之ヲ撤廢スルヲ要ス

(附記)

十月五日附東支鐵道問題ニ対スル方策 (外務省政務局案)

内 容 要 約

(一)列國トノ協調方策

(1)借款團利用案

(2)列國政府協定案

(4)東支西伯利鐵道ニ関スル既存取極ノ利用

(四)日英米仏支五國協定新訂案

(二)露支兩國ニ対スル方策

(1)露国反過激派側中心主義

(2)勞農政府中心主義

(3)日支合辦案

(4)支那側正当希望支持案

附 鐵道理事庁ヲ本位トスル過渡的辦法

東支鐵道問題ニ対スル方策

(一)西伯利ノ開放及開發ハ日本ノ經濟的生活ヲ安定ニスル所以ノ一タルノミナラス新露國ノ誕生ニ對シテモ豊富有力ナル資本機能ニヨリテ鐵道ヲ改善シ西伯利ノ開發ヲ促進シテ在西伯利露國人ノ一般の幸福ヲ維持増進スルノ方途ヲ講シ置クコト隣接國タル帝國ノ特ニ考慮スヘキ所ナリト謂フヘク右等ノ見地ニ立脚セハ「ラモン」ヨリ提言シ來レル所謂對支借款團ノ利用ニ依ル列強共同投資經營案ノ如キハ主義トシテ良策ノ一ナリト謂ハサルヘカラスシテ寧ロ我方ヨリ進ムテ之ヲ提唱シ他列強ヲ勸誘誘致スルノ態度ニ出ツルトキハ西伯利出兵ニ關聯シテ内外特ニ露國人ヨリ我方ノ受ケタル誤解乃至不利益ナル批判ヲ一

掃シ彼我ノ關係ヲ良好ナラシムルノ効果ヲモ齎スヘク旁々考量ニ入ルルノ価値無シトセスト雖モ現下ニ於ケル我國國際關係其ノ他内外機微ナル關係ヲ顧慮スルトキハ渺クトモ借款團ヲ活用シテ殆ト固定のニ東支鐵道國際管理ノ色彩ヲ強クスルノ案ハ寧ロ体能ク之ヲ拒否シ且別ニ之ニ代フヘキ方案ヲ提議スル方得策ナルニ似タリ

(二)只右拒絕ノ理由ヲ那邊ニ求ムヘキヤニ就テハ最も慎重ナル考慮ヲ要シ會々列國ヲシテ日本ノ北滿ニ於ケル利權主義乃至侵略主義ノ包藏ヲ疑ハシムルカ如キ結果トナルニ於テハ我國國際的地位ニ甚大ナル累ヲ及ホスノ虞無シトセス旁々之カ拒斥ノ理由トシテハ

(1)對支借款團ノ規約ト東支鐵道ノ性質トノ關係ニ鑑ミ借款團投資案ハ不合理ナルコト

(2)支那政府ヲ通シテ之ニ投資セハ前項ノ不合理ヲ免ルヘシトノ見解無キニ非サルヘシト雖モ現ニ同鐵道ニ對シ支那側ノ色彩著シク濃厚トナレルモ右ハ刻下ノ支露關係ヨリ生シタル一大變態ニシテ此際一ニ右異常ノ事態ニ立脚シテ支那政府ヲ通シテ東支鐵道ニ投資スルハ同鐵道ノ純然タル支那化ヲ公認スルニ均シキ結果ニ陷ル

ヘク如斯ハ列國トシテ篤ト慎重ノ考慮ヲ要スヘキコト

(3)東支及西伯利橫斷鐵道監督ニ關スル聯合國特別委員會技術部ニ於ケル我方代表者ノ所見ニ拠レハ現下東支鐵道ノ運行並財政狀態ハ寧ロ頗ル良好ニシテ特ニ此際列國ヨリ大規模ノ援助乃至救済ヲ必要トセサル趣ニシテ旁々對支借款團ノ如キ大袈裟ナル機關ノ活動ニ俟タサルヘカラサル必要ヲ認メ難キコト

等ヲ拳クルコト然ルヘシ

或ハ東支鐵道カ南滿洲鐵道ト相俟テ我隣接地方ノ重要ナル交通線タリ從テ其ノ運命如何ハ我國防及國民ノ經濟的生存ニ至大ノ影響ヲ及ホスコト明白ナルヲ指摘シテ借款團投資拒斥ノ一理由ト為シ得サルニ非サルモ右ハ結局前述ノ如ク各國ヲシテ日本ノ利權獲得の乃至侵略の野心ヲ疑惧セシムルノ虞アリ如斯ハ特ニ我國國際的地位極メテ微妙ナルモノアル折柄大局上頗ル不利ナル形勢ヲ誘致シ寧ロ東支鐵道ニ對スル我緊密ナル關係ヲ維持セムトスル本來ノ目的ト全然相反撥セル結果ヲ齎スニ至ルコト無キヲ保シ難キニ付此際如上ノ理由ニ立脚セサル方得策ナリト信セラル

(三)然ラハ借款團投資案ニ代ユヘキ方案如何ヲ攷フルニ東支鐵道財政援助ニ關スル已存協定ノ擴充更正ヲ提議スルカ如キハ正ニ當面ノ實際の便法タルヲ失ハス而シテ之カ實行ニ關シテハ

(1)西伯利及東支鐵道監督ニ關スル已存取極ヲ基礎トシ場合ニ依リテハ地方ノ交通問題即チ交通保全及財政援助等ノ見地ヨリ新ニ協定内容ノ修補ヲ行ヒ以テ同取極ノ活用ヲ期スルコト之ニシテ事實同取極活用ノ提議ハ極メテ自然的ニテ且何レノ方面ニ對シテモ正々堂々之ヲ提唱スルヲ得ヘキノミナラス之ヲ機トシテ事實上日本ノ立場及關係ヲ有利ニ導クノ利便無キニ非サルヘシ

(2)更ニ本年七月「モリス」大使カ幣原大使ニ對シ西伯利鐵道運行取極ニ準シテ別ニ日米英仏支ノ五國間ニ取極ヲ設ケテ東支鐵道ノ運行及資金融通ノ途ヲ講スルコト得策ナル旨ヲ提言シタルハ本件ニ關スル好箇ノ緣由タルヘク即チ之カ實行上第一米國ノ贊同ヲ期待シ得テ實現比較的容易ナリト認メラル(在米大使來電第三八三三號)

(四)當面ノ財政援助ノ方策ヲ前述ノ如ク多少列國共同ノ色彩ヲ帶ハシムルハ仍テ以テ日本ノ公正ナル立場ヲ明カニシ

現下ノ國際關係ニ順応スル所以ノ一タルノミナラス一面ニ於テハ英伊兩本國政府ノ對勞農政府通商開始問題ニ關スル態度ニモ鑑ミ右通商開始後ニ於ケル英伊兩國等ノ西伯利ニ對スル態度ヲモ顧念スルトキハ獨リ日本單獨ノ利益ノミニ立論シテ方策ヲ樹立スルハ甚タ危險ナルヲ看取スルヲ得ヘシ

然レ共東支鐵道カ日本ニ取り極メテ緊密ナル關係ヲ有スル現実ノ事態ハ特ニ絮說ヲ要セサル所ニ係リ我方ニ於テ同鐵道ニ對スル緊密特異ノ關係ヲ維持確保シ以テ他面同鐵道カ他外國ノ勢下ニ歸スルカ如キ事態ヲ誘致スルヲ防止スルハ差當リ頗ル緊切ニシテ然ラヌムハ唯ニ南滿鐵道ニ對シ重大ナル影響ヲ及ホシ南滿ニ於ケル我經濟的關係ニ惡變化ヲ來スノミナラス延テ我政治的地位ニモ關係スル所大ナルモノアリ從テ東支鐵道ノ現狀確保ニ關スル當面ノ財政援助ノ問題ニ止マラス進ムテ根本的ニ同鐵道ニ對スル我方ノ關係ヲ樹立スルノ方途如何ヲ攻究セサルヘカラス

(四)而シテ右方針ノ確立ニ當リ第一考慮セサルヘカラサルハ同鐵道ニ對スル支那側ノ利權回收の態度ハ已ニ抑圧スヘ

ニ於テハ斯ル施設ノ保持ヲ希望スルモノニ非ス寧ロ之ヲ支那側ニ還附セムトスル意向ヲ有スルニ鑑ミ本案ノ実行ハ幾多困難ノ伴フヲ免レス

(3)東支鐵道管理權カ全ク支那側ニ移屬セサルニ先チ我方ニ於テ適當ナル方法ヲ以テ速カニ露亜銀行ト交渉ノ上南滿洲鐵道ヲシテ先ツ株主ノ委任ヲ受ケ其ノ管理權ヲ掌握セシメ然ル後支那側トノ妥協ヲ計リ以テ日支合辦ヲ以テ同鐵道經營ノ任ニ當ラシムルコト

右ニ關シテハ二個ノ困難ヲ認メサルヲ得ス即チ露亜銀行ト東支鐵道トハ全然別個ノ人格者ニシテ東支鐵道問題ニ關シ露亜銀行ト交渉スルモ多大ノ効果ヲ期シ難キノミナラス元來東支鐵道ノ株主カ露支兩國人ニ限ルヘキハ鐵道條約ノ規定スル所ニシテ他三國カ其ノ他位ヲ占ムルカ如キハ殆ト不可能ナリト謂フヘク況ムヤ更ニ一步ヲ進メテ日支合辦ノ実ヲ擧ケムトスルカ如キハ日本自ラ露支條約ノ破壞ヲ試ムルモノナリトノ論難ヲ免レ難カルヘシ

(六)以上叙述スル所ニ拠リ前記各案ヲ採行スルノ得策ナラサル所以ヲ究明シ得ヘシ然ラハ實際ニ於ケル形勢ノ推移ニ

カラサル自然ノ歸趨ニ屬シ現ニ鐵道理事庁ニ於ケル實權益々支那側ニ移リツツアルハ現実顯著ナル事實ニシテ此ノ的確ナル事態ヲ無視スルヲ得サルコト之ナリ右ノ見地ニ基キ試ミニ我對東支鐵道方策ニ關シ從來唱道セラルル考案ヲ列擧スレハ

(1)露國反過激派側援助方針ヲ執ルコト

右ハ自然ノ歸趨タル支那側目下ノ鐵道回收の態度ニ逆行スルモノニシテ我方ト支那側トノ一般關係ヲ不良ナラシメ支那側排日運動ヲシテ一層激成セシムルノ機會ヲ与フルノミナラス一面ニ於テハ自然東支及西伯利鐵道問題ニ關スル各國ノ協調的精神ニ反戾スル結果トナルヘク列國ニ對スル我國國際信義ヲ失墜シ他面露國他派団体及民衆ノ反感ヲ招クニ至ルコト無キヲ保セス

(2)勞農政府承認ノ機ニ於テ鐵道ノ買収、借款乃至交通改善ノ方法ニ依リ我方トノ關係ヲ密接ナラシムルコト

右ハ獨リ現ニ支那ノ同鐵道ニ對スル實力ヲ無視シ獨リ支那ノミナラス列國ヲシテ我野心ヲ疑懼セシムルニ過キサルノミナラス元來同鐵道ハ前露時代ニ於ケル極東侵略ノ一機關トシテ設立セラレタルモノニテ勞農政府

徴シ且日本ノ對支對露方針ニ鑑ミ更ニ比較的欠点尠キ方策ヲ稽フルニ

「(1)露國ノ現狀ニ照シ同國トシテ之ヲ忍ブノ已ムヲ得サル程度ニ於テ支那側カ東支鐵道ニ就キ自己ニ有利ナル形勢ヲ作ラムトスルニ對シテハ日本ニ於テ好意的援助ヲ与フルト共ニ純然タル交通上ノ機能ヲ發揮セシムルノ方面ヨリ南滿鐵道トノ關係ヲ緊密ナラシムルニ努ムヘク且差當リテハ(2)之カ暫行辦法トシテハ東支鐵道理事庁ヲ相手トシテ廉價売却又ハ売却代金等ノ方法ニ依リ石炭必要物資ヲ供給シ又必要アルニ於テハ貨車客車貸与ノ方途ヲ講シ以テ鐵道ノ營業ヲ補助ス」

ルノ方針ヲ執ルノ外無カルヘシ

(四)蓋シ前項(1)ノ実行ニ付テハ鐵道自体ニ對シ直接我勢力ヲ及ホスコトヲ得サル憾アルノ外若シ之カ措置ヲ慎重ニセスムハ東支鐵道ニ對スル日本ノ野心ヲ云為セシムルノ虞無キニ非スト雖モ翻テ考察スルトキハ

(イ)露國ノ現狀ニ顧ミ同國トシテ之ヲ忍ブノ已ムヲ得サル程度ニ於テ支那側カ事實上東支鐵道ニ勢力ヲ増シ殊ニ尠クトモ露支合辦ノ実ヲ擧クルノ方法ヲ講セムトスル

ニ對シテハ之ヲ阻止スルコト能ハサルヘシ

(四)已ニ一言シタルカ如ク元來東支鐵道ハ露國ノ極東侵略政策ノ機關トシテ施設セラレタルモノニシテ支那カ条約明文ノ範圍内ニ於テ之ヲ回收セムトスルハ支那側トシテハ寧ロ正當ナル希望ト謂フヲ妨ケス且又右回收ノ希望ハ支那ノ南北ヲ分タサルモノト認メラルルニ付日本ニ於テ之ヲ支持スルハ支那國民ノ正當ナル希望ハ率先助力セムトスル我方已定ノ方針ニ合致スル所以ニシテ一ハ以テ日支ノ關係ヲ改善スルニ資スルコト尠カラサルヘシ

(ハ)日本トシテ正當ナル支那側ノ覺醒運動ヲ助勢シ其ノ國民ノ幸福ヲ増進シ光輝アル發達ヲ遂ケシムルコトニ力ヲ致スハ畢竟日支兩國ノ共益共存ノ本義ヲ完ウシ彼我共ニ其ノ利福ニ浴スル所以ナリ曩ニ津浦鐵道北段ニ對スル独逸權利処分ノ問題ニ関シ日本ハ支那ニ對スル公正共益ノ方針ニ則リ支那側ヲシテ之ヲ回收セシムルト共ニ日本トシテハ津浦鐵道ト山東鐵道トノ聯絡ヲ完全ニスルノ方途ヲ講スルニ止メムコトニ廟議決定ヲ見タルコトアリ東支鐵道問題ニ関シテモ亦右ノ見地ヨリ解

決スルコト大局上極メテ有利ナリトス

(ニ)我方特ニ南滿鐵道トノ關係ヲ緊密ナラシムル具體的ノ方法トシテハ東支南線ニ於ケル軌道ノ改築又ハ車輪ノ改造ニ依リ南滿東支兩鐵道ノ交互ノ直通運輸ヲ實行シ以テ或ハ哈爾濱大連若クハ釜山間ノ直通列車ノ運輸ヲ實行スルカ如キ或ハ國際交通會議ノ決議又ハ其ノ精神ニ準拠シ交互聯絡ノ途ヲ講スルコト等はニシテ如斯ハ純然タル交通機關ノ發揮ヲ目的トシ世界交通ノ改善ニ資セムトスルニ外ナラサル次第ニ付我立場ハ中外ニ對シ何等憚ルコトナク堂々主張スルヲ得ヘク東支鐵道ニ對スル我政治上乃至軍略上ノ野心ヲ疑ハシムルノ余地無カルヘシ(本件ノ實行ニ就テハ我技術部委員ヲシテ理事庁當局ニ開談セシムルコトモ一策ナルヘキト同時ニ他面支那側トノ間ニ了解ヲ遂ケシムルコトモ必要ナルヘシ)

(ホ)或ハ(一)支那援助ノ方針ニ出ツルノ一方(二)軌道改訂ヲ画スルカ如キハ(一)ハ独リ支那ヲ利スルニ止マリ日本ハ殆ト之ヲ拱手傍觀スルコトナルヘク又(二)ニ至テハ實ニ日本ヲ益スルニ過キサル以上支那ヲシテ之ヲ承諾セシ

ムルニ困難ナルヘシトノ說無キニ非サルヘキモ右ハ已ニ前段所說ノ如ク東支鐵道ノ維持改善ハ即チ日支兩國共存共益ノ本義ヲ全ウシ彼我共ニ其ノ利福ニ浴スル所以ナルト同時ニ將來ニ於ケル日支兩國關係ノ良好ナル進展ニ貢獻スル所鮮少ナラサルヘク又軌道ノ改訂ハ即チ交通機能ヲ發揮スル所以ニシテ進ムテハ北京トノ直通列車ノ運輸其他滿鮮ニ於ケル運輸ノ聯絡ヲ實現シ得テ之ヲ經濟的及專門的見地ヨリ見ルモ日支共ニ其利惠ヲ享受スルヲ得ヘク要スルニ同鐵道ニ對シ利害相通スルコト極メテ著大ナル日支兩國力同鐵道ノ健全ナル經營ト運行ノ改善ニ依リ相共ニ受クルノ利益自カラ大ナリト謂ハサルヘカラス

(イ)若シ夫レ暫行辦法トシテ東支鐵道理事庁ヲ相手トシ石炭其他必要物資ノ供給ニ依テ鐵道ノ營業ヲ補助スヘシト為スハ理事庁カ会社ノ代表機關トシテ其ノ中堅ヲ為ス以上之ヲ當面ノ相手方トスルハ我方トノ間ニ於ケル關係ヲ緊密ナラシムルノ見地ヨリ謂フモ有効ナルノミナラス一ハ表面露支ノ一方ニ偏スルノ嫌ヲ免レ而モ現ニ理事庁ニ於ケル支那側ノ實力優勢ナルニ顧ミ事實上支那側ニ好意的

援助ヲ与フルノ結果ヲ齎スヘシ(尚本件物資供給ノ方法ヲ執ルトキハ前段說述セル列國協調ノ精神ニ牴觸スルノ非難ヲ免ルルコトヲ得ヘシ)

(ウ)要スルニ前述支那側正當希望支持案ハ独リ支那ノ方面ヨリ見テ自然ノ趨勢ニ適応スル所以ニシテ露國ト雖モ刻下ノ事態ニ顧ミ飽迄モ之ヲ排斥スルコトナカルヘク殊ニ勞農政府ノ態度カ東支鐵道ニ對シ執着心ナキコトハ前所言ノ通りニテ更ニ之ヲ日本側ヨリ見ルモ東支南滿鐵道ノ交通關係ヲ完全ニスルニ於テハ事實上東支鐵道ヲ利用シ經濟上北滿經營ノ利惠ニ浴スルコトヲ得ヘク必スシモ幾多ノ危險不利ヲ冒シテ進ムテ東支鐵道ヲ我勢下ニ収ムルカ如キ措置ヲ敢行スルノ要ナク將又之ヲ各國側ノ立場ヨリ見ルモ本案ノ如ク大体公正ニシテ一般ノ利益ヲ齎ス方策ニ付テハ特ニ故障アルヘシトモ思考セラレサルコトハ正ニ本案ノ推奨スヘキ所以ヲ説明スルモノナリ若シ夫レ本案ノ如ク支那側ニ有利ナル形勢ヲ促進スルノ方途ニ出ツルニ於テハ東支鐵道ト同一地位ニ在ル南滿鐵道ニ影響ヲ及ホスコトナキヤトノ虞ヲ抱クモノ無キニ非サルヘシト雖モ元來支那側ノ措置ハ全ク露國現下ノ國情ニ胚胎スル

異常ノモノニシテ之ヲ以テ直ニ南滿鐵道ニ影響ヲ及ホスモノニハアラサルナリ(尤モ右ニ就テハ充分ノ注意ヲ払ヒ適當ノ機會ト方法トニ依リ支那側ヲシテ望蜀ノ口実ヲ与ヘサル様措置スルコト得策ナルヘシ)只之カ実行ニ付テハ

(イ) 一時的ノ小策ヲ弄シ為ニ日本ノ露國又ハ支那ニ対スル野心ノ發現ヲ以テ目セラレ却テ東支鐵道ニ対スル日本ノ關係ヲ結フコトニ不利ナル狀況ヲ作ラサル様

(ロ) 実行ニ急ナル余リ又々中央或ハ地方ニ於ケル支那武斷派側援助ノ実ニ陥リ為ニ本問題ヲ逸スルノミナラス益々日支關係ヲ悪化セサル様

(ハ) 支那側ト露國側トノ意思ノ疏通ニモ留意シ兩者合意ノ行動トシテ措置セシムル様

注意スヘキコト固ヨリ肝要ナリトス

(ケ) 將又過渡の辦法トシテ前述理事庁本位案ニ依リ石炭其他物資ノ供給ニ依テ其營業ノ遂行ヲ援助スルハ東支鐵道ノ不定ナル刻下ノ狀態ニ処スル所以ニシテ同時ニ漸次東支鐵道ニ対スル我方トノ關係ヲ緊密ナラシムルノ便法ナリ尤モ之カ実行ニ當リ支那側重役トノ間ニ密接ナル接觸ヲ

スルコト

但シ總辦ハ自己ノ表決權ノ外ニ賛否同數ノ時決定權アリ尤モ如何ナル事項モ鮮クトモ七名ノ賛成ナケレハ実行スルコトヲ得ス

(四) 東支鐵道ノ權利義務ハ今後全ク商業の性質ヲ有シ支那政府ハ何時ニテモ如何ナル種類ノ制限の措置ヲ執ルノ權利ヲ留保スルコト

尚附屬交換文書中ニ(一) Vice-President 及 Vice-President Adjoint ノ二ト前電ノ通り Directeur 一名 露國人一名 Vice-Directeur ハ支那人一名タルコト竝ニ運輸、技術、土木、經理各部主任ハ露國人、次席ハ支那人タルコト、但シ理事會ガ新ニ必要ト認ムル地位ヲ設クルトキハ支那人ヲシテ之ニ當ラシムルコト(二) 十月中ニ北京ニ株主總會ヲ開キ今後毎年開クヘキコト(三) 支那政府ハ支那人ニ同鐵道株二百五十万留讓渡方ニ関スル要求未タ決着ニ至ラザルニ顧ミ將來更ニ本問題ヲ提議スルノ權利ヲ留保スルコト(四) 露重銀行ハ純然タル商業の性質ノ株式會社ニシテ露國ノ如何ナル政權ニモ關係ナキコト(五) 東支鐵道ニハ支露兩國以外孰レノ國民モ何等ノ關係 (intérêt) ヲ有セザルコトヲ声明シアリ

保持シ且尠クトモ形式上ハ理事庁ヲ一体トシ之ヲ目標トスヘキコト勿論ナリトス

九八五 十月九日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道ニ関スル暫行辦法ノ主要点ニ付報告

ノ件

第一〇七七号 (十月十日接受)

貴電第五六八号ニ関シ暫行辦法ハ支那側ノ調印ヲモ了シタルモノニテ調印者ハ交通總長ナリ尚露重銀行ヨリ内密入手セル契約ノ最主要ナル諸点左ノ如シ

(一) 支那政府ハ露國正式政府ヲ支那カ承認シ之ト協議ヲ為スニ至ル迄姑ク東支鐵道ノ最高管理 (haute direction) ヲ司ルコト

(二) 東支鐵道會社ハ同鐵道條約第十二条ノ規定ニ從ヒ其ノ運轉開始ノ際支那政府ニ支払フヘカリシ五百万兩竝ニ一九二〇年迄年六分及同年以後五分ノ利子ヲ同鐵道買戻ノ際又ハ其ノ以前支那政府ニ支払フノ義務ヲ認ムルコト但シ右ハ同鐵道動產不動産全部ヲ担保トス

(三) 支那政府ハ總辦及四名ノ支那人理事ト共ニ理事會ヲ組織

以上ハ公表セラレザル様致シ度シ契約及附屬書類一併郵送ス

奉天、哈爾濱、長春、齊々哈爾及松平へ郵送セリ

九八六 十月二十七日 内田外務大臣ヨリ
在中國小幡公使宛(電報)

東支鐵道株主總會ノ模様精探電報方訓電ノ件

第六一〇号 至急

本月二十八日貴地ニ於テ東支鐵道株主總會開催セラルベキハ殆ト確實ト認メラルル処右會議ノ推移ハ極メテ注目ヲ要スル次第ナルニ付テハ素ヨリ御如才無カルヘキモ會議ノ經過等御精探ノ上電報アリタシ尚哈爾濱發貴官宛電報第二一七号ニ拠レハ「スチーヴンス」ニ於テハ此ノ際技術部解散ノ意図ヲ有スルニ非ズヤト推セラルトノコトナル処我方ニ於テハ少クトモ今日ノ処東支西伯利亞兩鐵道管理ニ関スル取極ハ依然有効ニ存続セルモノト認メ居ル次第ニ付右御舍置アリタシ

註 在哈爾濱松島總領事發小幡公使宛第二二七号(同總領事十月二十二日發外務大臣宛第六六六号)省略セリ

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九八七

九八七 十月二十七日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

東支鐵道ヘノ英米共同投資熱ノ動向ニ關聯シ
米國側ノ对中国接洽ノ有無査報方訓電ノ件

第六一三号

紐育借款団會議ニ於ケル東支鐵道問題討議ノ経緯ハ已ニ貴地正金支店ヨリ御聴取ノ儀ト思考スル処英米側ノ同鐵道投資熱ハ予期以上ニ旺ニシテ若シ日本側ニ於テ協同参加ヲ躊躇スルニ於テハ英米及場合ニ依テハ仏國ヲモ誘致シ右三国側ニテ之カ実行ヲ期セムトスル意気込ナルヤニ推想セラレ旁々米英ノ東支鐵道ニ対スル計策如何ハ極メテ注目ニ値スル次第ナル処最近支那新聞紙ノ伝フル所ニ拠レハ駐支米國公使ハ交通部カ露亜銀行トノ間ニ東支鐵道ニ関スル協定ヲ遂ケタルヲ遺憾トシ米國側從來ノ好意ヲ忽諸ニ付シタルハ頗ル誠意無キモノト認ムル旨ヲ指摘シテ支那側ニ抗議ヲ提出シタリトノコトナルカ右新聞紙ノ報道ハ未タ遽カニ信ヲ置キ難キモ最近米國側ニ於テ本問題ニ関シ支那側トノ間ニ何等接洽ヲ試ミタルコト無キヤ可然方法ニ依リ精探ノ上結果電報アリタキト同時ニ本問題ニ関スル英米側ノ態度ニ関

ハ露國側ヲ以テセル情態ニ付目下仏國ノ保護ヲ受クルコトトナリ居レル次第ナリトノコトナリ右ノ通りニテ貴電御來示ノ計画ハ一先ツ立消トナリタルモノト認ムルモ或ハ何時再ヒ進議セラルルコト無キヤ保シ難ク且ハ本件計画ハ予テ御申越ノ同銀行株券買収ノ問題ト關係アリ旁々今後ノ推移ニ付テハ此上共御注意ノ上參考トナルヘキ事項電報アリタシ

九八九 十月三十日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国政府東支鐵道ニ関スル暫行協定公表ノ件

第一一四七号 (十月三十一日接受)

十月三十日ノ政府公報ヲ以テ東支鐵道新契約及附屬文書一切ヲ公表セリ全部郵報

九九〇 十一月三日 内田外務大臣ヨリ
在中國小幡公使宛(電報)

露亜銀行ヲ日仏露支四國合辦ト為ス案ニ関スル在仏國露亜銀行關係者ノ示唆ニ付通報ノ件

第六二五号

貴電第一一二〇号ニ關シ其後在仏大使來電ニ拠レハ最近露一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九八九

九八八

シテハ今後共特ニ御留意ノ上參考トナルヘキ事項隨時電報アリタシ

九八八 十月二十八日 内田外務大臣ヨリ
在仏國石井大使宛(電報)

露亜銀行ヲ仏國籍ニ變更スル計画ノ推移ニ付

注意シ報告スル様訓電ノ件

第八二四号

貴電第一五三九号ニ關シ在支仏國公使館員及露亜銀行支店長ノ我公使館員ニ対スル談話ヲ綜合スルニ巴里ニ於テ露亜銀行ヲ仏國籍ニ變更セムトノ議アリタルハ事實ニシテ右ノ動機ハ曩ニ過激派ノ勢盛トナルヤ露亜銀行中露國以外ノ地ニ在ル事業ヲ一括シテ仏國籍ヲ有スル仏亞銀行ナル新銀行ニ讓渡スル形式ヲ取り一時仏國ノ保護ニ依リ過激派ノ毒手ヲ免レ置キ露國ノ事態復旧スルヲ俟テ再ヒ之ヲ露亜銀行ノ事業ニ引戻サムトスルニアリ爾來内議大ニ進行ヲ見タルモ英國側債權者ノ反對ノ為挫折シ今ヨリ約一ヶ月前同計画案ハ全然放棄セラルルニ至レル次第ニシテ仏支合同等ノコトハ当初ヨリ全然問題トナリタルコト無シ但シ露亜銀行ノ資本ハ其ノ百分ノ六十五ヲ仏國ニ仰キ支那側百分ノ二其ノ余

亜銀行關係者ハ我大使館員ニ対シ本件露亜銀行ヲ仏國籍ニ變更セムトスル計画ハ立消トナレル旨ヲ内話シ且本件ニ就テハ仏國外務省ニ於テモ日本ノ参加ヲ希望シ居ルニ付寧ロ日本側ヨリ進ムテ仏國政府ニ対シ投資ノ意嚮ヲ通シ同銀行ヲ日仏露支四國合辦ト為スノ考察ヲ提議シテハ如何仏國側ニ於テ右提案ニ賛成スヘシト信スヘキ理由アリト述ヘタルニ付我館員ヨリ日本側ヨリ進ムテ右ノ如キ提議ヲ試ムルカ如キハ甚タ考慮ヲ要スル問題ナルモ若シ仏國側ヨリ日本政府ヘ同様ノ提案ヲ為ス意嚮アルニ於テハ之ヲ取次クコトニハ異存無キ旨答ヘタル処尚外務省側トモ打合セ何分ノ回答ニ及フヘシトテ引取りタル趣ナリ御含迄

註 十月二十一日小幡公使發外務大臣宛第一一二〇号ヲ省略セルガ該電ノ内容ハ前掲内田外務大臣發在仏石井大使宛第八二四号ニ援用セラレ居ル在中國仏國公使館員及露亜銀行支店長ノ談話ヲ報告セルモノナリ

九九一 十一月三日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

中国政府及露亜銀行間東支鐵道新契約送付ノ件

九九〇 九九一

一一三三

附 記 右新契約ノ重要点摘訳

公第三五三号

(十一月九日接受)

大正九年十一月三日

在支那

特命全權公使 小幡酉吉(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

往電第一一四七号十月三十日ノ政府公報公布ノ本契約及附屬文書別紙^(註)ノ通り及送付候也

註 別紙本契約及附屬文書(漢文)ヲ省略ス但シ右別紙ノ重要点摘訳ヲ附記トシテ左ニ掲載ス

(附 記)

東支鐵道新契約ノ重要点摘訳(註 外務省保官作成ノ仮訳文ナリ)

統東清鐵道管理契約

緒 言

支那政府ハ

一、支那政府ハ華俄道勝銀行ト東支鐵道合辦建造契約ヲナシ庫平銀五百万兩ヲ以テ株式ヲ得光緒二十二年巳ニ營業ヲ開始セリ

二、而シテ東支鐵道会社ノ支那政府ニ対スル負債五百万兩ハ現在元利ヲ合セテ銀一千二百万兩ニ達シ尙支那政府

リ北京ニ於テ統東支鐵道契約ヲ訂定ス

ソノ條款左ノ如シ

第一条

東支鐵道会社(以下会社ト称ス)ハ本契約捺印ノ後ニ支那政府ニ交附スヘキ款項ハ同鐵道債券ヲ以テ払込ム可シソノ款項左ノ如シ

甲、原契約第十二条ニヨリ同会社カ鐵道竣工營業開始ト同時ニ支那政府ニ納付スヘキ庫平銀五百万兩

乙、前項五百万兩ニ対シ毎年納付スヘキ利息、運転開始ノ

日ヨリ起算シ会社規則第十六款ニヨリ毎年六分計算ス並ニ右利息ニ対スル利息千九百二十年ニ至ルモノ

一千九百二十一年以後ハ総テ前項(甲)(乙)ノ款項ニ対シテハ毎年利息六歩ヲ附スヘク每半年計算交付ス、此ノ項ノ債權額ハ支那カ鐵道ヲ買収スルトキニ至リテ清算シ或ハ同買上価額中ヨリ扣除計算スルモ可ナリ
会社ノ動産及不動産ハ第一抵当トシテコノ項ノ債務ヲ担保ス

第二条

会社理事九人ノ中ニ支那政府ハ支那人理事四人ヲ特派スル
一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九九一

ハ之ニ対シ補助ヲナシタル款項ニ対スル債權ヲ有ス
三、然ルニ今ヤ露國ハ政治紊亂シ同鐵道ノ管理、秩序維持ノ能力ヲ有セス

四、而モ支那政府ハ領土ニ対スル主權ノ關係上該会社ノ管轄地域ニ於ケル治安、公共ノ交通、鐵道財産ノ保護ソノ他一切ノ秩序維持等ノ責ニ任セサル可カラサル等上述ノ理由ニヨリ道勝銀行ト契約ヲ統訂セサル可カラサル理由アリ

是ヲ以テ支那政府ハ

甲、応ニ露國政府ニ代ッテ執行ス可キ該鐵道契約及現行規則ニヨル各項ノ職權並ニ

乙、光緒二十二年訂定ノ東支鐵道合辦契約及会社ノ各規則書中ニアル支那ノ享有ス可キ權利並ニ支那ノ國家固有ノ各利益ヲ行使ス可キ事

ヲ除ク外特ニ本契約ヲ統訂シテ之ヲ遵守セントス

茲ニ民國九年十月二日即チ西曆一千九百二十年十月二日ニ於テ交通部ハ支那政府ヲ代表シ、北京道勝銀行(以下銀行ト称ス、而シテ原契約ノ華俄道勝銀行及以後改組セラレタル同行ヲ含ム)ハ道勝銀行本店ヲ代表シテ雙方ノ同意ニヨ

事ヲ得、而シテ該理事タルモノハ株主タルト否トニ拘ル事ナシ

第三条(省略)

第四条

支那政府ハ監查局員五人中ニ支那人監查員二人ヲ特派スルヲ得、局長ハ五人中ヨリ選舉ス可ク必ス支那人タルヲ要ス

第五条

同鐵道管理ノ便益ノ為ニ総テノ高級職員及所屬役員ハ露支人ヲ並用スル事トシ、之ニ対シ公平同等ノ待遇ヲナス

第六条

今後会社ノ有スヘキ權利及職務ハ総テ敵ニ商業上ノ範圍内ニ制限シ一切政治事項ニ干与スルヲ得ス
支那政府ハ同会社ニ対シ嚴重取締ヲナス

第七条

凡ソ光緒二十二年七月二十五日即チ西曆一千八百九十六年九月二日訂定ノ東支鐵道露支合辦契約ニシテ本約契ト抵触セサルモノハ有効ナリ

本契約ハ仏支兩文ヲ以テ各二部ヲ作ル但シ仏文ヲ主トス
中華民國九年十月二日即西曆一千九百二十年十月二日北京

ニ於テ訂定ス

道勝銀行代表（即チ原訂契約ノ華俄（露支）銀行及以後改組ノ銀行ヲ包括） 捺印

契約立合人

支那政代府表

交通部

契約立合人

九九二 十一月十三日

在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

東支鐵道新契約急遽調印ノ内幕東支鐵道露国

人理事人選ノ事情等ニ関スル露国公使館書記

官ノ内話等報告ノ件

第二二〇一号

（十一月十三日接受）

往電第一一八六号ニ関シ

今回選挙ノ露国側顔触ハ果シテ露国側ニ取り満足ナルモノナリヤ否ヤ十一月十二日本使露国公使館書記官「グライー」(Grave)ニ面会ノ序ニ質問シタル処同人ノ謂フ所ニ依レバ初メ「ホルワット」「ド、ホイヤ」「ウストロゴフ」等ニ対シテハ支那政府側ニ於テ同人等カ政治上ニ深キ關係アリトノ理由ノ下ニ極力反対シタル次第ナルモ今回選挙セラ

英国代理公使ガ外交総長ヲ訪ヒ同鐵道改良ノ為新借款団ヨリ投資ヲ受クルノ得策ナルヲ陳説シタルニ驚キ斯クテハ支那政府ハ其ノ既定ノ計画ニ反シ早晚國際管理ノ申込ヲ受クルニ至ルベキヲ予断シ急速ニ調印ヲ決行スルニ至レル次第ナリ此ノ急速ナル支那政府ノ決定ニ対シテハ其後米国公使外交総長ヲ訪ヒ米国ニ一言ノ挨拶モナク此ノ決定ヲ為シタルヲ詰リタル趣ナルモ後ノ祭ニテ英米トシテハ遂ニ手ヲ束ヌルノ已ムナキニ至リタル訳ナリ結局露支双方トモ東支鐵道ノ将来ニ対シテハ各胸ニ一物アリテ互ニ画策シ来リタルモ同鐵道ヲ國際管理ニ変ズルノ端緒ヲ開クコトハ双方トモ永久ニ其ノ独手ニ之ヲ収ムルノ機会ヲ失スルノ点ニ於テ利害關係ノ一致ヲ見ル不利益ヲ想像シ露支共同管理ヲ永遠ニ繼續スルモ尚國際管理ノ面倒ナルニ勝レリト為スニ至レル次第ナリト述ベタリ貴電第六一〇号ヲ以テ御尋ね越シノ技術部存否ニ対スル「スチーヴンス」ノ意向ニ関シテハ「グラーベ」ハ何等特ニ承知スル所ナキモ「スチーヴンス」ハ勿論是レガ存続ヲ希望シ居ルモノト推定セザルヲ得ズト云ヘリ

將又貴電第六四三号^(註2)英国代理公使ガ東支鐵道ニ対スル日本一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九九三

レタル露国側理事ハ多クハ元ト銀行業其他ノ実業ニ従事シタル者ナルヲ以テ支那側ノ政治關係云々ノ主張ニ抵触セザルノミナラズ孰レモ確實ナル人物ナルガ故ニ露国ノ利益ヲ無視シテ支那政府ニ致サル様ノ懸念之ナク露国公使館トシテハ此ノ人選ニ満足シ居レリト答ヘタル上支那政府ガ極力「ホルワット」等ニ反対シタルハ強チ彼等ガ支那側願便ノ下ニ動カザル為ノミナラズ當時「ユーリシ」等ガ彼等ノ政治的色彩ノ濃厚ナルヲ言ヒ立テ喧シク之ニ反対シ支那政府ヲツツキタル為旁支那政府ハ斯ノ如キ態度ニ出ヅルノ已ムヲ得ザリシ次第ナリ之ヲ要スルニ支那ガ「ホルワット」過去ノ功勞ヲ認メ東支鐵道顧問ニ任用シ之ニ其ノ哈爾濱ノ旧官邸ヲ贈与スルニ至レルハ露国側ニ取りテハ大成功ニシテ多少「ユーリシ」一派ノ鼻ヲ明カシタルノ覬アルノミナラズ哈爾濱方面ニ於ケル反過激派ニ精神上大ナル氣勢ヲ添フルモノナリト称シ更ニ十月二日調印ノ新協定成立ニ至レル内幕ノ事情ヲ語り元來該協定ノ趣旨ニ対シテハ初メヨリ支那政府ニ於テ強固ニ反対シ来リタルニ拘ラズ突然其ノ態度ヲ一変シ急ニ之ニ調印シタルハ「スチーヴンス」入京後東支鐵道ヲ國際化スルガ如キ進言ヲ為シタルト調印ノ前日

ノ優越權ヲ云々セルヤニ関シテハ事機微ニ涉リ之ヲ確查スルコト容易ナラザルモ同代理公使ガ右ノ如ク新借款団ノ投資ヲ懲進シ國際管理ト為スノ得策ナルヲ外交総長ニ吹込ムニ当リ支那側ヲ動カス論拠トシテ或ハ此ノ如キ事ヲ述ベタルニアラズヤト察セラルモ角東支鐵道ニ対スル協同投資ニ関シ「オルストン」ガ曾テ本使ニ述ベタル意見在貴地英國大使ヨリ閣下ニ対シ為シタル申出其他最近「アッジス」ガ紐育會議ニ持出セル意見等ヲ綜合スレバ英國側意思ノ在ル所ハ頗ル明瞭ニシテ此際英國代理公使ガ本件ニ関シ日本ノ為有利ナル言説ヲ支那当局ニ対シ試ミ（脱）想像スルヲ得ズ

奉天、哈爾濱、上海、長春、齊々哈爾、政務部ヘ郵送セリ
註1 十一月九日小幡公使發外務大臣宛電報第一一八六号省略セルガ右ハ十一月六日ノ東支鐵道株主總會ニ於テ決定セル中國人露国人重役ノ氏名等ヲ報告セルモノナリ

2 十一月十日内田外務大臣發小幡公使電報第六四三号省略セル右ハ英國公使ガ中國外交次長ニ対シ東支鐵道ニ関スル日本ノ優先權ヲ云々セリトノ情報ニ付内探ヲ訓令セルモノナリ

九九三 十一月二十五日

露重銀行重役ド、ホイヤー
小田切横濱正金銀行取締役 会谈

東支鉄道ノ經理、重役會議ノ表決方法、中国側ノ横暴等ニ付ド、ホイヤー氏談話ノ件

(大正九年十一月二十五日)

一、東支鉄道五分利付二千万海關兩借款ノ件ニ関シ右二千万兩ハ東支鉄道社債形式ニ於テ内約一千万兩ハ支那政府ニ又内約二百万兩弱ハ中国銀行及交通銀行ノ借款返付ノ為ニ銀行ニ償還スルモノトシテ処理スル筈ナリ事情右ノ通りナルヲ以テ同鉄道会社ニ於テ該債券ヲ米國其ノ他ノ地方ニ於テ公募スルノ考ナキハ勿論ナリ

(千九百二十年十月二日ノ協定第一条ニ基ク社債ニ対スル複利ハ支那側六厘ヲ主張シ東支側四厘ヲ主張シ結局五厘ニ落付キタル様記憶ストノコトナリ)

二、東支鉄道収支決算ノ標準トナルヘキ貨幣ハ銀トナスコトニ決定シ来年一月一日ヨリ実行スルコトニ取極メラレタリ中国交通兩銀行ノ紙幣ハ鉄道ニ於テ之ヲ受入ルルモ受入当日直チニ兩銀行ニ就キ正貨ニ兌換スル筈ニシテ若シ兩銀行兌換不可能ノ場合ニハ翌日ヨリ之ヲ受入レサル決心ナリ鉄道收入取扱銀行ハ無論露亜銀行ナリ

三、東支鉄道重役會議ハ七名重役ノ同意アルニアラサレハ

可決セサルコトニ決定セリ支那側ニ於テハ五名ノ重役ヲ有スルモ之ニ露國側二名ノ加ハルニアラサレハ何事モ決定スル能ハス此組織ハ露國側ニ於ケル defensive measure ナリ

四、露國重役ノ中三名ハ露亜銀行ノ使用人ニシテ他ノ二名ハ東支鉄道ノ技術部ニ關係アリシ者ナリ自分(ド、ホイヤー)ハ株主ノ代表者トシテ哈爾濱ニ常駐シ右五名ノ重役ヲ背後ヨリ操縦スル筈ナリ

五、今回ノ東支鉄道暫行協定ニ於テ支那側ヲシテ完全ニ東支鉄道カ露亜銀行ノ所有ナルコトヲ認メシメ得タルハ不幸中ノ幸ナリ

六、日本兵ノ東支鉄道ノ沿線ニ駐屯スルコトハ露國側ニ取リ唯一ノ安全機關トシテ依頼スル所ナリ若シ日本兵ニシテ撤退スルナランニハ自分等ハ直チニ同処ヲ引揚クルコトナルヘシ實ニ支那側ノ横暴ハ名状スル能ハサル程度ニ在リテ百弗ノ賄賂ヲ送ルトキハ支那官憲ハ何人ヲモ捕縛スル有様ナリ自分ハ幸ニ日本官憲ノ保護ヲ受ケ居ルヲ以テ安心シテ同地ニ赴クヲ得ル次第ナリ

九九四 十二月二日

在奉天赤塚總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英米仏日四國協同ノ對東支鉄道融資案ノ日本

拒絕說ニ付問合ノ件

第四七一號

(十一月三日接受)

英米仏日協同シテ東支鉄道ニ financing ヲ行ハントノ提議ヲ英米仏側ヨリ日本ニ申入レ我ハ是ヲ拒絕シタリトノ話アル処右ハ事實ナリヤ御回示煩ハシ度シ

九九五 十二月六日

内田外務大臣ヨリ
在奉天赤塚總領事宛

東支鉄道經營ノ國際化ニ我方反對ノ事由回示

ノ件

亜一機密送第二九號

東支鉄道問題ニ関スル件

本件ニ関シ貴電第四七一號ヲ以テ御申越ノ次第有之候処元來御承知ノ通り東支鉄道ノ運行經營ニ付テハ客年二月訂立ノ鐵道管理協定ニ基キ聯合國委員會技術部委員ニ於テ東支鐵道片ヲ援ケ且之ガ財政的援助ニ付テハ主トシテ日米兩國ニ於テ之ガ実行ヲ考慮シ來レル次第ナルガ近來西比利亞北

一五 シベリア及東支兩鉄道管理ニ関スル交渉一件 九九四

九九五

滿ニ於ケル政局ノ推移並ニ支那側ノ同鐵道回收運動ノ進展ニ伴ヒ寧口同鐵道ノ經營ヲ國際化セントスルノ計画專ラ英米ノ政府筋並ニ資本家間ニ内々進行シ來リ現ニ本年五月在本邦英國大使ハ本國政府ノ訓令ニ依リ趣ヲ以テ一試案トシテ對支新借款團ニ於テ東支鐵道ニ投資經營セシメムトスル議ヲ提言シテ帝國政府ノ所見ヲ需メ來レルニ付當時同大使ニ對シテハ新借款團ニ於テ東支鐵道ニ出資經營スルハ該借款團ノ性質及露支兩國ノ干係等ニ顧ミ果シテ実行ヲ期シ得ヘキヤ否ヤ頗ル考究ヲ要スヘク然ルニ一方西比利亞及東支ノ兩鐵道ニ関スル管理協定ハ猶有効ニ存続スト認メラルルヲ以テ寧口右協定ニ基キ鐵道ヲ運行セシムルノ方針ニ出ヅル方然ル可キニ非ズヤトノ私見ヲ述ベ何分ノ儀ハ追テ更ニ確答ニ及ブベキ旨挨拶シ置キタル次第ニ有之候然ルニ其後八月ニ至リ米國資本家亦我資本家ニ對シ略々前記同様ノ提案ヲ齎シ更ニ露國側ニ於テモ在本邦露國大使ヲ通ジテ同鐵道經營ノ為メ國際機關ヲ設置セムコトヲ提案シテ帝國政府ノ意見ヲ糺ス等東支鐵道ノ國際化就中鐵道ヲ寧口新借款團ノ經理ニ移サムトスルノ企画漸ク進捗シ竟ニ過般紐育ニ於テ開催セラレタル新借款團代表者會議ニ於テモ再ビ本問題

討議セラレ英米仏三国資本団ハ差当リ一千万弗投資ニ異存無キ旨ヲ決議スルニ至リ独リ日本資本団ハ東支鐵道ノ性質並ニ借款団ノ本旨等ニ顧ミ借款団ヨリ投資スルガ如キハ聊カ筋違ヒナルコトヲ指摘シ旁々本件投資問題ハ寧ロ關係政府間ノ処置ニ委スベキ事項ト思考ストノ趣旨ニ抛リ留保の聲明ヲナシ置キタル次第第二有之候

本件從來ノ經過ハ大体前頭ノ通りニ有之候処東支鐵道投資又ハ之ガ經理ノ問題ヲ对支借款団ヲシテ処理セシムルハ殆ド固定のニ東支鐵道國際管理ノ色彩ヲ濃厚ナラシムルモノナルノミナラズ一面ニ於テ支那ニ対スル財政援助ヲ目的トスル借款団ヲシテ本来ノ露國ノ政府事業ヲ遂行スベキ露國鐵道ト認メラルル東支鐵道ニ投資セシメムトスルガ如キハ借款団ノ本旨ニ反シ不合理ト謂ハザルベカラズ其他何レノ方面ヨリ考フルモ借款団利用案ハ我方ニ於テ贊同ヲ躊躇セザルヲ得ズ旁々此際別ニ帝國政府ニ於テ東支鐵道ニ対スル根本方針ヲ確定シ以テ英米其他關係列國政府ト協商ヲ試ミ度目下折角考慮中ニ有之候本件今後ノ成行ハ更ニ通報ニ及ブベク候得共右不取敢御含迄申進候也



尚「レオノフ」ハ「ワンダーリップ」利權問題ニ関シ吾人ハ飽迄抗議スベシ但シ「ソビエツト」政府ハ齊多政府領域内ノ利權ニ関シ処分權ヲ有セス且斯ル広大ナル利權ノ割讓ハ慎重審議スルヲ要スレバナリト云ヒ話頭ヲ軋ジテ憲法會議後ハ「クラスノスチョコフ」失脚シ「ニキホロフ」一派之ニ代ルニ至ルヘシト信ズト語レリト云フ

右外國投資ニ関シテハ当地商工業者ニ伝達済ナリ

九九七 十二月七日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

旧セメノフ及カッペリ兩軍將卒ノ浦潮方面へ

ノ鐵道輸送ニ関シ露國側ト中國軍憲トノ意見

対立シ紛糾ノ件

第五〇六号 (十二月八日接受)

曩ニ滿洲里ニ於テ武装解除セラレタル旧「セメノフ」「カッペリ」軍將卒ハ其ノ家族ト共ニ目下続々東支線ニ抛リ当地方面ニ向ケ輸送中ニテ本輸送ハ支那側及東支鐵道側トノ諒解ノ下ニ主トシテ避難民ノ名ヲ以テ実施セラレシツアルモノノ如シ既ニ滿洲里ヲ出發シタルモノ三十余列車此ノ内哈爾濱ヲ通過東進セルモノ二十余車「ボグラニチナヤ」ニ到

一五 シベリア及東支兩鐵道管理ニ関スル交渉一件 九九七

九九六 十二月六日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

極東露領へノ外國資本導入ニ関シ齊多政府工

業大臣ニ内定ノレオノフノ内話報告ノ件

第五〇二号 (十二月七日接受)

齊多政府工業大臣ニ内定シ近ク赴任セントスル「レオノフ」(元浦潮政府商工部長ニシテ共產黨領袖)ガ十二月四日渡辺ニ内話セル所左ノ通り委細ハ後報ス

極東露領ニ於ケル工業ノ復興發展ハ一ニ外國資本技術員及労働者ノ適宜利用ニ待タザルベカラズトスルハ余ノ持論ナリ之ガ実行ニ関シテハ最初ハ小規模ノ投資ヲ許シ漸次其ノ範圍ヲ拡大セントス場合ニ依リテハ企業ニ全部ノ外國投資ヲ辭セザルベシ原則トシテ投資者ハ何國人タルヲ問ハズ最モ有利ナル条件ノ提供者ヲ歡迎スベキモ場合ニ依リ政治關係ヲ顧念シ特定國例ヘバ日本ニ特典ヲ与フルコトアルベシ我政府ハ外資ニ対シ相当監督スベキモ外國技術員労働者使用ヲ妨ゲズ特許期限ハ二十四年乃至三十年等長期トスベシ而シテ右外國投資ハ憲法會議召集前ト雖モ著々之ヲ許シ憲法會議ノ承認ヲ期ス

着シタルモノ十余列車ニ達シ之カ為「ボ」駅ニ於ケル線路ヲ閉塞スルノミナラス同地附近ニ於テ混亂ヲ惹起スルノ虞アリ烏鉄長官「スベンゲル」等ハ予メ此ノ事アラムコトヲ慮リ客月末我野戰交通部長ニ対シ之カ整理ヲ依頼シ来リタルモ我交通部長ハ本件ハ露國側ニ於テ自ラ之ヲ解決スヘキモノナリトシテ之ニ応ゼザリシガ露國交通部長「シチコフ」ハ軍司令官「ボルジレフ」ニ之カ解決ヲ請ヒ「ボルジレフ」ハ自ラ責任ヲ以テ之ヲ軍事輸送トシテ烏蘇里線ニ受入ルコトトシ之ヲ露國交通部長「シチコフ」ニ命令シタリ「シチコフ」ハ同日之ヲ軍事輸送會議ノ議ニ附シ露國ノ軍事輸送トシテ一日一乃至二列車ヲ標準トシテ之ヲ処理スルコトニ定マリ「シチコフ」ハ「ボ」駅ニ出張シテ本月四日ヨリ之カ実施ニ移リタル処沿海州臨時政府ハ本月五日ノ閣議ニ於テ突然右軍事輸送ヲ否認シタリ然ルニ「ボ」駅ニ出張シタル支那軍憲代表者岳大佐ハ同地ニ於ケル技術部支那委員ノ反對アルニ拘ラス「シチコフ」ニ対シ九日以内ニ十四列車ヲ烏蘇里線ニ廻送スヘキコトヲ強要シ武力ニ訴フルモ之ヲ遂行セムト脅威シアリ

右臨時政府ノ処置ハ烏蘇里線及東支接統地点附近ニ於ケル

交通ヲ杜絶セシムルコトナリ又右支那官憲ノ態度ハ軍事輸送部決議ヲ無視シ鐵道交通ヲ紊乱セシムルモノトシテ兩者孰レモ交通ノ維持上看過スヘカラサル緊切事件ナルニ依リ本官ハ之ヲ当地聯合國鐵道會議ノ議ニ附シ相当ノ措置ニ出ツルヲ必要ト認メ本月八日臨時會議ヲ開カシムルコトトセリ

九九八 十二月十一日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

東支鐵道沿線帝國軍隊撤退要求ノ中国政府公

文ニ対シ回答ノ件

附屬書 十二月九日附外交總長宛右回答公文写

機密第四八二號 (十二月十六日接受)

大正九年十二月十一日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

關係電報

往電第一二六九號

貴電第六九五號

ニ加フルニ哈爾濱以西鐵道沿線ニ於ケル後方聯絡兵撤去以後ニ於テ露國過激派軍ノ後貝加爾及黒竜江州方面ヨリスル北滿ヘノ侵入並之ニ伴フ各種ノ危険益々切迫ノ虞アルヲ以テ之カ防衛ニ遺漏ナカラシムルカ為沿海州ニ在ル帝國駐屯軍ト南滿守備軍トノ聯絡ヲ保持セサルヘカラサル必要上右駐兵ノ已ムナキニ至リタル次第ナル処最近ニ於ケル極東西比利亞ニ於ケル事態ハ沿海州駐屯ノ帝國軍ノ側面ニ對スル危険ノ虞ヲ一層重大ナラシムルモノアリ旁該軍ト南滿守備軍トノ聯絡ヲ緊密ニシ以テ此脅威ニ對抗スルノ必要益々切ナルヲ感セサルヲ得ス殊ニ鐵道東線及南線ノ守備ニ關シテハ貴國側ノ地位ト雖モ客年四月中浦潮斯德ニ於テ決定セラレタル關係國間ノ國際協定ニ基キタルモノニ有之從ツテ該東支線ニ於ケル帝國軍隊從來ヨリノ配置ニ就キ何等其維持ヲ妨ケラルルコトナカルヘキハ言ヲ俟タサル所ニ有之候尚本件ニ關聯シ帝國政府ノ觀ル所ヲ以テスレハ日支兩國ノ等シク危憂シツアル過激派ノ北滿方面ニ對スル脅威並之ニ因ツテ生スヘキ各種危険ハ最近ニ及ヒ愈々之ヲ忽諸ニ附シ難キモノアルヲ認メサルヘカラサル次第ニシテ右ニ對シテハ貴國政府ニ於テモ亦充分之ニ注意セラレンコトヲ希望ス

東支鐵道沿線帝國軍隊撤退要求ニ関スル件
本件ニ關シ左記書類及送付候也

書類要目

十二月九日附外交總長宛回答公文写

本信写送付先

奉天

哈爾濱

長春

浦潮政務部

註 本公信ノ關係電報即チ小幡公使十二月一日發外務大臣宛第一

二六九號及外務大臣十二月三日發小幡公使宛第六九五號ヲ省略セリ

(附屬書)

十二月九日附外交總長宛回答公文写

第二四六號

以書翰致啓上候陳者東支鐵道哈爾濱「ボクラニチナヤ」間並哈爾濱長春間駐兵ノ件ニ關シ十一月十九日附使字第五五號貴公文ヲ以テ御申越ノ趣致聞悉候查スルニ右帝國軍隊ノ駐留ニ就テハ曩ニ本年八月十八日附第一七五號公文ヲ以テ既ニ縷述致置タル通帝國軍隊ノ後貝加爾及黒河方面ヨリ撤退

ル所ニ有之候此段回答得貴意候 敬具

大正九年十二月九日

小幡公使

顔外交總長宛

註 本回答公文文中ニ援用セラレアル十一月十九日附使字第五五號

外交總長公文写(小幡公使ヨリ十一月二十三日附機密第四六

二號ヲ以テ外務大臣ヘ報告)及八月十八日附小幡公使發外交

總長宛第一七五號写(小幡公使ヨリ八月十九日附機密第三三

四號ヲ以テ外務大臣ヘ報告)ヲ省略セリ

九九九 十二月二十日

在ハルビン松島總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

露國ガ條約上東支鐵道及附屬地ニ關シ有シタ

ル權利ニ付クラスノスチヨカフ声明ノ件

第七〇二號

(十二月二十一日接受)

当地新聞ノ伝フル所ニ依レバ「クラスノスチヨカフ」ハ十一月十三日附命令ヲ以テ露國カ條約上東支鐵道及附屬地ニ關シ有シタル權利ハ極東共和國ノ國民ノ所有ニ屬スル旨ヲ發表シ既ニ東支鐵道幹部ヲ任命シタル趣ナリ
北京浦潮斯德ヘ転電セリ

日本外交文書 大正九年 第三冊下卷 終

附錄 日本外交文書 大正九年 第三冊(上下卷)日附索引